

エリトリア国  
除隊兵士の社会復帰のための  
基礎訓練プロジェクト  
終了時評価調査団報告書

平成19年4月  
(2007年)

独立行政法人 国際協力機構  
人間開発部

人間

JR

07-20



エリトリア国  
除隊兵士の社会復帰のための  
基礎訓練プロジェクト  
終了時評価調査団報告書

平成19年4月  
(2007年)

独立行政法人 国際協力機構  
人間開発部



## 序 文

エリトリア国では、30年以上に及ぶ戦乱が続いたため、全国に推定30万人にのぼる兵士がおり、経済・社会復興を妨げる一因となっている。この状況を踏まえてエリトリア政府は、現存するエリトリア国軍の動員解除と社会復帰を実施することとし、2001年に世界銀行の支援を受け、「国家動員解除・社会復帰プログラム委員会（NCDRP）」を設立した。

このような経緯からエリトリア政府は、除隊兵士の社会復帰のための基礎訓練実施を目的とした協力を我が国へ要請してきた。要請を受けてJICAは2005年6月から「除隊兵士の社会復帰のための基礎訓練プロジェクト」を実施してきた。

今般、プロジェクトの終了時評価を行うことを目的として、2007年3月に調査団を派遣し、エリトリア政府や関係機関との間で、プロジェクトの進捗の確認と今後の方向性に関する協議を行った。本報告書は、同調査結果を取りまとめたものであり、今後のプロジェクトの展開に、さらには類似のプロジェクトにも活用されることを願うものである。

ここに、本調査にご協力いただいた内外関係者の方々に深い感謝の意を表するとともに、引き続き一層のご支援をお願いする次第である。

平成19年4月

独立行政法人 国際協力機構  
人間開発部長 菊地文夫



# 目 次

序 文

地 図

写 真

略語表

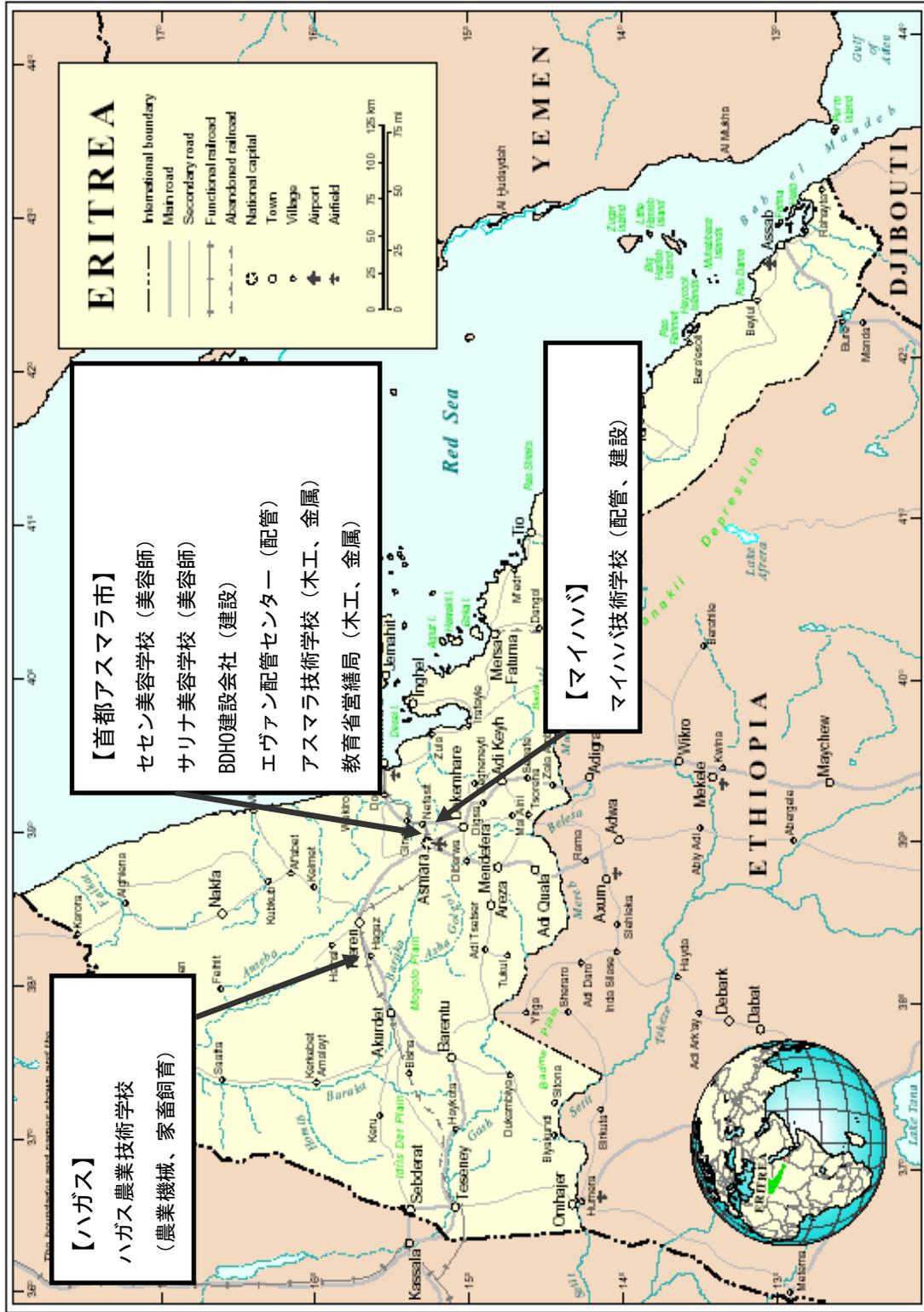
評価調査結果要約表

第 1 章 終了時評価調査の概要	1
1-1 派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成と調査期間	1
1-3 対象プロジェクトの概要	1
第 2 章 終了時評価の方法	2
2-1 PDM	2
2-2 主な調査項目と情報・データ収集方法	3
第 3 章 プロジェクトの実績	5
3-1 現地調査結果	5
3-2 プロジェクトの実績	5
3-2-1 投入実績	5
3-2-2 プロジェクト成果の達成状況	6
3-2-3 プロジェクト目標の達成状況	9
3-2-4 上位目標の達成見込み	10
3-3 プロジェクトの実施プロセス	11
第 4 章 評価結果	13
4-1 評価 5 項目の評価結果	13
4-1-1 妥当性	13
4-1-2 有効性	13
4-1-3 効率性	13
4-1-4 インパクト	14
4-1-5 自立発展性	15
4-1-6 阻害・貢献要因の総合的検証	15
4-2 結論	16

第5章 提言と教訓	17
5-1 提言	17
5-1-1 残りのプロジェクト期間における活動への提言	17
5-1-2 プロジェクト終了後の活動への提言	17
5-2 教訓	17
添付資料	19
1. 調査日程	21
2. 主要面談者	22
3. ミニッツ（英語版）	23
4. 評価グリッド	55
5. 実施訓練コースリスト	75
6. 専門家派遣実績	76
7. カウンターパート研修実績	77
8. 供与機材リスト	78
9. 各訓練コース概要	81
10. 専門家アンケート結果	88
11. カウンターパートアンケート結果	97
12. 訓練生アンケート結果	106

# 地図

(カッコ内はプロジェクトで実施した訓練コース分)





# 写 真



美容師コース実施の様子  
セセン美容学校  
(アスマラ市)

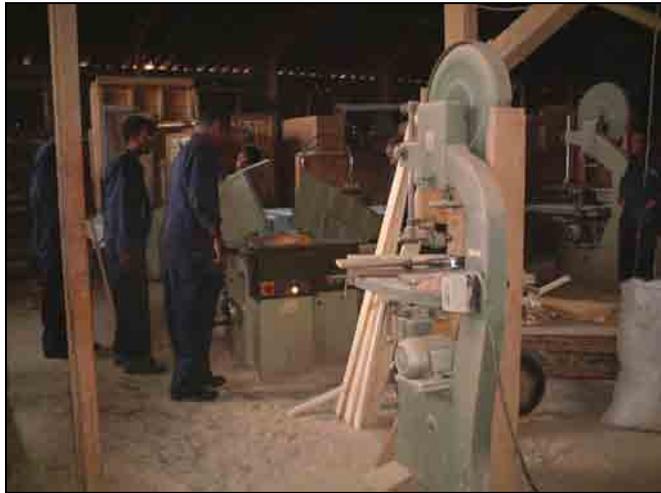


美容師コース実施の様子  
サリナ美容学校  
(アスマラ市)



木エコース実施の様子  
アスマラ技術学校  
(アスマラ市)

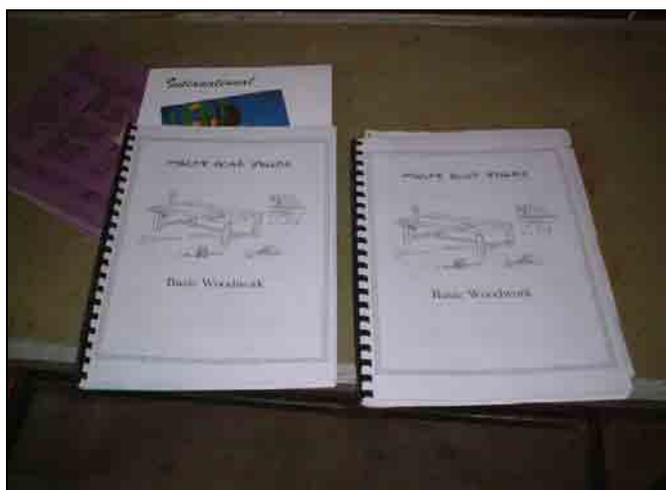




木エコース実施の様子  
教育省営繕局  
(アスマラ市)



金属コース実施の様子  
アスマラ技術学校  
(アスマラ市)



木エコーステキスト



## 略 語 表

略 語	正 式 名	日 本 語
DS	Demobilized Soldier	除隊兵士
EDRP	Emergency Demobilization and Reintegration Project	緊急動員解除・社会復帰プロジェクト
JCC	Joint Coordination Committee	合同調整委員会
MOE	Ministry of Education	教育省
MOND	Ministry of National Development	国家開発省
MOPW	Ministry of Public Works	公共事業省
NCDRP	National Commission for the Demobilization and Reintegration Program	国家動員解除・社会復帰プログラム委員会
NS	National Service	国家奉仕サービス
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
R/D	Record of Discussions	討議議事録
SDC	Skill Development Center	技能開発センター
SMCP	Savings and Micro Credits Program	小規模貸付プログラム
TVET	Technical and Vocational Education and Training	産業技術教育・職業訓練
WB	World Bank	世界銀行



## 評価調査結果要約表

<b>1. 案件の概要</b>	
国名：エリトリア	案件名：除隊兵士の社会復帰のための基礎訓練プロジェクト
分野：平和構築	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：人間開発部第2グループ技術教育チーム	協力金額（評価時点）：163,487千円 （プロジェクト終了までの計画額を含む）
協力期間	(R/D)：2005年6月15日～2007年6月14日
	先方関係機関：教育省 TVET 局
	日本側協力機関：なし
	他の関連協力：なし
<b>1-1 協力の背景と概要</b>	
<p>エリトリアは、エチオピアとの約30年間の独立戦争を経て、1993年に独立したが、1998年から3年間はエチオピアとの国境紛争を経験した。長年の戦争の影響で、エリトリアの政治、経済、社会基盤は依然として脆弱である。エチオピアとの国境画定が難航し軍事費削減が困難な状況で、国家財政も危機的な状況にある。</p> <p>世界銀行を中心とするドナーは、30万人の兵士のうち、20万人の兵士の除隊とスムーズな社会復帰を促進することが社会経済の発展・開発に不可欠であるという認識のもとに、兵士の除隊・社会復帰プログラムに対する支援を表明した。エリトリア政府は2001年から国家動員解除・社会復帰プログラム委員会（NCDRP）を設置し、2002年から開始された除隊プロセスで、2005年6月までに合計約10万4千人の除隊が完了している。除隊兵士のうち、特に若年層は労働の経験がなく、教育も十分に受けていない者が多いため、社会復帰のための訓練は急務となっている。</p> <p>これら除隊兵士の社会復帰支援のため、JICAは2002年10月にプロジェクト形成調査団を派遣し、その後4回の短期専門家派遣と2回のパイロット事業を実施した。2005年1月からは技術協力プロジェクト開始にむけて業務調整員を派遣、2005年6月中旬に討議議事録の署名が行われ、2年間の予定で「除隊兵士の社会復帰のための基礎訓練プロジェクト」が開始された。</p> <p>本プロジェクトの目標は、カウンターパートであるエリトリア教育省（MOE）の産業技術教育・職業訓練（TVET）局とともに、対象地域における除隊兵士が生活向上と社会復帰に結びつく基礎技術を習得することである。そのためのプロジェクト活動として、社会ニーズに合った除隊兵士のための基礎訓練を3地方（アゴルダット、メンデフェラ、アディケ）の技能開発センター（SDC）とその他の周辺地域を対象に実施することが計画されていた。</p> <p>基礎訓練実施に必要なSDCは、エリトリア政府が世銀の資金を活用して改修する計画であったが、大幅に遅延した。これに伴い、プロジェクトは計画を変更し、SDCの代わりに教育省が管轄する技術学校や民間の職業訓練校を活用して、除隊兵士のための基礎訓練コースを企画・実施することとなった。</p> <p>今般、プロジェクト終了3カ月前に終了時調査を実施し、プロジェクト目標や成果の達成度を</p>	

評価するとともに、提言と教訓を取りまとめた。

## 1-2 協力内容

### (1) 上位目標

訓練コースを修了した除隊兵士の社会復帰が円滑に行われる。

### (2) プロジェクト目標

対象地域における除隊兵士が生計向上及び社会復帰に結びつく基礎技術を習得する。

### (3) 成果

- ア. 対象地域の訓練施設またはその周辺地域において、除隊兵士の社会復帰のための基礎技術訓練コースが開発され、実施される。
- イ. 周辺地域の市場ニーズに合わせた訓練プログラムが提供できるよう除隊兵士の基礎技術訓練体制が見直し、評価、改善される。

### (4) 投入（評価時点）

#### 【日本側】

長期専門家派遣	2名
短期専門家派遣	3名
本邦研修	3名
第三国研修（ウガンダ）	4名
機材供与	10,104千円（86,081USD）
ローカルコスト負担	39,416千円（335,796USD）

#### 【エリトリア側】

カウンターパート配置	8名（終了時評価時）
プロジェクトオフィス提供	

## 2. 評価調査団の概要

調査者	団長/総括	山本愛一郎	JICA アフリカ部調査役
	協力プロセス	江崎千絵	JICA ケニア事務所 所員
	協力企画	山田智之	JICA 人間開発部第2グループ技術教育チーム
	評価分析	道順 勲	中央開発（株）海外事業部
調査期間	2007年3月4日～2007年3月23日		評価種類： 終了時評価

## 3. 評価結果の概要

### 3-1 実績の確認

#### (1) 投入

当初計画どおり長期専門家・短期専門家が派遣されたほか、本邦・第三国における研修が実施された。SDC 改修計画の遅延に伴い、当初は投入予定ではなかった基礎訓練機材などを投入し、基礎訓練の実施体制の強化を図った。

**(2) 成果 1 「アスマラおよび対象地域の研修機関またはその周辺地域において、除隊兵士の社会復帰のための基礎技術訓練コースが開発され、実施される」**

プロジェクトは、訓練ニーズ調査を実施するとともに民間の職業訓練校や教育省管轄の技術学校などを活用した訓練計画の作成、訓練生の選定の基準作り、カリキュラム・教材の開発を行い、美容師、建設、配管、農業、金属、木工分野の 23 コースを実施し 454 名に対して訓練を行った。プロジェクト終了までに予定されている訓練コースを合わせると、494 名が訓練を受けることとなり、目標の 400 名（最低 12 コース）を上回る。また、プロジェクトは小規模貸付プログラム（SMCP）と連携した起業を促進し、7 名がプログラム利用により起業している。

**(3) 成果 2 「除隊兵士のニーズ及び周辺地域の市場ニーズに合わせた訓練プログラムが提供できるよう除隊兵士の基礎技術訓練体制が見直し、評価、改善される」**

プロジェクトでは、訓練コースの企画・実施・モニタリングに関する各プロセスを次のように実施しており、それぞれのプロセスを訓練の実施を通じて改善してきた。すなわち、① ニーズ調査による訓練ニーズの把握、② 専門家、教育省、NCDRP 職員による訓練コースモニタリング、③ 電話調査、月報などによる訓練生のコース修了後の就業状況把握である。一方、技能評価システムについては確立されるには至っていない。

**(4) プロジェクト目標 「対象地域における除隊兵士が生計向上に結びつく技術を習得する」**

プロジェクト終了時まで、目標の 400 名を超える 500 名近くの除隊兵士が技能を身につける見通しであり十分目標を達成する。訓練生の修了率は 98.9%と高い。

### 3-2 評価結果の要約

**(1) 妥当性は高かった**

エリトリア政府は 2003 年に緊急動員解除・社会復帰プロジェクト（EDRP）を開始し、30 万人の兵士のうち、20 万人の除隊と除隊兵士の社会復帰を進める計画であった。この計画に沿って 2005 年までに約 10 万 4 千人の兵士が除隊されている。除隊兵士の中には、技能を持たない者が含まれており、これら兵士の社会復帰を目的とした職業訓練の実施は、緊急的に対応が必要なニーズであった。最近においては、除隊兵士の社会復帰が進むにつれて、より広い範囲の人々の能力開発に政府の重点がシフトしつつある。

日本のエリトリアに対する ODA の基本方針には、兵士の動員解除・除隊兵士の社会復帰支援が含まれており、ODA 方針との整合性も高い。プロジェクトのアプローチに関しては、状況に合わせて柔軟に訓練コースを計画・実施してきたことは適切であったといえる。

プロジェクトは訓練コース開発時において労働市場調査を実施しており、受益者である訓練生の訓練ニーズに対応したコースを実施してきている。本終了時評価に際し実施した研修受講生へのアンケート結果では 70.8%の受講生が研修内容に満足している。

## (2) 有効性は満足できる水準

プロジェクト終了時までには 25 の訓練コースが実施され、受講生総数は 494 名に上る見込みであり、目標数の 400 名を上回る実績となる。これまでのところ、受講生のほぼ 100%がコースを修了しており、修了率は高い。研修を修了して 5 カ月以上を経た訓練生を対象とした就業状況調査の結果では、訓練コース修了生の 45.2%が、訓練を受けた分野において就業している。エリトリア経済があまり良好とはいえない状況を考えると、修了生の 2 名中 1 名が関連する分野で仕事を確保していることはプラスに評価すべきであるといえる。

## (3) 効率性は満足できる水準

専門家とカウンターパート対象のアンケート及び聞き取り結果では、エリトリア側と日本側の投入、すなわち、エリトリア側のカウンターパート配置、日本人専門家の派遣、日本側の予算支出などの面で、その量、質、タイミングは概ね適切であった。ウガンダで実施されたカウンターパート研修の内容は大変良く役立つものであった点で高い評価があった一方で、研修内容が集約的過ぎるので期間の延長を求める意見があった。機材調達については、訓練コースで使用する機材の調達が遅れたが、より早い時期に供与されていれば、より質の高い訓練を提供することができ、より効果的だったといえよう。

NCDRP の受講生 1 人あたり月の基準単価 (135 ドル) と本プロジェクトの訓練コースのコストを比較した場合、美容師コースは 105 ドルから 118 ドルの間にあり、NCDRP 基準単価を下回るが、他の分野のコースでは、146 ドルから 293 ドルであり、いずれも NCDRP 基準を上回っている。ただし、本プロジェクトは約 3 カ月で NCDRP による 6 カ月のコースと同じ技術レベルの習得を目的とした訓練を実施していることを考慮し、受講生 1 人あたりのコストで比較すると、プロジェクトの訓練にかかるコストのほうが NCDRP による訓練コストよりも安いといえる。

なお、プロジェクトの直接受益者数は、カウンターパート 8 名と研修受講生 494 名の合計 502 名である。

## (4) インパクト

訓練を受けた除隊兵士の 6 割以上が就職や起業など何らかの経済活動に従事しているが、これらのうち 7 割が訓練実施分野である。低迷するエリトリアの経済状況を考慮すると、プロジェクトが上位目標である除隊兵士の社会復帰に十分貢献しているといえる。ただし、除隊兵士の収入の変化に関する情報は組織的・網羅的な収集がなされていないことから、インパクトの大きさを収入の変化と照らして数量的に評価するのは困難であった。

また、本プロジェクトは、カウンターパートの除隊兵士のための訓練コースの計画、マネジメント、モニタリングに関する能力の強化に寄与している。

最近、教育省は、労働福祉省から特殊ニーズ（障害者、社会的弱者等）を有する除隊兵士 300

名に対する訓練を支援するよう要請を受けるなど、外部の省庁などからの期待が高まっている。教育省においては、本プロジェクトを通じて得られた経験を、教育省の担当である一般向けの職業教育・職業訓練にも活用していく見通しである。

## (5) 自立発展性

### ア. 政策・組織面

エリトリア政府は、除隊兵士の社会復帰を、戦争被災者等の社会復帰や青年層への職業訓練といった課題とともに、国家開発・人的資源開発の視点からとらえなおしつつあり、今後は一般国民（特に若年層）を対象とした教育・訓練に除隊兵士を含める形で対応していく方針である。

### イ. 財政面

プロジェクト終了後も継続的に除隊兵士向け訓練コースを実施するには、教育省と NCDRP とが共同してコース実施の予算を確保することが必要である。NCDRP と教育省が美容師コースの継続を念頭に置いたフィージビリティ調査を実施するなど、本プロジェクト終了までに、NCDRP の予算支出を受けて複数の訓練コースが実施される見込みがあるが、今後のさらなる継続性確保のためには教育省が NCDRP といった他機関から予算を得る必要がある。

### ウ. 技術面

本プロジェクト実施を通じて、教育省、NCDRP 職員の訓練の運営能力は、① 訓練ニーズ調査と訓練コース計画、② 訓練校との訓練実施に関する交渉と契約、③ 訓練コースのモニタリング、④ 訓練コース修了生の就業状況追跡調査、といった点で強化された。教育省は、これらノウハウを一般国民を対象にした教育・訓練に活用していく見通しである。

## 3-3 効果発現に貢献した要因

本プロジェクトでは、SDC の改修の遅延に対応して、民間訓練校や技術学校を活用するよう柔軟な計画の変更を行い、目標以上の除隊兵士に対する技能訓練を提供することが可能となった。

## 3-4 効果発現を阻害した要因

### (1) SDC 改修の遅延

エリトリア側が計画していた SDC 改修の遅延は、これを利用した訓練コースの実施に大きく影響した。SDC 改修が前提となるコースは実施することができず、計画の変更を余儀なくされた。

### (2) 計画段階における活動の設計

「技能アセスメントシステムの構築」は、プロジェクト開始当初は、プロジェクトの一活動として計画されていたが、プロジェクト期間内で取り込まれなかった。これは、システムの概要がプロジェクト計画時に設計されておらず、どのようなシステムを構築するか不明であったことが主な原因であると考えられる。

### (3) カウンターパート機関のキャパシティー

カウンターパート機関である教育省 TVET 局は、除隊兵士を対象とした訓練以外にも多くの業務を抱えており、プロジェクトに十分関わることができたカウンターパート数は限られている。これにより、訓練ニーズ調査や各種調整に時間を要することとなった。このことからいくつかのコースについては、スケジュールの再調整を行う必要があった。

### 3-5 結論

(1) 評価調査の結果、本プロジェクトのプロジェクト目標とアウトプットは、プロジェクト終了時までには達成するものと期待される。したがって、本技術協力プロジェクトは、当初の予定通り 2007 年 6 月 14 日をもって終了する。

(2) 緊急的な兵士除隊・社会復帰が成功裏に進展していることにより、エリトリアにおける重要課題は、緊急的なニーズに対処することから、安定的な開発にシフトしてきている。このような状況下、エリトリア政府が今後焦点を当てるのは、より広い国民一般を対象とする教育や訓練となる見通しである。

### 3-6 提言（当該プロジェクトに関する具体的な措置、提案、助言）

#### 3-6-1 本プロジェクトの残りの期間における提言

(1) プロジェクトを通じて得られた経験を最大限活用するためにも、教育省はプロジェクト期間中に終了後に行う除隊兵士のための訓練計画を作成し、NCDRP を通じて予算を獲得することが必要である。

(2) 訓練が訓練生の生計にどのようなインパクトを与えたかを正確に評価するため、選考や訓練後のフォローアップ調査などを通じて得られた各除隊兵士の社会・経済に関する情報を関係者間で共有することが必要である。

(3) 各コース終了時に実施される小規模貸付プログラム (SMCP) の紹介は、訓練生が SMCP をよりよく理解できるよう、具体的で現実的な情報を含めて実施されることが必要である。

#### 3-6-2 本プロジェクト終了後における提言

(1) 教育省はプロジェクト終了後も主要な省庁として、NCDRP の予算を受けつつ除隊兵士の訓練に引き続き取り組んでいくことが望ましい。

(2) プロジェクトを通じて、収集・保存されている情報は、NCDRP に引き継がれることが必要で、プロジェクトで実施している訓練修了後のフォローアップ調査も NCDRP によって継続されることが望ましい。

### 3-7 教訓（当該プロジェクトから導き出された他の類似プロジェクトの発掘・形成、実施、

運営管理に参考となる事柄)

(1) エリトリア国内に存在する、民間訓練校や技術学校の積極的で柔軟な活用によって、プロジェクト目標を達成することができた。

(2) 教育省、NCDRP、SMCP 及び JICA 間での効果的な連携がプロジェクトの成功の鍵である。

(3) プロジェクト実施までは、6 カ月が訓練の最短期間であると認識されていたが、プロジェクトによって内容が凝縮された 3 カ月の集中訓練コースが導入されたことは、将来本格的に 3 カ月コースを検討するうえでよい経験となった。

(4) ウガンダのナカワ校における第三国研修は、内容面でカウンターパートの評価が高く、これまでの日本の協力によって培われた技術・経験が域内で活用された形であるといえる。



## 第1章 終了時評価調査の概要

### 1-1 派遣の経緯と目的

「除隊兵士の社会復帰のための基礎訓練プロジェクト」は、2005年6月14日に討議議事録(Record of Discussions、R/D)が署名され、2年間の予定で開始された。今回は、プロジェクト終了の3カ月前に終了時評価調査を実施し、主にプロジェクト目標と成果を評価した。

### 1-2 調査団の構成と調査期間

#### (1) 調査団員

	氏名	所属
団長・総括	山本 愛一郎	国際協力機構アフリカ部調査役
協力プロセス	江崎 千絵	国際協力機構ケニア事務所
協力企画	山田 智之	国際協力機構人間開発部第2グループ技術教育チーム
評価分析	道順 勲	中央開発株式会社

#### (2) 調査期間 2007年3月4日から3月23日

### 1-3 対象プロジェクトの概要

本プロジェクトは、エリトリア政府が世界銀行(World Bank、WB)の支援を得て実施する緊急動員解除・社会復帰プロジェクト(Emergency Demobilization and Reintegration Project、EDRP)によって、除隊兵士(Demobilized Soldier、DS)のうち試行的に400名を対象として、彼らが社会復帰するための基礎訓練を実施することを目的とする。

エリトリア政府は、2001年から5年間で除隊兵士30万人のうち20万人を除隊させ、社会に復帰させるEDRPを実施してきた。同プロジェクトは、①動員解除(Demobilization)、②帰還(Insertion)、③社会復帰(Reintegration)から成り、WBが6,000万ドルの貸付を行っている。除隊兵士の社会復帰は、エリトリア関係各省や民間学校による職業訓練などを通じて実施されるが、プロジェクトでは教育省(Ministry of Education、MOE)とともに400名の基礎訓練を試行的に実施し、基礎訓練のニーズ把握、企画、実施、モニタリング・評価を行ってきた。

当初、教育省は、傘下にある3カ所の技能開発センター(Skills Development Center、SDC)をWBの資金を使って改修し、基礎訓練を実施する予定であった。教育省によってアゴルダッド、メンデフェラ、アディケの3カ所のSDCの改修計画が作成され、国家動員解除・社会復帰プログラム委員会(National Commission for the Demobilization and Reintegration Program、NCDRP)の承認を得たが、公共事業省(Ministry of Public Works、MOPW)による改修計画の承認が遅延した。プロジェクトは、SDCの活用に使って、民間職業訓練校や教育省が管轄する技術学校を活用し、基礎訓練を企画、実施してきた。

## 第2章 終了時評価の方法

本調査は「JICA 事業調査ガイドライン—プロジェクト評価の実践的手法」（2004年）に基づいて、プロジェクト終了前3カ月の時点における活動状況とプロジェクト・デザイン・マトリックス（Project Design Matrix、PDM）に記載された指標の達成状況の把握、残りのプロジェクト期間とプロジェクト終了後の活動に対する提言や教訓を導き出すことを目的として実施された。

### 2-1 PDM

プロジェクト形成調査以降、JICAは3度にわたりエリトリアに事前評価調査団を派遣し、プロジェクトにおける活動の詳細をエリトリア政府と検討した。実施協議を経てプロジェクトの枠組みが合意された後、本邦から派遣された運営指導調査において、PDMのドラフトが形成された。PDMのドラフトにおいては、アスマラ市の訓練施設とSDCにおける基礎訓練コースの開発と実施が成果の一つとして明記されており、プロジェクトはPDMに沿って、アゴルダット、メンデフェラ、アディケのSDCの改修を前提とした協力の準備を進める一方、アスマラ市内の民間職業訓練校を活用しSDCに先行して基礎訓練コースを開始した。

その後、SDCの改修が遅延し、2006年11月に開催された合同調整委員会（Joint Coordination Committee、JCC）において、SDCの代わりに教育省直轄の技術学校を活用した基礎訓練の実施が合意されPDMが修正された。

本終了時評価では、JCCで合意されたPDMを用いて評価を行った。なお、2006年11月のJCCにおいて正式に合意したPDMのドラフトからの主な変更点は以下のとおりである。

表1 PDMの改定と主な変更ポイント

項目	PDMドラフト (2005年8月)	PDM (2006年11月)	主な変更点（変更理由）
プロジェクト目標の指標	2007年11月までに、400名の除隊兵士が訓練コースで技能を身につける。	2007年6月までに、400名の除隊兵士が訓練コースで技術を身につける。	11月→6月 (プロジェクト終了時期に合わせた)
成果1	アスマラおよび対象地域のSDCまたはその周辺地域において、除隊兵士の社会復帰のための基礎技術訓練コースが開発され、実施される。	アスマラおよび対象地域の訓練機関またはその周辺地域において、除隊兵士の社会復帰のための基礎技術訓練コースが開発され、実施される。	SDC→訓練機関 (SDCの改修予定が遅れ、プロジェクト期間内に改修される見込みがなくなったため)
成果1の指標	除隊兵士の研修のためのデータベースシステム	訓練コース並びに研修訓練生に関する基礎データが適	データベース→基礎データ

	ムが作成される。	切に記録され、プロジェクトで利用できる。	
	カリキュラムが開発される。	研修用の教材とカリキュラムが開発される。	研修用の教材の開発が追加された。
	400名の除隊兵士が研修を受講する。	400名以上が受講を申し込み、訓練生として選定される。	研修受講数→受講申し込み数と選定数
		訓練生選定基準が作成される。	(追加)
		少なくとも12の訓練コースが実施される。	(追加)
		訓練コース修了時マイクロファイナンスについてのオリエンテーションが実施される。	(追加)
成果2の指標	定期的モニタリングが実施される。	プロジェクトによって定期的モニタリングが実施される(1コースあたり少なくとも月1回)。	頻度について追記
		定期的に訓練ニーズ調査が実施される(年2回以上)。	(追加)
		修了生の雇用状況がモニタリングされる(80%以上)。	(追加)
		技能評価システムが開発される。	追加指標

## 2-2 主な調査項目と情報・データ収集方法

### (1) 主な調査項目

調査は、2006年11月に合意されたPDMに基づき、実績、実施プロセス、評価5項目に関する評価を行うもので、主な調査項目は以下で構成される。

- ア. PDMの指標に基づく成果、プロジェクト目標の達成度及び上位目標の達成見込み
- イ. 実施プロセスの状況
- ウ. 評価5項目(妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性)に関する評価

### (2) データ収集方法

上記の調査項目に関する情報・データ収集は表2に示す方法により実施した。

表2 調査情報・データ収集方法と目的

情報・データ 収集方法	目的	主な情報源
文献調査	プロジェクトに関連する政策、プロジェクトの実績に関連する資料	エリトリア暫定貧困削減戦略文書 (Eritrea Interim Poverty Reduction Strategy Paper) 政府開発援助 (ODA) 国別データブック 2005 JICA 事業概要 プロジェクトの投入・活動・実績に関する資料・報告書 プロジェクト進捗報告書 短期専門家報告書
インタビュー	プロジェクトの実績・進捗状況および実施プロセスに関するヒアリング・確認	日本人専門家 国家開発省幹部職員 教育省幹部職員 カウンターパート (教育省 TVET 局長、モニタリング品質保証部長、職業訓練課長、訓練マネージャー、モニタリング担当職員、ロジスティック担当職員) NCDRP 本部職員 職業訓練校 訓練コース修了生 (就業している人) 世銀エリトリア事務所
質問票	プロジェクトの実績、成果の発現状況、効率性、インパクト、自立発展性等に関する事項の把握	日本人専門家 カウンターパート (教育省 TVET 局長、モニタリング品質保証部長、職業訓練課長、訓練マネージャー、モニタリング担当職員、ロジスティック担当職員、NCDRP 職員) 現在実施中の訓練コースの受講生

### (3) データ収集上の制約

エリトリア政府は、外部に対する情報の開示を積極的に行っておらず、プロジェクトと関連する情報であっても、NCDRP による世銀予算の活用状況など、直接プロジェクトの活動に関するものではない情報については入手が困難であった。プロジェクトのインパクトを評価する場合は、プロジェクト対象外の情報も必要となるが、十分な評価材料を収集できたとは言い難い。今回調査項目のうちいくつかはこのような制限のもとで実施された。

## 第3章 プロジェクトの実績

### 3-1 現地調査結果

現地調査においては、関係者へのインタビュー（教育省大臣及びTVET局職員、NCDRP職員、国家開発省大臣、世銀エリトリア事務所員、日本人専門家）、訓練コース視察（美容師、木工、金属）、訓練修了生や修了生の勤務先上司へのインタビューを実施した。

カウンターパートへのインタビューにおいては、あらかじめ得ていた質問票調査への回答に関する事項の確認、プロジェクトの実績や実施プロセスに関する事項について確認を行った。インタビューを通じて、エリトリア関係者が本プロジェクトを高く評価していることや教育省、NCDRP、JICA間の連携が良好であったことが確認された（巻末資料参照）。

訓練修了生や修了生の勤務先上司へのインタビュー調査を通じて、本プロジェクトの訓練コースが就業にある程度寄与していることが確認された。また、エリトリア経済の低迷によって除隊兵士のスムーズな就業が妨げられていることも確認された。

### 3-2 プロジェクトの実績

#### 3-2-1 投入実績

##### （1）日本側の投入

##### （ア）長期専門家

2名の長期専門家が派遣された。分野は、チーフアドバイザー/技能訓練政策、業務調整/基礎技能訓練である（巻末資料参照）。

##### （イ）短期専門家

3名の短期専門家が派遣された（巻末資料参照）。

##### （ウ）研修受け入れ

3名のカウンターパートが日本での研修を受講した。また、4名のカウンターパートがウガンダでの研修を受講した（巻末資料参照）。

##### （エ）機材供与

車両、コピー機、LCDプロジェクター、プリンター、基礎訓練機材等合計86,081ドルが日本側から供与された（巻末資料参照）。

##### （オ）日本側負担現地業務費

日本側は、現地活動費として335,796ドル支出した（残りのプロジェクト期間に予定している予算を含む。巻末資料参照）。

##### （2）エリトリア側の投入

#### (ア) カウンターパートの配置

プロジェクト開始当初からプロジェクト・ダイレクターやプロジェクト・マネージャーを含む8名のカウンターパートが配置されている（巻末資料参照）。

#### (イ) その他のエリトリア側の投入

エリトリア側は、執務室の提供や光熱費の負担を行ったほか、教育省管轄下の技術学校やワークショップを訓練実施場所として提供した。

### 3-2-2 プロジェクト成果の達成状況

PDM に記載されている指標に沿ってアウトプットの達成度を評価した結果は以下のとおりである。

#### 成果 1：「アスマラおよび対象地域の訓練機関またはその周辺地域において、除隊兵士の社会復帰のための基礎技術訓練コースが開発され実施される」

各指標に対する実績から判断して成果1は、プロジェクト終了時までには満足できる水準を達成する見込みである。

プロジェクトでは民間の職業訓練校や教育省管轄下の技術学校を利用した訓練コースが開発された。民間職業訓練校や技術学校と訓練コース実施に関する契約または覚書が作成され、カリキュラムと教材については教育省が質のチェックを行う体制が構築された。

4つの民間職業訓練校（サリナ美容学校、セセン美容学校、エヴァン配管センター、ブドー建設公社）がプロジェクト及び教育省と契約書を締結し、日本側による授業料、教材費、テキスト等の研修費用負担により訓練コースを実施した。

教育省管轄下の技術学校については、3校（マイハバ技術学校、ハガス農学校、アスマラ技術学校）が覚書を締結し、ワークショップや訓練生用の宿泊施設を提供し、訓練を実施した。

これらのほか、教育省がアスマラ市内に所有するワークショップ（アスマラ営繕局）を木工コースの実施に利用している。

#### 指標 1-1： 基礎訓練コースの実施計画が作成される

プロジェクトによって各訓練コース実施計画書が作成され、NCDRP の承認を受けている。NCDRP はこれまで美容師、建設、配管、農業、木工、金属分野 12 件の研修実施計画を承認している。

#### 指標 1-2： 訓練コース訓練生選考基準が作成される

第1回的美容師コースを準備する過程で、選考面接時の確認事項や考慮点を含む訓練生の選考基準が作成された。第1回的美容師コースの際は、この選考基準に従い、教育省職員、NCDRP 職員、日本人専門家によって選考が実施された。その後、訓練生の募集と選定は、NCDRP 州局事務所によって実施されている。訓練生の選考は、これまで概ね良好に実施されているが、次のような問題点も発生した。問題は都度関係者間で共有され、木工コースでペーパー試験が導入されるといった対策

が講じられている。

- ①識字能力が不足しており訓練についていけない者が選考された。
- ②業務従事経験を有し、訓練コースを受ける必要がない者が選考された。

**指標 1-3: 訓練コース及び訓練生に関する基礎データが適切に記録され、プロジェクトで利用できる**

訓練コースや訓練生に関する基礎データはプロジェクトにおいて記録、保存されており、写真付きのコース修了書の発行や修了生の雇用状況モニタリング調査に利用されている。

**指標 1-4: 訓練コース用の教材とカリキュラムが開発される**

訓練コースのカリキュラムは、プロジェクトが訓練プロバイダーと共同して開発してきた。民間職業訓練校で実施する訓練については、学校が一般訓練で使用するカリキュラムと教材をもとに、習得技術やコース期間などをプロジェクトで調整し、除隊兵士訓練用のものを開発した。教育省管轄下の技術学校で実施する訓練については、教育省が中心となってカリキュラムと訓練教材を開発した。表 3 にプロジェクトを通じて作成されたコース別教材を示す。

表 3 プロジェクトで作成された教材

訓練コース分野	教材
美容師	ヘアスタイル集
配管	テキスト、作業図面
木工	テキスト、作成図
金属	テキスト、作成図

**指標 1-5: 400 名以上が受講を申し込み、訓練生として選定される**

訓練コースへの申込者数については記録されていないものの、2007 年 2 月末現在で 454 名の除隊兵士が訓練生として選定され、訓練を受けている。今後、プロジェクト終了時までには、さらに 2 回の訓練コースが実施される予定で、定員 40 名で計画していることから、494 名が訓練生として選定される見込みである。

**指標 1-6: 少なくとも 12 の訓練コースが実施される**

2007 年 3 月 2 日時点で、実施済みの訓練コースは 16 コースあり、7 コースが実施中である。プロジェクト終了時までにはさらに 2 コースが実施される予定である。訓練コースの分野、期間、訓練コース訓練生数などの詳細は、巻末資料に示すとおりである。

**指標 1-7: 訓練コース修了時マイクロファイナンスについてのオリエンテーションが実施される**

各訓練コース修了時に、小規模貸付プログラム(Savings and Micro Credit Program, SMCP)と呼ばれる融資制度に関する説明が、SMCP の担当者によって実施されている。このマイクロクレジット・プログラムは、世銀の資金支援を受けて 1996 年から国家開発省 (Ministry of National Development、

MOND) が実施しているもので、その対象はエリトリア国民全般で、避難民、戦争被災者、除隊兵士なども含まれる。

プロジェクトによる訓練生のうち7名が既に SMCD を利用している。訓練修了生数に比べて、プログラム利用者数が少ない理由として、関係者間では次のような点が指摘されている。

- ① プログラムの説明は半日程度の概要説明にとどまることから、多くの修了生にとって融資制度の仕組みを十分理解し実現可能な起業計画を作ることが難しい。
- ② エリトリアでは経済活動が停滞しており、ビジネスチャンスが限られている。
- ③ 配管や建設分野では、起業に十分な技術を身につけるには長い時間と経験を要し、訓練コースで身につけられる技術水準では、雇用されるのが精一杯である。

## 成果 2 : 「除隊兵士のニーズ及び周辺地域の市場ニーズに合わせた訓練プログラムが提供できるよう除隊兵士の基礎技術訓練体制が見直し、評価、改善される」

以下に示すとおり、成果 2 は、技能評価システム開発を除いてその目標を概ね達成している。

### 指標 2-1 : 定期的に訓練ニーズ調査が実施される (年 2 回以上)

新規訓練コースを計画する際にアスマラ市内やその他の地域での訓練ニーズ調査が実施された。エリトリアの経済活動は主にインフォーマルセクターであり、かつ、定期的な労働市場調査に基づいた雇用情報などが整備されていないので、ニーズ調査は必要に応じて適宜実施された。

訓練ニーズ調査は、企業、職業訓練校などを対象とするインタビュー調査を通じて実施された。このほか、訓練コースを実施する学校・団体に関する調査も実施され、訓練プロバイダーとして適切な機関の選出を行った。

### 指標 2-2 : プロジェクトによって定期的モニタリングが実施される (1 コースあたり少なくとも月 1 回)

プロジェクトでは、職業訓練校が毎月提出する月報を通じて訓練コースをモニタリングしている。月報が提出されない場合は、職業訓練校への経費の支払いを中断するなどして、定期的な訓練状況のモニタリングを徹底している。また、教育省と NCDRP 職員は、定期的に職業訓練校を訪問し、訓練生対象のアンケート調査あるいはグループインタビューを実施するなど、訓練コース実施状況を把握している。このような定期的モニタリングを通じて、美容師コースの場合、訓練生の都合に合わせて授業スケジュールの変更がなされるといった改善が図られた。

### 指標 2-3 : 修了生の就業状況がモニタリングされる (80%以上)

プロジェクトでは、訓練コース修了生の就業状況をモニタリングしている。これまでさまざまな方法によって修了生の就業情報が収集されており、プロジェクト初期段階においては、職業訓練校からの報告 (美容師コース第 1 回) や電話調査を通じて情報が収集されていたが、途中から修了生からの郵便による報告 (コース修了時に就業状況報告表を封筒とともに 5 カ月分配布し、毎月就業状況を報

告させる)を定着させている。評価調査時点においては、修了生からの郵便による報告と電話による調査を組み合わせる就業状況を把握している。

**指標 2-4： 訓練コースのモニタリングと評価の結果が訓練コースへフィードバックされる**

合同調整委員会の会議を通じて教育省職員、NCDRP 職員、日本人専門家間において訓練コースの進捗状況と課題について情報共有が図られている。プロジェクト関係者は、訓練コースのモニタリング・評価結果に基づいて、訓練コースの改善について頻繁に議論を行っている。

**指標 2-5： 技能評価システムが開発される**

技能評価システムは開発されていない。本プロジェクトでは、職業訓練校がすでに持っている評価システムを利用している。

**3-2-3 プロジェクト目標の達成状況**

プロジェクト目標：「対象地域における除隊兵士が生計向上に結びつく技術を習得する」

プロジェクト目標は、プロジェクト終了時まで目標を達成する見込みである。

**指標： 2007年6月までに、400名の除隊兵士が訓練コースで技術を身につける**

**(1) 訓練コースを通じて技術を身につけた除隊兵士の人数**

2007年3月2日現在、美容師、配管、建設、金属、木工、農業の分野の訓練コース（計23回実施）の訓練生数は454名である。プロジェクト終了時までさらに2つの訓練コースが実施され、40名が受講する予定であり訓練生数は目標数を上回る。

訓練コースの実施回数や訓練生数などのデータは下表のとおり（巻末資料参照）。

**表4 訓練コースと訓練生数**

	分野	実施済訓練コース		実施中訓練コース		実施予定訓練コース		合計	
		回数	訓練生数	回数	訓練生数	回数	訓練生数	回数	訓練生数
1	美容師	6	151	2	66	0	0	8	217
2	建設	4	45	0	0	1	20	5	65
3	配管	3	59	0	0	0	0	3	59
4	農業	3	42	0	0	1	20	4	62
5	木工	0	0	3	55	0	0	3	55
6	金属	0	0	2	36	0	0	2	36
	計	16	297	7	157	2	40	25	494

**(2) 修了率**

これまでに訓練コースを終えた訓練生の修了率はほとんどのコースで100%である。修了率の平均は98.9%である。

表5 実施済み16の訓練コース別の修了率（2007年3月2日現在）

	分野	コース名（コース番号）	訓練生（人）	修了生（人）	修了率
1	美容師	美容 (HD-1-SS)	15	15	100%
2		美容 (HD-1-SL)	15	15	100%
3		美容 (HD-2-SS)	30	30	100%
4		美容 (HD-2-SL)	31	31	100%
5		美容 (HD-3-SS)	30	30	100%
6		美容 (HD-3-SL)	30	29	96.7%
7	建設	溶接 (BD-1-WL)	14	14	100%
8		電気配線 (BD-1-EL)	15	15	100%
9		板金塗装 (BD-1-SP)	5	5	100%
10		電装 (BD-1-AE)	11	11	100%
11	配管	配管 (PL-1)	20	20	100%
12		配管 (MH-1)	19	18	94.7%
13		配管 (MH-2)	20	19	95.0%
14	農業	農業機械操作 (HG-1-MO)	16	16	100%
15		農業機械メンテナンス (HG-1-MM)	15	15	100%
16		家畜飼育 (HG-1-LH)	11	11	100%
		合計	297	294	98.9%

### （3） ジェンダー

除隊兵士全体のうちの約30%が女性であるとされていることから、女性の除隊兵士向けの訓練は重要である。実施済みの訓練コースの訓練生は297人で、このうち女性は172人（57.9%）と半数以上を占めている。これは、女性向けのコースである美容師コースが回数を重ねて実施したことが貢献している。

#### 3-2-4 上位目標の達成見込み

上位目標：「本プロジェクトの訓練コースを修了した除隊兵士の社会復帰が円滑に行われる」

指標： 2008年12月までに、訓練コースを修了した除隊兵士の生計が向上する

各訓練コース修了から5カ月後までの期間行っている修了生の就業状況モニタリング調査と2007年2月に実施された美容師コース（上記の表に示されている6つのコース）の修了生を対象とした就業状況調査の結果を総合すると、訓練コース修了生のうち何らかの経済活動に従事している者の割合は63.5%である（訓練を受けた分野に限定すると45.2%が経済活動に従事）。このことから、本プロジェクトは除隊兵士の技術力向上と就業に貢献しているといえる。

除隊兵士の生計向上は国の社会経済状況に大きく左右される。エリトリアは、プロジェクト実施期間中を通じてエチオピアとの緊張関係が続き、経済状況が停滞したままとなっており、訓練による技術力の向上以外の要素も訓練生の就業に大きく影響することとなった。

表6 訓練コース別の就業率

No	コース名 (コース番号)	修了生数 (人)	調査した修了生数 (人)	訓練コースと関連する仕事への就業率 (自営あるいは雇用)		就業率 (他の分野での就業を含む)	
				人数 (人)	就業率	人数 (人)	就業率
1	美容 (HD-1-SS/SL)	30	18	7	38.9%	9	50.0%
2	美容 (HD2-SS/SL)	61	31	14	45.2%	17	54.8%
3	美容 (HD3-SS/SL)	59	36	15	41.7%	18	50.0%
4	配管 (PL-1)	20	19	13	68.4%	18	94.7%
5	建設関連 (BD-1-WL, BD1-EL, BD-1-SP and BD-1-AE)	45	22	8	36.4%	18	81.8%
合計		215	126	57	45.2%	80	63.5%

### 3-3 プロジェクトの実施プロセス

#### (1) 活動計画と実績

当初本プロジェクトでは改修見込みの SDC の活用を想定していたが、先行して民間職業訓練学校の訓練コースを活用し、プロジェクトの遂行に努めた。2006年11月28日のJCCで確認されたSDCの改修計画の中断を受け、教育省傘下の訓練機関の活用がプロジェクト関係者間で協議され、実行に移されたことにより、活動計画と実績はほぼ乖離なく実施された。

#### (2) プロジェクトのマネジメント体制

##### ア. JCC の会議

プロジェクトの全体管理については、合同調整委員会 (JCC) の会議が終了時評価実施の時点までに2回、その他の会議が1回実施された。開催時期と主な議題は以下のとおり。

回	開催時期	主な議題
第1回	2005年9月2日	① プロジェクト進捗状況報告 (JICA) ② 兵士除隊社会復帰プログラム進捗状況報告(NCDRP) ③ SDC リハビリ計画進捗状況報告 (TVET)
その他	2006年3月29日	① 実施済み訓練コースのレビュー ② SDC リハビリ計画 ③ JICA 側投入 ④ 訓練コース実施日程
第2回	2006年11月28日	① 本プロジェクトのマスタープラン内容の一部修正 ② PDM の修正合意 ③ 新規訓練コース用の機材 ④ プロジェクト残り期間の運営計画の確認

ほぼ1年間に1回の頻度でJCCが開催され、必要なテーマについて話し合われており、カウンターパートはJCCが大変適切に機能しているという意見を持っていることから判断して、JCCは適切に機能していると判断される。

#### イ. モニタリングとコミュニケーション

上述 JCC のほか、2 週間に 1 回の実務者レベル（日本人専門家とカウンターパート 2 名）のミーティング、4 週に 1 回のプロジェクト協議（実務者レベル+TVET 局長・次長）のためのミーティングが開催され、進捗状況についてモニタリングすることとなっている。ただし、エリトリア側関係者の業務の都合などの理由から、必ずしも計画した頻度でミーティングが実施できてない状況はみられたものの、プロジェクト進捗状況についての情報共有には寄与したと考えられる。

また、質問票調査や現地インタビューを通じて、プロジェクト関係者間（教育省、NCDRP、JICA 専門家）の協力関係は非常に良好であることが確認され、プロジェクト内のコミュニケーションが円滑であったといえる。

JICA 本部や JICA ケニア事務所とプロジェクト間のコミュニケーションについても、エリトリアの通信事情（電子メール利用上）があまり良好ではない状況下にはあるが、定期的に連絡がとられており、ほぼ円滑なものであった。

#### ウ. 安全対策措置とプロジェクトサイト見直し

本プロジェクト対象地域（メンデフェラ、アディケ、アゴルダット）は、JICA の安全対策措置上、「業務目的外渡航見合わせ、業務目的渡航は安全情報チームに要協議」となっていたが、JICA ケニア事務所による現地状況の把握や適時な判断を行うことが適当であるとの判断から、派遣中専門家の地方出張においては JICA ケニア事務所へ届出を行い、しかるべく安全対策措置を取ったうえで出張ができる体制とした。

また、SDC の改修遅れや中止を受けてプロジェクトサイトの見直しが余儀なくされた折には、代替として検討された地方の教育省傘下の訓練機関活用についても、これら地域の状況を現地安全対策連絡員からの情報収集を踏まえ、同様の措置を取ると判断したことによりプロジェクトに機動性をもたせ、プロジェクト目標達成の見込みを高めることに貢献した。

## 第4章 評価結果

### 4-1 評価5項目の評価結果

#### 4-1-1 妥当性

本プロジェクトの妥当性は高かった。

エリトリア政府は2003年に「緊急除隊社会復帰プロジェクト」を開始し、30万人の兵士のうち、20万人の除隊と除隊兵士の社会復帰を進める計画であった。このプロジェクトの実施をNCDRPが担当し、2005年までに約10万4千人の兵士が除隊した<sup>1</sup>。除隊予定の兵士の中には、技能を持たない者（推計値で約2万人）もあり、そのような除隊兵士の社会復帰を支援するための職業訓練を提供することは、緊急的な社会ニーズの一つであった。ただし現在では、除隊兵士に限らず、若年層などより広い範囲の国民の能力開発に政府の重点がシフトしつつある。

日本のエリトリアに対するODAの基本方針には、兵士の動員解除と除隊兵士の社会復帰の支援が含まれており、援助方針とも合致している。

プロジェクトアプローチに関しては、状況に合わせて柔軟に訓練コースを計画し、実施してきたことは適切であったといえる。当初、エリトリア側が計画していたSDCの改修と活用が遅延したため、プロジェクト期間中に計画を変更し既存の訓練施設（民間職業訓練校や公立の技術学校）を活用して訓練が実施された。

本終了時評価に際し実施した訓練生へのアンケートでは70.8%が訓練内容に満足している結果などからすると、本プロジェクトの訓練コースの内容は、労働市場と整合性があり、受益者のニーズにも合致しているといえる。

#### 4-1-2 有効性

本プロジェクトの有効性は満足できる水準である。

既述のように、プロジェクト終了時までには25の訓練コースが実施され、訓練生総数は494人の上る見込みであり、目標数の400人を上回る実績となる。これまでのところ、訓練生のほぼ100%がコースを修了している。プロジェクト期間中に、世銀資金を利用した訓練コースが複数実施される可能性があるが、もし実施されれば、さらに約80名の訓練生が見込まれる。

訓練修了後5カ月以上を経た訓練生を対象とした就業状況調査の結果では、訓練コース修了生で何らかの経済活動に従事している者が全体の63.5%である一方、訓練コースに関連する分野での就業者が45.2%であり、訓練による技術力の向上が就業に役立っているといえる。

#### 4-1-3 効率性

本プロジェクトの効率性は満足できる水準である。

エリトリア側と日本側の投入、すなわち、エリトリア側のカウンターパート配置、日本人専門家の派遣、日本側の予算支出などの面で、その量、質、タイミングは概ね適切であった。カウンターパートなどへのインタビュー調査結果によると、ウガンダで実施されたカウンターパート研修の内容は大

<sup>1</sup> エリトリア・エチオピア間の国境をめぐる対立が続いているため、兵士除隊プロセスは中断している。

変良く役立つものであった点で高い評価があった。一方、研修期間に比べて研修内容が多く組み込まれた集約的なものであったため、研修内容をしっかり身につけるためには、もう少し期間が長い方がより効果的であったとの意見が参加者からあった。機材調達については、訓練コースで使用する機材の調達が遅れ、より早い時期に供与されていればより効果的だったであろう。

NCDRP の受講生 1 人あたり 1 月あたりの基準単価は、135 ドルである。この基準単価と本プロジェクトの訓練コースのコストを比較した場合、美容師コースは 105 ドルから 118 ドルの間にあり、NCDRP 基準単価を下回るが、他の分野のコースでは、146 ドルから 293 ドルであり、いずれも NCDRP 基準を上回っている。ただし、本プロジェクトは約 3 カ月で NCDRP による 6 カ月のコースと同じ技術レベルの習得を目的とした訓練を実施していることを考慮し、受講生 1 人あたりのコストで比較すると、プロジェクトの訓練にかかるコストのほうが NCDRP による訓練よりも安いといえる。

表 7 各訓練コースの訓練単価

No	コース名	訓練生数	コード	JICAプロジェクトの場合		NCDRPの基準	
				コスト/人/月 単位:ドル	コスト/人 (3カ月間)	コスト/人/月 単位:ドル	コスト/人 (6ヶ月間)
1	美容	30	HD-1 (L/S)	105	316	135	810
2		61	HD-2 (L/S)	115	345		
3		60	HD-3 (L/S)	118	355		
4		30	HD-4SS	114	341		
5		36	HD-4SL	116	349		
6	建設	45	BD-1	211	634		
7		19	MH-c	146	437		
8	配管	20	PL-1	161	323		
9		19	MH-1	293	879		
10		20	MH-2	148	444		
11	農業	42	HG-1	221	663		
12		20	HG-2	167	500		
13	木工	18	WD-1	186	745		
14		20	AT-w	200	600		
15		20	MH-w	238	715		
16	金属加工	18	MH-m	265	794		
17		20	AT-m	200	600		
		498			497		

#### 4-1-4 インパクト

本プロジェクトは、除隊兵士のための訓練コースの計画、マネジメント、モニタリングに関わるカウンターパートの能力を強化することに寄与しており、プロジェクト後の除隊兵士のための訓練実施に役立てられる。

教育省のカウンターパート部署は、除隊兵士の基礎訓練だけでなく、若年層の教育・訓練も担っており、本プロジェクトを通じて得られた経験が、これらを対象とした一般の教育訓練に活用される見通しである。

また、最近、教育省は障害者等を対象とする訓練コースの実施を労働人間福祉省から依頼されるな

ど、プロジェクトの実施によって基礎訓練に関する国内の評価を高めている。

#### 4-1-5 自立発展性

##### (1) 政策・組織面

エリトリア政府は、除隊兵士の社会復帰を、戦争被災者等の社会復帰や青年層への職業訓練といった課題とともに、国家開発・人的資源開発の視点からとらえなおしつつあり、今後は一般国民（特に若年層）を対象とした教育・訓練に除隊兵士を含める形で対応していく方針である。

##### (2) 財政面

プロジェクト終了後も継続的に除隊兵士向け訓練コースを実施するには、教育省と NCDRP とが共同して、コース実施の予算を確保することが必要である。本プロジェクト終了までに、NCDRP の予算支出を受けて複数の訓練コースが実施される見込みがあるが、今後のさらなる継続性確保のためには教育省が NCDRP といった他機関から予算を得る必要がある。

##### (3) 技術面

本プロジェクト実施を通じて、教育省、NCDRP 職員の訓練の運営能力は、①訓練ニーズ調査と訓練コース計画、②訓練校との訓練実施に関する交渉と契約、③訓練コースのモニタリング、④訓練コース修了生の就業状況追跡調査、といった点で強化された。教育省は、これらノウハウを一般国民対象の教育・訓練に活用していく見通しである。

#### 4-1-6 阻害・貢献要因の総合的検証

##### (1) 効果発現に貢献した要因

本プロジェクトでは、SDC の改修の遅延に対応して、民間訓練校や技術学校を活用するよう柔軟に計画の変更を行い、目標以上の除隊兵士に対する技能訓練を提供することが可能となった。

##### (2) 効果を阻害した要因

###### ア. SDC 改修の遅延

エリトリア側が計画していた SDC 改修の遅延は、これを利用した訓練コースの実施に大きく影響した。SDC 改修が前提となるコースは実施することができず、計画の変更を余儀なくされた。

###### イ. 計画段階における活動の設計

「技能評価システムの構築」は、プロジェクト開始当初は、プロジェクトの一活動として計画されていたが、プロジェクト期間内で取り込まれなかった。これは、システムの概要がプロジェクト計画時に設計されておらず、どのようなシステムを構築するか不明であったことが主な原因であると考えられる。

#### ウ. カウンターパート機関のキャパシティー

カウンターパート機関である教育省の産業技術教育・職業訓練（Technical and Vocational Education and Training、TVET）局は、除隊兵士を対象とした訓練以外にも多くの業務を抱えており、プロジェクトに十分関わることができたカウンターパート数は限られている。これにより、訓練ニーズ調査や各種調整に時間を要することとなった。

#### 4-2 結論

- (1) 評価調査の結果、本プロジェクトのプロジェクト目標とアウトプットは、プロジェクト終了時までに達成するものと期待される。したがって、本技術協力プロジェクトは、当初の予定通り 2007 年 6 月 14 日をもって終了する。
  
- (2) 緊急的な兵士除隊・社会復帰が成功裏に進展していることにより、エリトリアにおける重要課題は、緊急的なニーズに対処することから、安定的な開発にシフトしてきている。このような状況下、エリトリア政府が今後焦点を当てるのは、より広い国民一般を対象とする教育や訓練となる見通しである。

## 第5章 提言と教訓

### 5-1 提言

#### 5-1-1 残りのプロジェクト期間における活動への提言

- (1) プロジェクトを通じて得られた経験を最大限活用するためにも、プロジェクト期間中に教育省がプロジェクト後に行う除隊兵士のための訓練計画を作成し、NCDRP を通じて予算を獲得することが必要である。
- (2) 訓練が訓練生の生計にどのようなインパクトを与えたかを正確に評価するため、選考や訓練後のフォローアップ調査などを通じて得られた各除隊兵士の社会・経済に関する情報を関係者間で共有することが必要である。
- (3) 各コース修了時に実施される小規模貸付プログラム (SMCP) の紹介は、訓練生が SMCP をよりよく理解できるよう、具体的で現実的な情報を含めて実施されることが必要である。

#### 5-1-2 プロジェクト終了後の活動への提言

- (1) 教育省はプロジェクト終了後も主要な省庁として、NCDRP の予算を受けつつ除隊兵士の訓練に引き続き取り組んでいくことが望ましい。
- (2) プロジェクトを通じて、収集・保存されている情報は、NCDRP に引き継がれることが必要で、プロジェクトで実施している訓練修了後のフォローアップ調査も NCDRP によって継続されることが望ましい。

### 5-2 教訓

- (1) エリトリア国内に存在する、民間訓練校や技術学校の積極的で柔軟な活用によって、プロジェクト目標を達成することができた。
- (2) 教育省、NCDRP、SMCP 及び JICA 間での効果的な連携がプロジェクトの成功の鍵である。
- (3) プロジェクト実施までは、6 カ月が訓練の最短期間であると認識されていたが、プロジェクトによって内容が凝縮された 3 カ月の集中訓練コースが導入されたことは、将来本格的に 3 カ月コースを検討するうえでよい経験となった。
- (4) ウガンダのナカワ校における第三国研修は、内容面でカウンターパートの評価が高く、これまでの日本の協力によって培われた技術・経験が域内で活用された形であるといえる。



## 添付資料

1. 調査日程
2. 主要面談者
3. ミニッツ(英語版)
4. 評価グリッド
5. 実施訓練コースリスト
6. 専門家派遣実績
7. カウンターパート研修実績
8. 供与機材リスト
9. 各訓練コース概要
10. 専門家アンケート結果
11. カウンターパートアンケート結果
12. 受講生アンケート結果



1. 調査日程

No	月日	曜日	道順	江崎	山田	山本
1	3月4日	日	日本発			
2	5日	月	アスマラ着			
3	6日	火	NCDRP 表敬 教育省 TVET 局表敬 訓練コース視察（美容師コース） 日本人専門家インタビュー			
4	7日	水	教育省 C/P インタビュー NCDRP 職員インタビュー 訓練コース視察、訓練生インタビュー（①アスマラ技術学校木工コース、②MOE ワークショップ木工コース） 日本人専門家インタビュー			
5	8日	木	ハガス農業技術学校視察 SMCP 職員インタビュー			
6	9日	金	教育省 C/P インタビュー			
7	10日	土	資料整理			
8	11日	日	資料整理	アスマラ着	日本発	
9	12日	月	訓練修了生の雇用主インタビュー		アスマラ着	
10	13日	火	プロジェクトとの打合せ 教育大臣表敬 NCDRP 表敬 世界銀行エリトリア事務所表敬			
11	14日	水	国家開発大臣表敬 財務省表敬 教育省 C/P インタビュー NCDRP 職員インタビュー			
12	15日	木	訓練コース視察（美容師コース、アスマラ技術学校木工コース） 訓練修了生インタビュー			
13	16日	金	ミニッツ協議			
14	17日	土	書類整理			
15	18日	日	書類整理			
16	19日	月	ミニッツ協議		ハガス農業技術学校 農業コース始業式出席	
17	20日	火	JCC 出席			
18	21日	水	NCDRP 委員長表敬 教育大臣表敬 ミニッツ署名	アスマラ発	NCDRP 委員長表敬 教育大臣表敬 ミニッツ署名	
19	22日	木	アスマラ発		アスマラ発	
20	23日	金	日本着		日本着	

## 2. 主要面談者

<エリトリア側>	
(1) 教育省 (Ministry of Education)	
Osma Saleh	Minister
Tesfai Seyoum	Director General, TVET Department
Measho Gebretnsae	Director, Monitoring and Quality Assurance Division
Ghirmai Estifanos	Head, Vocational Education and Training Unit
Ghebregziabher Yohannes	Head, Technical Education and Training Unit
Kifleysus Asfaha	Training Coordinator, TVET Department
(2) 国家動員解除・社会復帰委員会 (National Commission for the Demobilization and Reintegration Program)	
Tekeste Fikadu	Commissioner
Kalaeb Haile	Program Management Manager
Ainaalem Marcos	Training Coordinator
Mehretab Medhane	Training Officer
Berhane Haile	Training Officer
(3) 国家開発省 (Ministry of National Development)	
Woldai Futur	Minister
(4) 財務省 (Ministry of Finance)	
Efrem Tesfai	Senior Economic Expert
(5) 小規模貸付プログラム (Savings and Micro Credit Program : SMCP)	
Getachew	Operations Officer
(6) ハガス農業技術学校	
Tinsiew Tesfaslasie	Project Manager
Giuseppe Perilli	Outreach Programs Coordinator
<日本側>	
(7) JICA プロジェクト専門家	
伊藤 嘉一	チーフアドバイザー/基礎訓練管理
井上 高司	調整員/基礎訓練計画
佐々木 修	訓練計画管理
<その他>	
(8) 世界銀行 (World Bank)	
Efrem Fitw	Procurement Analyst

MINUTES OF MEETINGS  
BETWEEN  
THE JAPANESE TERMINAL EVALUATION TEAM  
AND  
THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF  
THE STATE OF ERITREA  
ON THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION  
FOR  
THE PROJECT ON BASIC TRAINING FOR REINTEGRATION OF DEMOBILIZED  
SOLDIERS IN ERITREA

The Japanese Terminal Evaluation Team (hereinafter referred to as “the Japanese Team”) organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as “JICA”), headed by Mr. Aiichiro YAMAMOTO, visited the State of Eritrea from 5 March to 21 March 2007, for the purpose of the terminal evaluation of the Project on Basic Training for Reintegration of Demobilized Soldiers in Eritrea (hereinafter referred to as “the Project”).

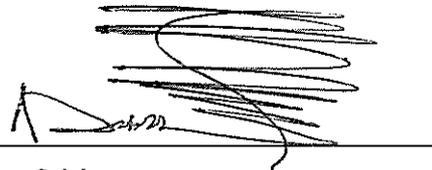
During its stay in Eritrea, the Japanese Team had a series of discussions with the Eritrean authorities concerned, jointly evaluated the achievement of the Project, and exchanged views for further improvement of the Project.

As a result of the study and discussions, both sides agreed to the matters referred to in the document attached hereto.

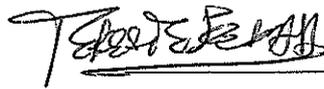
Asmara, 21 March 2007



Mr. Aiichiro YAMAMOTO  
Leader,  
Japanese Terminal Evaluation Team,  
Japan International Cooperation Agency,  
Japan



Mr. Osman Saleh  
Minister,  
Ministry of Education,  
State of Eritrea



Dr. Tekeste Fikadu  
NCDRP Commissioner,  
National Commission for the Demobilization  
and Reintegration Program

# ATTACHED DOCUMENT

## Contents

1. Introduction-----	1
1.1 Background-----	1
1.2 Objective of Evaluation-----	1
1.3 Schedule and Major Activities of the Evaluation-----	1
1.4 Joint Evaluation Team-----	2
1.5 Method of Evaluation-----	2
1.6 Summary of the Project-----	3
2. Project Achievements-----	4
2.1 Inputs-----	4
2.2 Outputs-----	4
2.3 Project Purpose-----	7
2.4 Prospect of Achievement of the Overall Goal-----	8
3. Results of the Evaluation According to Five Criteria-----	9
3.1 Relevance-----	9
3.2 Effectiveness-----	10
3.3 Efficiency-----	10
3.4 Impact-----	10
3.5 Sustainability-----	10
4. Conclusions-----	11
5. Recommendations-----	11
6. Lessons Learned-----	12

Annex	I	Evaluation Grid
	II	Project Design Matrix (PDM)
	III	Plan of Operation (Planned Versus Actual)
	IV	List of Japanese Experts
	V	List of Eritrean Counterparts Personnel Trained in Japan and Uganda
	VI	List of Major Equipments Provided by the Japanese Side
	VII	Expenses for Local Activities Borne by the Japanese Side
	VIII	List of Counterpart Personnel Assigned to the Project
	IX	List of Training Courses

Abbreviations	DS	Demobilized Soldier
	MOE	Ministry of Education
	NCDRP	National Commission for the Demobilization and Reintegration Program
	PDM	Project Design Matrix
	SDC	Skill Development Center
	SMCP	Savings and Micro Credits Program
	TVET	Technical and Vocational Education and Training



## 1. Introduction

### 1.1 Background

The Project was started on 15 June 2005 based on the request for technical cooperation by the Government of Eritrea to the Government of Japan for the basic skill training for reintegration of demobilized soldiers. The Project is planned to be completed by 14 June 2007, and with the remaining project period being less than 4 months, a final evaluation was jointly carried out by evaluators consisting of the Japanese Team and the Eritrean authorities concerned.

### 1.2 Objectives of the Evaluation

The objectives of the evaluation are threefold:

- 1) To evaluate accomplishments of the Project based on the five evaluation criteria of Relevance, Effectiveness, Efficiency, Impact, and Sustainability;
- 2) To make recommendations for activities in the remaining period of and after the completion of the Project; and
- 3) To note lessons learned from the Project.

### 1.3 Schedule and Major Activities of the Evaluation

Date	Major activities
2007 Mar. 5 Mon	Arrival of a Japanese evaluation member at Asmara, Eritrea
6 Tue	Courtesy call to the National Commission for Demobilization and Reintegration Program (NCDRP) and TVET dep. the Ministry of Education (MOE) Observation of hair dressing training courses Meeting with Japanese experts
7 Wed	Interview with counterparts of MOE Interview with counterparts of NCDRP Visit to Asmara Technical School; observation of woodwork and metalwork courses, and interview with the training providers Visit to Production Workshop of MOE; observation of woodwork course and interview with the training provider Interview with Japanese experts
8 Thu	Visit to Hagaz Agro-Technical School Interview with staff of Saving and Micro Credit Program (SMCP)
9 Fri	Interview with counterpart personnel of MOE
10 Sat	Data analysis
11 Sun	Data analysis
12 Mon	Interview with employer and trainees who completed training courses
13 Tue	Meeting with Japanese experts Courtesy call to Minister of Education and TVET Department of MOE Courtesy call to and Interview with NCDRP Visit to the World Bank Eritrean Office
14 Wed	Courtesy call to the Minister of National Development Interview with counterparts of MOE and NCDRP
15 Thu	Observation of training courses in Asmara Interview with trainees who completed training courses
16 Fri	Discussion on the Minutes of Meetings
17 Sat	Interview with Japanese experts
18 Sun	Preparation of draft of the Minutes of Meetings
19 Mon	Discussion on the Minutes of Meetings
20 Tue	JCC meeting and signing on the Minutes of Meetings
21 Wed	Additional study
22 Thu	Japanese Team Depart for Japan

#### 1.4 Joint Evaluation Team

The terminal evaluation was jointly carried out by both Japanese and Eritrean evaluators, as follows:

##### (1) Japanese Evaluators

	Name	Position/ Organization
1)	Mr. Aiichiro YAMAMOTO	Senior Assistant to the Director General, Regional Department IV (Africa), JICA
2)	Ms. Chie ESAKI	JICA Kenya Office
3)	Mr. Tomoyuki YAMADA	Technical and Higher Education Team, Group II, Human Development Department, JICA
4)	Mr. Isao DOJUN	International Project Department, Chuo Kaihatsu Corporation

##### (2) Eritrean Evaluators

	Name	Position/ Organization
1)	Mr. Tesfai SEYOUM	Director General, TVET Department, Ministry of Education
2)	Mr. Kifleyesus ASFAHA	Curriculum Developer, TVET Department, Ministry of Education

#### 1.5 Method of Evaluation

The achievement and progress of the Project was evaluated using the latest Project Design Matrix (hereinafter referred to as "PDM"), signed in November 2006. The evaluators evaluated the achievement of the Project based on the following five (5) criteria:

##### (1) Relevance

Relevance refers to the validity of the Project Purpose and the Overall Goal in connection with the development policy of the Government of Eritrea as well as the needs of the beneficiaries.

##### (2) Effectiveness

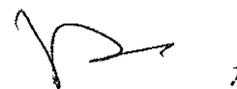
Effectiveness refers to the extent to which the expected benefits of the Project have been achieved as planned, and examines if the benefits were brought about as a result of the Project.

##### (3) Efficiency

Efficiency refers to the productivity of the implementation process, and examines if the Inputs of the Project were efficiently converted into the Outputs.

##### (4) Impact

Impact refers to direct and indirect, positive and negative impacts caused by implementing the Project, including the extent to which the Overall Goal has been attained.



(5) Sustainability

Sustainability refers to the extent to which the Project can be further developed by the Government of Eritrea, and benefits generated by the Project can be sustained under the Eritrean government's policies, technologies, systems, and financial state.

**1.6 Summary of the Project**

According to the PDM, the Project can be summarized as follows:

**1.6.1 Objectives of the Project**

(1) Overall Goal

Demobilized soldiers (hereinafter referred to as "DS") who were trained in the Project are smoothly reintegrated into society.

(2) Project Purpose

DS in the target areas acquire skills to improve their livelihood.

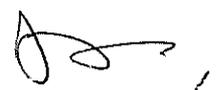
**1.6.2 Outputs of the Project**

(1) Basic skill training course for reintegration of DS is developed and conducted at Asmara and other local training institutes and/or surrounding areas.

(2) Basic skill training system for DS is reviewed, evaluated, and improved in order to match the training program to needs of DS and surrounding local markets.

**1.6.3 Activities**

- 1.1 Implementation plan for basic skill training courses is developed.
- 1.2 Training materials and curriculum are prepared.
- 1.3 Database system of the DS training is prepared.
- 1.4 DS trainees are selected at Regional NCDRP Offices
- 1.5 Basic training courses are conducted at Asmara, local institutes, and/or related facilities.
- 1.6 DS trainees are able to receive advice and suggestions on how to improve their livelihood.
- 1.7 Job creation orientations are conducted to encourage self-employment business and entrepreneurship.
- 2.1 Monitor training needs periodically; market survey, workshops, etc.
- 2.2 Follow-up monitoring and evaluation is conducted for graduates of the courses.
- 2.3 Skill assessment system is established and reviewed regularly.
- 2.4 Training courses are revised.



## **2. Project Achievements**

### **2.1 Inputs**

#### **2.1.1 Inputs from the Japanese Side**

##### (1) Dispatch of Experts

###### 1) Long-Term Japanese Experts

In total, 2 long-term Japanese experts have been dispatched. The fields of specialty of these long-term experts are: Chief Advisor/ Basic Training Planning, and Project Coordinator/Basic Skills Training (refer to Annex I for details).

###### 2) Short-Term Japanese Experts

In total, 3 short-term experts have been dispatched (refer to Annex II for details).

##### (2) Training of Counterpart Personnel in Japan and Uganda

3 counterparts were trained in Japan and 4 counterparts were trained in Uganda (refer to Annex III for details).

##### (3) Provision of Equipment

The Japanese side has provided the following equipments: automobile, photocopy machine, computers, LCD projector, and printer etc. (refer to Annex VI for the major equipment).

##### (4) Local Operational Expenses Borne by the Japanese Side

The Japanese side has allocated a budget to fund for local activities. In total, 335,796 US Dollars has been allocated, including the planned budget for the remaining project period (refer to Annex for VII details).

#### **2.1.2 Inputs from the Eritrean Side**

##### (1) Assignment of Counterpart Personnel

8 counterpart personnel have been assigned since the commencement of the Project, including the Project Director and Project Manager (refer to Annex VIII for details).

##### (2) Contribution from Eritrean Side

Eritrean side provided the administrative office and expenses for electricity of it. In addition, Eritrean side provided workshops and accommodation for trainees and arranged training facilities for the courses implemented at the technical schools and production workshops of MOE.

### **2.2 Outputs**

Achievements of Outputs through the corresponding activities are measured by the indicators in PDM.

**2.2.1 Output 1:** Basic skill training course for reintegration of DS is developed and conducted at Asmara and other local training institutes and/or surrounding areas.



Judging from the activities and accomplishments corresponding to indicators below, the Output 1 will be achieved by the end of the Project at a satisfactory level. Most of the basic training courses have been developed by utilizing the private training providers and the technical schools of MOE to respond to the training needs quickly. The Project makes contracts or agreements with these providers and schools on implementation of the training courses.

As for the training courses by private training providers, all of the training cost such as tuition fees, cost of training material and text book, traveling cost for trainees, and allowance is covered by the Japanese side. 4 training providers have cooperated with the Project: Salina Beauty School, Sesen Beauty School, Even Plumbing Center, and BDHO General Construction Co.

As for the training courses at the technical schools of MOE, MOE provided workshops and accommodation for trainees and arranged training facilities. 3 technical schools in Mai Habar, Hagaz, and Asmara have been utilized by the Project.

Besides, a production workshop of MOE in Asmara is used for the woodwork course.

Indicator 1-1: Implementation plan for basic training courses is prepared.

Project proposals for training courses were prepared by the Project and submitted to NCDRP for obtaining its approval. NCDRP approved 12 proposals in the following fields: hair dressing, construction, plumbing, agriculture, woodwork and metalwork.

Indicator 1-2: Selection criteria of the trainees are developed.

In the process of developing the first training course of hair dressing, selection criteria of trainees was developed. The criteria consist of the list of queries to be asked and points of consideration in the interview. The selection of trainees for the first hair dressing course was conducted in accordance with the criteria jointly by NCDRP staff, MOE staff and Japanese experts. Afterwards, the recruitment and selection of trainees have been conducted mainly by NCDRP. Most of the selections were implemented successfully. In a few courses, the Project experienced following minor challenges;

- (1) Selection of trainees who do not satisfy the requirements for the course such as literacy,
- (2) Selection of trainees who are not necessary to be trained when his/her work experience is considered,  
and
- (3) Geographical allocation of trainees

When a challenge was identified, MOE, NCDRP and Japanese experts discussed on how to improve. Consequently, such measures have been taken as an introduction of paper examination to selection for the woodwork course and so forth.

Indicator 1-3: Basic data of training course and trainee is stored properly to be available by the Project.

Basic data of trainings and trainees have been recorded by the Project. Based on the data, the certificates with photograph of trainee have been issued, and the follow-up surveys were conducted.



Indicator 1-4: Training materials and curricula are developed.

Curricula were jointly developed with the training providers for all training courses implemented by the Project.

As for training materials in the courses at technical schools and workshops of MOE, Project elaborated them with the training providers. Following materials were developed:

Table 1: Details of the training material in each course

Course	Training materials
Hair dressing	Hair Dressing Style Book
Plumbing	Text Book, Work Blueprint
Woodwork	Text Book, Project Drawing
Metalwork	Text Book, Project Drawing

Indicator 1-5: More than 400 trainees apply and are selected for the courses.

Although the accurate number of applicants is not recorded, as many as 454 DS have been selected and trained until the end of February 2007. In addition, 40 trainees will be trained through 2 training courses which will be carried out in remaining period of the Project. This means the actual number of the trainees under the Project will total 494.

Indicator 1-6: At least 12 training courses are conducted.

16 courses were completed and 7 courses are under implementation as of 2nd March 2007. 2 more courses will be implemented by the end of the Project. The field, duration, and number of trainees of each training course are attached (Annex IX).

Indicator 1-7: At the end of the related course, micro finance orientations are conducted.

At the end of every training course, Savings and Micro Credit Program (SMCP) is introduced by SMCP staff. SMCP is a semi-autonomous micro-credit program operating under the auspices of the Ministry of National Development to provide credit to poor and marginalized populations who lack access to the formal financial institutions.

So far, 7 trainees who completed the training courses applied for the program and succeed to get micro credit for starting a business. The Project learnt that there are following challenges for trainees to make use of the program:

- (1) It is difficult for some trainees to understand the system and rules of the program and to plan a feasible business with a brief orientation.
- (2) The local economy is not so active that trainees feel it risky to borrow money to start business.
- (3) As for some training courses such as plumbing and construction, the level of skills trained through the course are not sufficient to make a business, even though they are enough to be employed.

**2.2.2 Output 2:** Basic skill training system for DS is reviewed, evaluated, and improved in order to match the training program to needs of DS and surrounding local markets.



Indicator 2-1: Regular training needs survey is carried out (more than twice a year)

NCDRP shared the information on labor market, and national survey with the Project. Based on the information, training needs assessments were conducted in Asmara and other local areas when the Project plans new training courses. Because informal economy dominates the country's economic activities, the assessments were planned and conducted whenever necessary and on the ad hoc basis. The assessment was carried out through interviews with domestic companies, the training providers, and authorities concerned with assistance of Japanese experts.

In addition to the training needs assessment, the Project conducted the studies on capability of training providers in the country. Since training course in several fields depend on training providers, it was important to find out the capacity of them to develop a feasible training course.

Indicator 2-2: Regular monitoring is carried out by the Project (at least once a month per a course).

The Project monitors the training courses through monthly report submitted by the training providers. Without report, the payment for the provider is suspended so that the Project is able to monitor each course. In addition, MOE and NCDRP staffs regularly visits the training courses and conducted questionnaire survey and/or group interview with trainees to see how the course goes on. Based on the results of the monitoring, training courses were reviewed, for example, the time schedule of the hair dressing course was shifted in accordance with convenience of the trainees.

Indicator 2-3: Employment of trainees is monitored (more than 80%).

For the purpose of monitoring employment situation of trainees after the course, the Project conducted several kinds of survey; monitoring through training provider, telephone interview and monthly report forms from trainees themselves. The monitoring through training provider was conducted only for the first hair dressing courses (HD-1-SS and HD-1-SL). Afterwards, the Project introduced the monthly reporting forms. In this method, the Project distributed the forms and envelopes with stamp to all trainees finishing the course. The trainees are required to submit the form to the Project every month after the course for 5 months. As a result, the Project confirmed about 75% of trainees' situations, which was almost on target.

Indicator 2-4: There is feedback of monitoring and evaluation to the training course.

The progress and challenges of the training courses are shared with MOE staff, NCDRP staff and Japanese experts through meeting of Joint Coordinating Committees. Besides, concerning personnel to the Project has frequent meetings to discuss improvement of course based on the results of monitoring and evaluation.

Indicator 2-5: Skill assessment system is developed.

Originally, a skill assessment system was expected to be developed, however, the Project did not develop a skill assessment system. The Project used the existing assessment systems of the training providers.

### 2.3 Project Purpose

Demobilized soldiers in the target areas acquire skills to improve their livelihood.



Indicator: 400 demobilized soldiers acquire skills in the training courses by June 2007.

(1) Number of DS acquires skills in the training courses

As of 2nd March 2007, 454 DSs received training through 23 courses in the fields of hair dressing, plumbing, construction, metalwork, woodwork and agriculture. By the end of the Project, 40 DSs are planned to be trained through 2 new courses. The number of actual trainees exceeds the planned number.

Detailed number of courses and trainees are shown in the table below (refer to Annex IX for more details).

**Table 2: Number of DSs Acquires Skills in the Training Courses**

	Field	Courses Completed		Courses under Implementation		Courses under Planning		Total	
		No. of Courses	No. of Trainees	No. of Courses	No. of Trainees	No. of Courses	No. of Trainees	No. of Courses	No. of Trainees
1	Hair dressing	6	151	2	66	0	0	8	217
2	Construction	4	45	0	0	1	20	5	65
3	Plumbing	3	59	0	0	0	0	3	59
4	Agriculture	3	42	0	0	1	20	4	62
5	Woodwork	0	0	3	55	0	0	3	55
6	Metalwork	0	0	2	36	0	0	2	36
	<b>Total</b>	<b>16</b>	<b>297</b>	<b>7</b>	<b>157</b>	<b>2</b>	<b>40</b>	<b>25</b>	<b>494</b>

(2) Completion Rate

In most of the training courses, 100% of trainees completed the course. Average completion rate of all completed courses is 98.9%.

**Table 3: Completion Rate in Sixteen Courses**

	Course	No. of Trainees	No. of Trainees Completed Course	Completion Rate
1	Hair Dressing (HD-1-SS)	15	15	100%
2	Hair Dressing (HD-1-SL)	15	15	100%
3	Hair Dressing (HD-2-SS)	30	30	100%
4	Hair Dressing (HD-2-SL)	31	31	100%
5	Hair Dressing (HD-3-SS)	30	30	100%
6	Hair Dressing (HD-3-SL)	30	29	96.7%
7	Welding (BD-1-WL)	14	14	100%
8	Electric Installation(BD-1-EL)	15	15	100%
9	Body Repair/Spray Painting(BD-1-SP)	5	5	100%
10	Auto Electric(BD-1-AE)	11	11	100%
11	Plumbing (PL-1)	20	20	100%
12	Plumbing (MH-1)	19	18	94.7%
13	Plumbing (MH-2)	20	19	95.0%
14	Agricultural Machinery Operation(HG-1-MO)	16	16	100%
15	Agricultural Machinery Maintenance(HG-1-MM)	15	15	100%
16	Livestock Handling(HG-1-LH)	11	11	100%
	<b>Total</b>	<b>297</b>	<b>294</b>	<b>98.9%</b>

(3) Gender Aspect

Since it is estimated that about 30% of DS are women, gender aspect of the training is very important. 172 trainees out of 297, equivalent to 57.9%, are women. The hair dressing courses largely contributed to this accomplishment.

## 2.4 Prospect of Achievement of the Overall Goal

The overall goal of the Project is “demobilized soldiers who were trained in the Project are smoothly reintegrated into society” and its indicator is as follows:

Indicator: The livelihood of the demobilized soldiers trained in the Project is improved by December 2008.

According to the results of monitoring and survey, the trainees who are economically active are 63.5% 5 months after the completion of the training course. 45.2% of trainees employed or self-employed in the same field of work as the training course. Therefore, the Project contributed to employment of DS a certain extent. Since the livelihood of DS largely depend on Eritrea’s socio-economic situation, it is hard to conclude how much the Project affects on their improvement on livelihood at this stage.

**Table 4: Employment Rate in Five Courses**

No	Course	No. of Completion	No. of Ex-Trainees Surveyed <sup>1</sup>	Employment in the Same Field of Work as the Course <sup>2</sup>		Overall Employment	
				No.	Employment Rate	No.	Employment Rate
1	Hair dressing (HD-1-SS/SL)	30	18	7	38.9%	9	50.0%
2	Hair dressing (HD2-SS/SL)	61	31	14	45.2%	17	54.8%
3	Hair dressing (HD3-SS/SL)	59	36	15	41.7%	18	50.0%
4	Plumbing (PL-1)	20	19	13	68.4%	18	94.7%
5	Construction (BD-1-WL,BD1-EL,BD-1-SP and BD-1-AE)	45	22	8	36.4%	18	81.8%
	<b>Total</b>	<b>215</b>	<b>126</b>	<b>57</b>	<b>45.2%</b>	<b>80</b>	<b>63.5%</b>

## 3. Results of the Evaluation According to Five Criteria

### 3.1 Relevance

The relevance of the Project was high.

In 2003, the Eritrean government initiated “Emergency Demobilization and Reintegration Program” (hereinafter referred to as “EDRP”), under which some 200,000 soldiers was planned to be demobilized and reintegrated into society. Under the initiative of NCDRP, a responsible and implementing body of EDRP, 104,000 soldiers have been demobilized by 2005. In this context, to facilitate the DS’s reintegration by providing vocational training was one of emergent social needs.

The Japanese official development policy concerning Eritrea prioritized the assistance to the country’s reconstruction.

As for the appropriateness of the approach taken by the Project, its flexibility on implementing training courses contributed to keep the Project’s relevance under changing situations. Original plan of cooperation was to develop training courses by utilizing Skill Development Centers after their regeneration. On delay of its regeneration, the Project changed plan to utilize existing resources such as private training providers and

<sup>1</sup> As mentioned above, monitoring method on HD-1-SS/SL was different from those of other courses. Because the monitoring result on HD-1-SS/SL is largely different from other courses, follow-up interview study was conducted on the course of HD-1-SS/SL, HD-2-SS/SL and HD-3-SS/SL in February 2007 by MOE staff.

<sup>2</sup> Self-employment is included as well as employment

technical schools to develop courses.

The contents of the trainings are relevant to the labor market needs. As mentioned above, the Project conducts feasibility study when it develops a new course. 71.8% of the trainees are satisfied with the content of the training.

### 3.2 Effectiveness

The effectiveness of the Project is at a satisfactory level.

As previously mentioned, the trainees who complete the courses will total 494 through 25 training courses implemented by the Project. Almost 100% of trainees complete the course.

Monitoring results on trainees' employment situation after the course shows effectiveness of the course on reintegration of DS. 45.2% of the trainees employed or self-employed after the course in the same field as the course. Taking the fact that the economy in Eritrea is not so active, this figure should be evaluated positively.

### 3.3 Efficiency

The efficiency of the Project is at a satisfactory level.

Inputs from the Eritrean and Japanese sides were mostly appropriate in terms of quantity, quality and timing, such as assignment of Eritrean counterpart personnel, dispatch of Japanese experts and allocation of budget. According to the interview with personnel concerned, the counterpart training in Uganda would be more effective if it was longer. The provision of equipments for MOE, especially training materials, would be more efficient when they were provided earlier stage of the Project.

### 3.4 Impact

The Project has contributed to capacity development of the counterpart personnel in terms of planning, managing and monitoring training courses for DSs. The Project experience could be an asset in the future for facilitating further training of DSs in greater quantity. For example, MOE and NCDRP will continue to work together for implementing several training courses which were provided by the Project. Recently, MOE was requested by Ministry of Labor and Human Welfare to implement training course for DSs with special needs.

In addition, MOE would apply the experience through the Project to vocational training, which MOE is responsible for.

### 3.5 Sustainability

#### (1) Political and Organizational Sustainability

The Eritrean government is placing the issue of reintegration of DS in wider context of the development of the country and its human resources with other issues such as reintegration of resettled people and war sufferers, and vocational training for youth. MOE continues to be one of the leading ministries responsible for these issues.

#### (2) Financial Sustainability

Further work collaboration between MOE and NCDRP is expected during and after the Project period, which is ensuring the financial sustainability of training projects. Training projects would be more sustainable if additional finance is secured from other partners including, among others, NCDRP.



### (3) Technical Sustainability

In the course of the implementation of the Project, counterpart personnel of MOE and NCDRP enhanced their capacity on operation and management of basic skills training such as 1) needs assessment and planning of courses, 2) negotiation and contract making with training providers, and 3) monitoring of courses, and 4) follow-up study on employment situation of trainees completed training courses.

## 4. Conclusion

(1) In conclusion, based on the results of the evaluation study, the Project is expected to achieve the Project Purpose and Outputs set forth in the PDM by the end of the Project period. Therefore, the Team hereby concludes that the Technical Cooperation through the Project can be terminated on 14 June 2007 as originally scheduled.

(2) As the country recovers and the EDRP proceeds successfully, the important issue of the country is shifting from emergent social needs to stable development. In this context, the focus of governmental service has been broadened to education and training for wider population of the country.

## 5. Recommendations

### 5.1. Recommendations to be Considered Before the Completion of the Project

(1) In order to making use of the experiences gained through pilot courses by the Project, it is recommended for MOE to develop plans and proposals of training courses financed by NCDRP.

(2) For the purpose of evaluating the impact of the training on livelihood of trainees more correctly, it is recommended to share information on socio-economic profile of DSs collected during selection and information collected during the follow-up survey, which helps to understand their livelihood before training program is conducted.

(3) Regarding the introduction of SMCP at the end of the course, it is recommended that more practical information should be included to enhance better understanding by trainees.

### 5.2. Recommendations for the Ministry of Education and NCDRP to be Considered After the Completion of the Project

(1) As one of the most competent ministries, it is recommended for MOE to be active implementing body of vocational training for DSs continuously with strong financial support by NCDRP.

(2) All data and information collected through the Project should be maintained by NCDRP. Also, follow-up study should be continued by NCDRP.

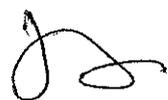


## 6. Lessons Learned

- (1) Flexible implementation of the Project which was realized by making use of existing resources such as the private training providers and technical schools of MOE contributed to accomplishment of the Project Purpose even when the original conditions was not satisfied.
- (2) Better collaboration among implementing partners, MOE, JICA, NCDRP, SMCP, and partners concerned was a key to success of the Project.
- (3) Traditionally, the duration of the training program is longer than six(6) months in Eritrea, however, the Project introduced three(3) months training program with intensive and practical content. This would be a good pilot for Eritrea to introduce short term training courses in the future.



- 36 -



Annex I Evaluation Grid

Evaluation criterion	Evaluation Question		Information/ data required	Information source	Data collection method
	Main Question	Sub Question			
Relevance	Are the Project Purpose and Overall Goal relevant to the needs of society in Eritrea?	Was the necessity of social reintegration of demobilized soldiers high during a transitional period in Eritrea? <sup>1</sup> Is soldiers' demobilization process progressing as planned?	1) Progress of the Demobilization and Reintegration Program for demobilized soldiers 1) Progress of soldiers' demobilization process	1) NCDRP (National Commission for Demobilization and Reintegration Program) 2) Ministry of Education 1) NCDRP	1) & 2) Interview 1) Interview
	Are the aims of Project relevant to the national development policy of Eritrea?	Importance of reintegration of demobilized soldiers in order to correspond social needs after conflict within the national development policy of Eritrea.	1) Political status or importance	1) Plan or policy of the Government of Eritrea	1) Data review (Interview)
	Conformity to ODA policy of Japan. Was project approach adequately selected?	Conformity of priority assistance subjects of Japanese Government. This project has aim to providing vocational training for 400 demobilized soldiers as an urgent measure. Was this project approach appropriate?	1) Priority assistance subjects of Japanese Government to Eritrea 1) Opinions of persons concerned	1) Assistance policy of Japan to Eritrea 2) JICA's assistance framework for Eritrea 1) C/Ps and Japanese Experts	Data review 1) & 2) Questionnaire, Interview
	Conformity of training courses of the Project with needs of target group (demobilized soldiers)	Are the training courses (hair dressing, construction, plumbing, and agricultural machinery etc.), that were carried out by the Project, conformity with the training needs of demobilized soldiers?	1) Demobilized soldiers' preference on training 2) Labour market needs	1) Report of Japanese experts	1) Data review

<sup>1</sup> Relevance is examined from the point of view of social needs for assistance to demobilized soldiers during transitional period after settlement an international dispute, not from the viewpoint of continuity of needs.

Evaluation criterion	Evaluation Question		Information/ data required	Information source	Data collection method
	Main Question	Sub Question			
Effectiveness	Achievement of Outputs	(Table of achievement)	(Table of achievement)	• (Table of achievement)	
	Is The Project Purpose Achieved? (Demobilized soldiers in the target areas acquire skills to improve their livelihood.)	(Table of achievement)	(Table of achievement)	• (Table of achievement)	
	Contribution of Outputs to achieve Project Purpose.	Were the Outputs enough to achieve the Project Purpose? Were its no wonder in the logic that "the Project Purpose would be achieved if all the Outputs were achieved?"	1) Opinions of persons concerned	1) C/Ps and Japanese Experts	1) Interview
	Factors hampered to achieve the Project Purpose.	Did ex-trainees have employment opportunity in the area related to their training courses? Are the training providers conducting training courses in good quality? Are there any other factors influenced to the effectiveness of the Project?	1) Information on project implementation process 2) Opinions of persons concerned	1) Reports of Japanese experts 2) Ex-trainees 1) C/Ps and Japanese Experts	1) Data review 2) Interview 1) Questionnaire, Interview
Degree of influence by personnel change or resignation of C/Ps		1) Number of persons changed or resigned, and its reasons 2) Opinions of persons concerned	1) Project progress reports 2) C/Ps and Japanese Experts	1) Data review 2) Interview	
Other factors influenced (influence of delay of progress of the World Bank Financed project)		1) Opinions of persons concerned	1) Project progress reports 2) C/Ps and Japanese Experts	1) Data review 2) Questionnaire	

Evaluation criterion	Evaluation Question		Information/ data required	Information source	Data collection method
	Main Question	Sub Question			
Efficiency	Were quality, quantity and timing of Inputs to the Project appropriate compared to outputs achieved by the Project?	Appropriateness about number, speciality, period, timing of dispatch of Japanese Experts.	<ul style="list-style-type: none"> <li>Record of dispatch of Japanese Experts</li> <li>Opinions of persons concerned</li> </ul>	1) Data of the Project 2) C/Ps and Japanese Experts	1) Data review 2) Questionnaire, Interview
		Appropriateness about kind, quantity and timing of installation of equipment.	<ul style="list-style-type: none"> <li>Record of procurement of equipment, Situation of use of equipment</li> <li>Opinions of persons concerned</li> </ul>	1) Data of the Project 2) C/Ps and Japanese Experts 3) Site observation	1) Data review 2) Questionnaire, Interview 3) Site observation
		Appropriateness about number, training contents, training period and timing of counterpart training in Japan and Uganda	<ul style="list-style-type: none"> <li>Record of counterpart training in Japan</li> <li>Opinions of persons concerned</li> </ul>	1) Record of C/P training in Japan and Uganda 2) C/Ps and Japanese Experts	1) Data review 2) Questionnaire, Interview
		Appropriateness about number, timing of assignment and capability C/P.	<ul style="list-style-type: none"> <li>Record of assignment of C/Ps</li> <li>Opinions of persons concerned</li> </ul>	1) List of C/P assigned 2) C/Ps and Japanese Experts	1) Data review 2) Questionnaire, Interview
		Appropriateness about budget expenditure by Eritrean side	<ul style="list-style-type: none"> <li>Budget expenditure by Eritrean side to the Project</li> <li>Opinions of persons concerned</li> </ul>	1) Data of budget allocation 2) C/Ps and Japanese Experts	1) Data review 2) Questionnaire, Interview
		Utilization of provided equipment at training courses	<ul style="list-style-type: none"> <li>Situation of use of equipment procured</li> </ul>	1) Equipment inventory 2) C/Ps	1) Data review 2) Interview
		Appropriateness of unit cost of training course (cost per training course)	<ul style="list-style-type: none"> <li>cost per training course</li> </ul>	1) Reports of Japanese experts, etc.	1) Data review, Interview
		Stability of C/Ps engaged in the Project	<ul style="list-style-type: none"> <li>Compare initial assignment of C/Ps and present assignment of C/Ps</li> </ul>	1) Project progress reports, etc.	1) Data review
		C/Ps who participated in the training in Japan and Uganda	<ul style="list-style-type: none"> <li>Other factors influenced.</li> </ul>	1) C/Ps and Japanese Experts	1) Interview
		Factors hampered that influenced on efficiency of the Project.			

Evaluation criterion	Evaluation Question		Information/ data required	Information source	Data collection method
	Main Question	Sub Question			
Impact	Is there expectation of achievement of Overall Goal "Demobilized soldiers in the target areas acquire skills to improve their livelihood."	(See table of achievement, prospect of achievement of the Overall Goal)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Related data</li> </ul>	(See table of achievement, prospect of achievement of the Overall Goal)	(See table of achievement, prospect of achievement of the Overall Goal)
		<p>Are assumptions set to achieving the Overall Goal of the Project is appropriate at present? Is there high possibility that the assumptions are satisfied?</p> <p>Is there expectation that other training courses for demobilized soldiers will be carried out by utilizing experiences of the training courses of the Project?</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Opinions of persons concerned</li> </ul>	1) C/Ps and Japanese Experts	1) Interview
	Other positive and negative impacts of the Project		<ul style="list-style-type: none"> <li>• Opinions of persons concerned</li> </ul>	1) Data of the Project 2) C/Ps and Japanese Experts	1) Data review 2) Questionnaire, Interview

Evaluation criterion	Evaluation Question		Information/ data required	Information source	Data collection method
	Main Question	Sub Question			
Sustainability	Importance of basic skill training for reintegration of demobilized soldiers in National Development Plan and other related policies.	Importance and recognition of the Project at the Ministry of Education (MOE). Continuity of political support to the Project.	<ul style="list-style-type: none"> <li>National Development Plan and other related policies</li> <li>Opinions of persons concerned</li> </ul>	1) National Development Plan and other related policies etc. 1) Ministry of Education	1) Data review 1) Interview
	Does MOE have capability to continue and manage the outcomes of the Project?	Capability of MOE on operation and management of the activities after completion of JICA cooperation: (Will necessary number of staff with appropriate technical knowledge and skills will be assigned even after the completion of the Project?)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Staff assignment and continuity</li> <li>Opinions of persons concerned</li> </ul>	1) Related data 2) Staff of MOE 3) Japanese Experts	1) Data review 2) & 3) Interview
	Is there expectation on assuring budget for the basic skill training courses for integration of demobilized soldiers by MOE or other governmental agency in future? Can appropriate budget be secured?		<ul style="list-style-type: none"> <li>Opinions of persons concerned</li> </ul>	1) Data on budget disbursed by Eritrean government and future budget plan 2) Staff of MOE 3) Japanese Experts	1) Data review 2) & 3) Interview
	Will techniques transferred by the Project become established?	Ownership of Eritrean side <ul style="list-style-type: none"> <li>Do C/Ps and MOE have desire or will to continue basic skill training courses by utilizing outcomes of the Project?</li> </ul> Technical level of C/Ps <ul style="list-style-type: none"> <li>Do C/Ps have appropriate capacity on planning of basic skill training, operation and management of training courses, making records of data related training course and utilization of those data, monitoring of training courses and monitoring of situation of employment of ex-trainees?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Opinions of persons concerned</li> <li>Opinions of persons concerned</li> </ul>	1) Staff of MOE and C/Ps 2) Japanese Experts 1) C/Ps and Japanese Experts	1) & 2) Questionnaire, Interview 1) Questionnaire, Interview
	Will equipment procured by the Project be maintained well? <ul style="list-style-type: none"> <li>Is equipment managed with the list of equipment?</li> <li>Is management of equipment carried out with appropriate rule (Key keeper and records of lending)?</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>Opinions of persons concerned</li> </ul>	1) C/Ps and Japanese Experts 2) List of equipment	1) Questionnaire, Interview 2) Site observation, equipment list
	What are major factors that facilitated or hampered the sustainability, or could facilitate or hamper in future?		<ul style="list-style-type: none"> <li>Opinions of persons concerned</li> </ul>	1) C/Ps and Japanese Experts	1) Questionnaire, Interview

## Implementation Process

	Evaluation Question		Information source	Data collection method
	Main Question	Sub Question		
Change or of modification of the project plan or the project implementation structure in order to achieve the outputs which were planned before the commencement of the Project.	Issues or problems grasped in the course of the project implementation. How those issues were solved.	1) Project progress report 2) C/Ps and Japanese Experts	1) Data review 2) Interview	
	Appropriateness of methodology of technical transfer	Is the any problem on methodology of technical transfer? If available, what kinds of problems. Is there any solution?	1) C/Ps and Japanese Experts	1) Interview
Project management system	Timeliness of JCC meetings and appropriateness of themes of discussion	1) Project progress report 2) C/Ps and Japanese Experts	1) Data review 2) Questionnaire, Interview	
	How progress of the Project has been monitored?	1) Project progress report 2) C/Ps and Japanese Experts	1) Data review 2) Questionnaire, Interview	
	Appropriateness of communication in the Project	1) C/Ps and Japanese Experts	1) Questionnaire, Interview	
	Relationship among the Project, JICA Kenya office and JICA headquarters	1) Japanese experts	1) Interview	

Table of achievement (Achievement of the Overall Goal, Project Purpose and Outputs at the time of evaluation)

Achievement	Items		Information/ data required (Indicators)	Information source	Data collection method
	Main items	Sub items			
Achievement	Prospect of achievement of the Overall Goal (Demobilized soldiers who were trained in the Project are smoothly reintegrated into society.)		<p>1) The livelihood of the demobilized soldiers trained in the Project is improved by December 2008.</p> <p>1) 400 demobilized soldiers acquire skills in the training courses by June 2007.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Hair dressing : 10 courses</li> <li>◆ Plumbing: 4 course</li> <li>◆ Construction: 2 courses</li> <li>◆ Agricultural machinery: 3 courses</li> <li>◆ Woodworking: 2 courses</li> <li>◆ Metalworking: 4 courses</li> </ul> <p>1) Implementation plan for basic training courses is prepared.</p> <p>2) Selection criteria of the trainees are developed.</p> <p>3) Basic data of training course and trainee is stored properly to be available by the Project.</p> <p>4) Training materials and curricula are developed.</p> <p>5) More than 400 trainees apply and are selected for the courses.</p> <p>6) At least 12 training courses are conducted.</p> <p>7) At the end of the related course, micro finance orientations are conducted.</p> <p>1) Regular training needs survey is carried out (more than twice a year)</p> <p>2) Regular monitoring is carried out by the Project (at least once a month per a course).</p> <p>3) Employment of trainees is monitored (more than 80%).</p> <p>4) There is feedback of monitoring and evaluation to the training course.</p> <p>5) Skill assessment system is developed.</p>	<p>1) Interview data of graduates</p> <p>2) Monitoring study data on ex-trainees (employment situation)</p> <p>1) Training Reports</p> <p>2) Number of certificates granted by the Ministry of Education.</p>	<p>1) Interview with graduates</p> <p>2) Data review</p> <p>1) Data review</p> <p>2) Data review</p>
	Achievement of the Project Purpose (Demobilized soldiers in the target areas acquire skills to improve their livelihood.)	<p>Output 1: Basic skill training course for reintegration of DS is developed and conducted at Asmara and other local training institutes and/or surrounding areas.</p> <p>Output 2: Basic skill training system for DS is reviewed, evaluated, and improved in order to match the training program to needs of DS and surrounding local markets.</p>		<p>1) Implementation plan for basic training courses (operation plan and budget)</p> <p>1) Selection criteria</p> <p>1) Situation of recording of basic data and its utilization</p> <p>1) Training materials and curricula</p> <p>1) Training Reports</p> <p>1) Training Reports</p> <p>1) Training Reports</p> <p>1) Needs survey reports</p> <p>1) Monitoring reports</p> <p>1) Employment monitoring reports</p> <p>1) Data on feedback of monitoring</p> <p>1) Skill assessment framework</p>	<p>1) Data review</p> <p>1) Data review</p> <p>2) Interview</p> <p>1) Data review</p>

## Annex II Project Design Matrix (PDM)

Project Title: Basic Training for Reintegration of Demobilized Soldiers in Eritrea      Period: Two years (From June 15, 2005 to June 14, 2007)  
 Project Site: Asmara and other target areas      Target Group: Demobilized Soldiers      Date: November 28, 2006

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
<i>Overall Goal</i>			
Demobilized soldiers who were trained in the Project are smoothly reintegrated into society.	<ul style="list-style-type: none"> <li>The livelihood of the demobilized soldiers trained in the Project is improved by December 2008.</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>Interview data of graduates</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Demobilized soldiers are not mobilized again.</li> </ul>
<i>Project Purpose</i>			
Demobilized soldiers in the target areas acquire skills to improve their livelihood.	<ul style="list-style-type: none"> <li>400 demobilized soldiers acquire skills in the training courses by June 2007.</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>Training Reports</li> <li>Number of certificates granted by the Ministry of Education.</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Eritrean economy continues to be stable.</li> <li>Each demobilized soldier makes efforts to contribute to society.</li> </ul>
<i>Outputs</i>			
<b>Output 1:</b> Basic skill training course for reintegration of DS is developed and conducted at Asmara and other local training institutes and/or surrounding areas.	<ul style="list-style-type: none"> <li>Implementation plan for basic training courses is prepared.</li> <li>Selection criteria of the trainees are developed.</li> <li>Basic data of training course and trainee is stored properly to be available by the Project.</li> <li>Training materials and curricula are developed.</li> <li>More than 400 trainees apply and are selected for the courses.</li> <li>At least 12 training courses are conducted.</li> <li>At the end of the related course, micro finance orientations are conducted.</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>Implementation plan for basic training courses (operation plan and budget)</li> <li>Selection criteria</li> <li>Training materials and curricula</li> <li>Training Reports</li> </ol>	
<b>Output 2:</b> Basic skill training system for DS is reviewed, evaluated, and improved in order to match the training program to needs of DS and surrounding local markets.	<ul style="list-style-type: none"> <li>Regular training needs survey is carried out (more than twice a year)</li> <li>Regular monitoring is carried out by the Project (at least once a month per a course).</li> <li>Employment of trainees is monitored (more than 80%).</li> <li>There is feedback of monitoring and evaluation to the training course.</li> <li>Skill assessment system is developed.</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>Needs survey reports</li> <li>Monitoring reports</li> <li>Employment monitoring reports</li> <li>Skill assessment framework</li> </ol>	

DS: Demobilized Soldiers

<u>Activities of the Project</u>	<u>Inputs</u>	
<p><b>Output 1:</b></p> <p>Activity 1-1: Implementation plan for basic skill training courses is developed.</p> <p>Activity 1-2: Training materials and curriculum are prepared.</p> <p>Activity 1-3: Database system of the DS training is prepared.</p> <p>Activity 1-4: DS trainees are selected (at Regional NCDRP Offices)</p> <p>Activity 1-5: Basic training courses are conducted at Asmara, local institutes, and/or related facilities.</p> <p>Activity 1-6: DS trainees are able to receive advice and suggestions on how to improve their livelihood.</p> <p>Activity 1-7: Job creation orientations are conducted to encourage self-employment business and entrepreneurship.</p> <p><b>Output 2:</b></p> <p>Activity 2-1: Monitor training needs periodically (market survey, workshops, etc.)</p> <p>Activity 2-2: Follow-up monitoring and evaluation is conducted for graduates of the courses.</p> <p>Activity 2-3: Skill assessment system is established and reviewed regularly.</p> <p>Activity 2-4: Training courses are revised.</p>	<p><u>Eritrea Side:</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Operational costs:</li> <li>2. Counterpart personnel: <ul style="list-style-type: none"> <li>• Training manager</li> <li>• Monitoring staff</li> <li>• Logistics officer</li> </ul> </li> <li>3. Land and facilities <ul style="list-style-type: none"> <li>• Training and office facilities at MOE</li> </ul> </li> <li>4 Necessary equipment and facilities</li> <li>5 Arrangement of privileges for Japanese experts</li> </ol> <p><u>Japanese Side:</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Dispatch of experts [Long-term experts] <ul style="list-style-type: none"> <li>• Chief Advisor/ Basic skill training policy</li> <li>• Coordinator/ Basic skill training [Short-term experts]</li> </ul> <p>To be dispatched upon necessity.</p> </li> <li>2. Counterpart training</li> <li>3. Equipment and materials (annex)</li> <li>4. Supplementary budget for local expenditure</li> </ol>	
		<p><u>Preconditions</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Law and order continue to be secured.</li> <li>• No social or political unrest is caused by a conflict between Ethiopia and Eritrea or any other neighboring countries.</li> </ul>

### Annex III Plan of Operation (Planned Versus Actual)

ACTIVITIES		Progress of the activities											
		2005				2006				2007			
Activity 1	Years	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
		1-1: implementation plan for basic skill training courses is developed.											
1-2: Training materials and curricula are prepared.													
1-3: Database system of the DS training is prepared.													
1-4: DS trainees are selected (at Regional NCDRP Offices)													
1-5: Basic training courses are conducted at Asmara, local institutes, and/or related facilities.													
1-6: DS trainees are able to receive advice and suggestions on how to improve their livelihood.													
1-7: Job creation orientations are conducted to encourage self-employment business and entrepreneurship.													
2-1: Monitor training needs periodically (market survey, workshops, etc.)	Activity 2												
2-2: Follow-up monitoring and evaluation is conducted for graduates of the courses.													
2-3: Skill assessment system is established and reviewed regularly.													
2-4: Training courses are revised.													

Planned  Implemented 





Annex IV List of Japanese Experts

(1) Long-term Experts

	Field of Assignment	Name	Period		M/M	Year			Remarks
			From	To		2005	2006	2007	
1	Chief Advisor/Basic Training Planning	Yoshikazu ITO	2/21/2006	6/30/2007	16.5				
2	Project Coordinator/ Basic Skills Training	Takashi INOUE	1/4/2005	6/14/2007	29.7				
				Total	46.2				

(2) Short-term Experts

	Field of Assignment	Name	Period		M/M	Year			Remarks
			From	To		2005	2006	2007	
1	Basic Training Planning	Yasuko KUSAKARI	8/16/2005	11/23/2005	3.3				
2	Training Evaluation and Planning	Akira SATO	10/22/2006	12/20/2006	2.0				
3	Training Program Management	Osamu SASAKI	2/11/2007	3/22/2007	1.3				
				Total	6.6				

## Annex V List of Eritrean Counterparts Personnel Trained in Japan and Uganda

	Name	Organization and position	Assignment for the Project	Field of Training	Period		Remarks
					From	To	
1	Tesfai Seyoum MEDHANE	Director General, Department of TVET, MOE	Project Director	Vocational Training Policy	10/1/2005	10/24/2005	Training in Japan
2	Measho Gebretnsae BERHANE	Director, Monitoring and Quality Assurance Division, TVET, MOE	Project Manager	Vocational Training Policy	10/1/2005	10/24/2005	Training in Japan
3	Ghirmai ESTIFANOS	Unit Head, Vocational Education and Training Unit, Curriculum Planning and Development Division, TVET, MOE	Deputy Project Manager	Training Management in Vocational Training	6/13/2006	7/22/2006	Training in Japan (Group training course)
4	Abraham MENGESHA	Unit Head, Assessment Unit, Monitoring and Quality Assurance Division, TVET, MOE	Supporting Staff	Training Program Management	9/3/2006	9/30/2006	Training in Uganda
5	Ghebreziabher YOHANES	Technical Education and Training Unit, Monitoring and Quality Assurance Division, TVET, MOE	Supporting Staff	Training Program Management	9/3/2006	9/30/2006	Training in Uganda
6	Kifleyus ASFAHA	Vocational Education and Training Unit, Curriculum Planning and Development Division, TVET, MOE	Training Manager	Training Program Management	9/3/2006	9/30/2006	Training in Uganda
7	Mehreteab MEDHANIE	NCDRP Training officer	Supporting Staff	Training Program Management	9/3/2006	9/30/2006	Training in Uganda

MOE: Ministry of Education

TVET: Technical and Vocational Education and Training

NCDRP: National Commission for Demobilization and Re-integration Program

**Annex VI List of Major Equipments Provided by the Japanese Side**

No.	Item	Model	Qty.	Unit Cost	Sub Total	Place of use	Condition
1	Automobile	Toyota Hilux LN166L-PRMDS	1	US\$36,500	US\$36,500	TVET-MOE	Good
2	Photocopier	Ricoh Aficio 2022	1	US\$4,357	US\$4,357	TVET-MOE	Good
3	Computer (Desk Top)	DELL Optipley GX 520	1	US\$1,757	US\$1,757	JICA-MOE	Good
4	Computer Printer	HP laser jet 1020	1	US\$207	US\$207	TVET-MOE	Good
5	Computer (Lap Top)	Toshiba PTA 30 E	1	US\$1,814	US\$1,814	TVET-MOE	Good
6	LCD Projector	DELL 2300 MP	1	US\$3,313	US\$3,313	TVET-MOE	Good
7	Tripod Screen	Screen size 180 x 180 cm	1	US\$193	US\$193	TVET-MOE	Good
8	UPS	APC Back UPS650	1	US\$300	US\$300	JICA-MOE	Good
9	Photocopy Machine	Olivetti D-Copia 16	1	US\$4,000	US\$4,000	JICA-MOE	Good
10	Laser Printer	HP laser jet 1010	1	US\$278	US\$278	JICA-MOE	Good
11	PC Monitor	HP 15-LCD	1	US\$556	US\$556	JICA-MOE	Good
12	Water Dispenser	Nikai NWD1203	1	US\$253	US\$253	JICA-MOE	Good
13	Safe Box	Boss CST46	1	US\$393	US\$393	JICA-MOE	Good
14	Scanner	HP Scanjet 2400	1	US\$260	US\$260	JICA-MOE	Good
15	Wireless LAN Router	Linksys WRT54G	1	US\$130	US\$130	JICA-MOE	Good
16	Scanner	HP Scanjet 2200	1	US\$170	US\$170	TVET-MOE	Good
17	Digital Camera	Panasonic DMC-LZ2	1	US\$272	US\$272	JICA-MOE	Good
18	Table	D-140 round table	1	US\$333	US\$333	JICA-MOE	Good
19	PC Printer	HP Laserjet 2600n	1	US\$575	US\$575	JICA-MOE	Good
20	Potable Generator	Tiger 2700	1	US\$180	US\$180	JICA-MOE	Good
21	Bicycle	Xidesheng Wonder Admire	1	US\$170	US\$170	JICA-MOE	Good

**Annex VI List of Major Equipments Provided by the Japanese Side (under procurement)**

No.	Item	Specifications	Reference Model	Qty.	Unit Cost	Sub Total	Place of use	Condition
1	Photocopier	Desk top type, Digital copier, 22 copy/min., A3 max.	Ricoh Aficio 2022	1	US\$5,710	US\$5,710.00	JICA-MOE	-
2	Computer (Desk Top)	P-4 / 2.8 GHz, 256MB-RAM, 40GB-HDD, LCD17"Monitor, Required Software, UPS	DELL Dimension 5100 w/UPS	1	US\$1,600	US\$1,600.00	JICA-MOE	-
3	Computer Printer	Laser B/W, 600 dpi, 15 ppm, 2 MB Memory, USB port	HP laserJet 1020	1	US\$350	US\$350.00	JICA-MOE	-
	Printer Toner Cartridge	for the above equipment		5	US\$120	US\$600.00	JICA-MOE	-
4	Computer Color Printer	Laser Color, 600 dpi, 4 ppm, 2 MB Memory, USB port	HP laserJet 2600n	1	US\$600	US\$600.00	JICA-MOE	-
	Toner Cartridge Set	for the above equipment	Toner set of 4-colors	2	US\$500	US\$1,000.00	JICA-MOE	-
5	Computer (Lap Top)	P-M / 1.6 GHz, 256MB-RAM, 40GB-HDD, LCD15"Monitor, Required Software	DELL Inspiron 6000	2	US\$1,670	US\$3,340.00	JICA-MOE	-
6	LCD Projector	Compact type, XGA resolution, 1800 lmn.ANSI	HP MP3135	1	US\$2,600	US\$2,600.00	JICA-MOE	-
7	Tripod Screen	Tripod stand type, Screen size 150 x 150 cm or more	3M PSTR60	1	US\$500	US\$500.00	JICA-MOE	-
8	Portable Arc Welder	Portable Type, 220V-180A, with accessories and consumables	Clarke Arc 240/180	3	US\$850	US\$2,550.00	INST-MOE	-

**Annex VI List of Major Equipments Provided by the Japanese Side (under procurement)**

No.	Item	Specifications	Reference Model	Qty.	Unit Cost	Sub Total	Place of use	Condition
9	Portable MIG Welder	Portable Type, 220V-180A, with accessories and consumables	Clarke 180EN MIG	3	US\$950	US\$2,850.00	INST-MOE	-
10	Portable Spot Welder	Portable Type, 220V-180A, with accessories and consumables	Hobart 500442	2	US\$850	US\$1,700.00	INST-MOE	-
11	Gas Welding Torch Set	Standard Set for Brazing and Cutting, with Gas regulators	Metalmaster Med-duty Victor Style Outfit Set	5	US\$250	US\$1,250.00	INST-MOE	-
12	Hydraulic Pipe Bender	Portable Type, 10 ton, with 1-3" Die Set	AMPRO APH100	1	US\$1,200	US\$1,200.00	INST-MOE	-
13	Angle Grinder	9" disc, 220 V, 1.5-2kW	Clarke MT-1209A	5	US\$120	US\$600.00	INST-MOE	-
14	Angle Grinder	4.5" disc, 220V, 700-800W	Clark MT-1205A	5	US\$90	US\$450.00	INST-MOE	-
15	Bench Grinder	6" wheel, 220V	Clark BT-1002-6	2	US\$135	US\$270.00	INST-MOE	-
16	Band Saw Machine	220V, 1 HP Light Duty, Metal and Wood saw blade 3-13mm, 200mm cutting height		1	US\$2,000	US\$2,000.00	INST-MOE	-
17	Hand Circular Saw	220V, 700-900W, depth=40mm, wood saw disc	Black&Decker KS40	3	US\$120	US\$360.00	INST-MOE	-
18	Wood Planer	220V, 650W, 100mm width, 2mm depth	Black&Decker KW712	3	US\$180	US\$540.00	INST-MOE	-

- 51 -

## Annex VII Expenses for Local Activities Borne by the Japanese Side

(Unit: US dollar)

Category	Japanese Fiscal Year (April - March)				Total
	2004	2005	2006*	2007*	
Project Management Expenses	15,882	33,779	32,030	8,562	90,253
Training Course Expenses	0	54,485	160,308	30,750	245,543
<b>TOTAL</b>	15,882	88,264	192,338	39,312	335,796

※ The amount includes the planned budget to be spent in between March and June 2007.





### Annex VIII List of Counterpart Personnel Assigned to the Project

No.	Name	Specialty (Assignment for the Project)	Position	Period		Remarks
				From	To	
1	Tesfay Seyoum	Project Director	Director General, Department of TVET, MOE	2005.06.15	At present	Training in Japan
2	Measho Gebretnsae	Project Manager	Director, Monitoring and Quality Assurance Division, Department of TVET, MOE	2005.06.15	At present	Training in Japan
3	Ghirmai Estifanos	Deputy Project Manager	Unit Head, Vocational Education and Training Unit, Curriculum Planning and Development Division, TVET, MOE	2005.06.15	At present	Training in Japan
4	Kifleysus Asfaha	Training Manager	Training Officer, Vocational Education and Training Unit, Curriculum Planning and Development Division, Department of TVET, MOE	2005.06.15	At present	Training in Uganda
5	Abraham Mengesha	Supporting Staff	Unit Head, Assessment Unit, Monitoring and Quality Assurance Division, Department of TVET, MOE	2005.06.15	At present	Training in Uganda
6	Ghebregziabher Yohannes	Supporting Staff	Unit Head, Technical Education and Training Unit, Curriculum Planning and Development Division, Department of TVET, MOE	2005.06.15	At present	Training in Uganda
7	Mehreteab Medhanie	Supporting Staff	Training Officer, NCDRP	2005.06.15	At present	Training in Uganda
8	Berhane Haile	Supporting Staff	Training Officer, NCDRP	2005.06.15	At present	-

MOE: Ministry of Education

TVET: Technical and Vocational Education and Training

NCDRP: National Commission for Demobilization and Re-integration Program

**Annex IX List of the training courses**

as of 2nd Mar 2007

No.	Training field	Training Course	Code	Training Provider	Course period	Duration (week)	Trainees			No. of Completion	Remarks
							Total	Male	Female		
1		Hairdressing	HD-1-SS	Sesen	Oct 03 - Dec 23, 2005	12	15	0	15	15	
2		Hairdressing	HD-1-SL	Salina	Oct 03 - Dec 23, 2005	12	15	0	15	15	
3		Hairdressing	HD-2-SS	Sesen	Mar 1 - May 23, 2006	12	30	0	30	30	
4		Hairdressing	HD-2-SL	Salina	Mar 1 - May 23, 2006	12	31	0	31	31	
5		Hairdressing	HD-3-SS	Sesen	July 10 - Oct 7, 2006	12	30	0	30	30	
6		Hairdressing	HD-3-SL	Salina	July 10 - Oct 7, 2006	12	30	0	30	29	
7		Hairdressing	HD-4-SS	Sesen	Dec 26 - Mar 23, 2007	13	30	0	30		under implementation
8		Hairdressing	HD-4-SL	Salina	Feb 05 - May 04, 2007	13	36	0	36		under implementation
9		Welding	BD-1-WL	Bdho Construction	Jan 02 - Mar 24, 2006	12	14	12	2	14	
10		Electric Installation	BD-1-EI	Bdho Construction	Jan 02 - Mar 24, 2006	12	15	13	2	15	
11	Construction	Body Repair/ Spray Painting	BD-1-SP	Bdho Construction	Jan 02 - Mar 24, 2006	12	5	3	2	5	
12		Auto Electric	BD-1-AE	Bdho Construction	Jan 02 - Mar 24, 2006	12	11	8	3	11	
13		Construction	MH-c	Mai Habar Tech. Sch.	Mar 12 - May 31, 2007	12	20				in the process of selection
14		Plumbing	PL-1	Even Plumbing	Dec 28 - Feb 17, 2006	8	20	19	1	20	
15	Plumbing	Plumbing	MH-1	Mai Habar Tech. Sch.	Aug 28 - Nov 24, 2006	12	19	18	1	18	
16		Plumbing	MH-2	Mai Habar Tech. Sch.	Dec 04, 2006 - Mar 02, 2007	12	20	17	3	19	
17		Agricultural Machinery Operation	HG-1-MO	Hagaz Ag-tech. Sch	Sep 28 - Dec 22, 2006	12	16	16	0	16	
18		Agricultural Machinery Maintenance	HG-1-MM	Hagaz Ag-tech. Sch	Sep 28 - Dec 22, 2006	12	15	15	0	15	
19	Agriculture	Livestock Handling	HG-1-LH	Hagaz Ag-tech. Sch	Sep 28 - Dec 22, 2006	12	11	4	7	11	
20		Livestock Handling (Poultry)	HG-2	Hagaz Ag-tech. Sch	Mar 19 - Jun 08, 2007	12	20				in the process of selection
21		Woodwork	WD-1	MoE Production W/shop	Nov 27, 2006 - Mar 23, 2007	17	19	16	3		under implementation
22	Woodwork	Woodwork	MH-w	Mai Habar Tech. Sch.	Feb 12, 2007 - May 10, 2007	13	16	13	3		under implementation
23		Woodwork	AT-w	Asmara Tec. Sch.	Feb 13, 2007 - May 11, 2007	13	20	13	7		under implementation
24	Metalwork	Metalwork	MH-m	Mai Habar Tech. Sch.	Feb 12, 2007 - May 10, 2007	13	16	15	1		under implementation
25		Metalwork	AT-m	Asmara Tec. Sch.	Feb 13, 2007 - May 11, 2007	13	20	17	3		under implementation
<b>Total</b>							<b>494</b>	<b>199</b>	<b>255</b>	<b>294</b>	

4. 評価グリッド

評価グリッド： エリトリア 除隊兵士の社会復帰のための基礎訓練プロジェクト 終了時評価調査

5 項目 その他	評価設問		必要なデータ	情報源	調査結果
	大項目	小項目			
妥当性	プロジェクト目標及び上位目標は、エリトリア国社会のニーズに沿っているかどうか。	エリトリアの移行期において除隊兵士の社会復帰の必要性が高いものであったか。 <sup>1</sup> 兵士除隊のプロセスが順調に進んでいるか。	① 除隊兵士の社会復帰プログラムの実施状況 ① 兵士除隊のプロセスの現状	① 除隊・社会復帰プログラム (DPR) 委員会 ② 教育省 ① 除隊・社会復帰プログラム (DPR) 委員会 ① 政府の政策・方針など	エリトリア政府は、30 万人の兵士のうち 20 万人を除隊するという計画を立て、除隊並びに除隊兵士の社会復帰支援に高いニーズがあった。除隊予定の兵士の中には、技能を持たない者もおり (推計値で約 2 万人)、そのような人達の社会復帰を支援する方策の一つとして、技能訓練提供が重要であった。 30 万人の兵士のうち 20 万人を除隊するという計画は、2005 年までに累計約 10 万 4 千人まで進んだが、エリトリア・エチオピア国間の国境をめぐる緊張関係が続いているため、除隊する兵士数の下方修正がなされた。 2001 年にエリトリア政府は、30 万人の兵士のうち 20 万人を除隊させるため、除隊・社会復帰プログラムを計画し、同年に NCDPR (動員解除社会復帰プログラム国家委員会) を設置し、2003 年からこのプログラムを開始した。上記の通り、除隊プロセスは 2005 年までに累計 10 万 4 千人まで進んでおり、除隊兵士の社会復帰を支援するニーズは高く、政府の優先課題の一つに位置付けられていた。ただし現在では、除隊兵士に限らず、より広い範囲の人々の能力開発に政府の重点がシフトしつつある。
	日本の援助政策に合致しているか。	対エリトリア国援助方針との整合性はあるか。	① 我が国のエリトリア国に対する協力重点分野 ① 関係者の意見	① 日本のエリトリアに対する援助方針 ② JICA 事業概要 ① C/Ps ② 専門家	我が国のエリトリアに対する ODA の基本方針には、兵士の動員解除・除隊兵士の社会復帰支援が含まれており、我が国の援助政策に合致している。 プロジェクトアプローチに関しては、状況に合わせて柔軟に研修コースを実施してきたことは適切であったと言える。具体的には、当初、エリトリア側が計画していた SDC 再建後に、SDC で研修コースを実施する計画であったが、この SDC 再建計画が遅れているため、プロジェクト期間中に SDC を利用することが不可能であることが明確になり、既存の訓練施設 (民間の訓練プロバイダーや公立の技術学校) を利用する計画に変更した <sup>2</sup> 。

<sup>1</sup> 紛争の解決等に伴う一時的で緊急な社会のニーズに対応する DDR (除隊兵士支援) の特徴を踏まえ、ニーズの継続性によって妥当性を検討するのではなく、移行期における社会ニーズ  
<sup>2</sup> なお現状から判断して、SDC が再建される見込みはなくなっている。

5 項目 その他	評価設問		必要なデータ	情報源	調査結果														
	大項目	小項目																	
妥当性	プロジェクトはターゲットグループ(除隊兵士)のニーズに合致しているか。	プロジェクトで実施した訓練コース(美容師、建設、配管、農業機械)は除隊兵士の訓練ニーズに合致しているか。	① 除隊兵士の訓練志向 ② 労働市場ニーズ	① 専門家報告書	<p>2006 年末に派遣された短期専門家は、その報告書の中で、各訓練コースの選択の妥当性について分析しているのを、それを下表に記載する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>訓練コース</th> <th>コース選択の妥当性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>美容</td> <td>アスマラ市内の登録美容院リスト(通商産業省提供)、美容院、訓練校へのヒアリングにより、訓練・市場ニーズを確認(2005 年)第 1 期修了生の就業率の高さ(8 割)からも、当初の科目選択の妥当性に問題なかったといえる。カウンセラーパートから、美容師需要が飽和していないか調査したいという声も挙がったが、この点については未調査。訓練プロバイダーの話によればアスマラ郊外及び他地域の需要はあはずとのこと。</td> </tr> <tr> <td>配管</td> <td>2005 年 7 月に行われた産業団体(Employer's Federation of Eritrea)へのリサーチによれば、アスマラ郊外に 3,000 軒程の住居建設が建設途上にあるなど、旺盛な建設需要が確認されていた。その後、2006 年 5 月～6 月から、政策により民間建設会社の経営活動が停止しており、その結果、一時的に配管工への需要も縮小している。ただし、デケムハレの金属加工業者を訪問調査した際、配管工のニーズは比較的堅調だというコメントもあった。建設業の停滞は一時的なものだけというのがカウンセラーパートや NCDRP 関係者の一致した見解であり、今後再び配管工のニーズは拡大していくものと思われる。</td> </tr> <tr> <td>建設関連</td> <td>2005 年 7 月に行われた産業団体(Employer's Federation of Eritrea)へのリサーチにより、建設関連の訓練ニーズがあると判断された。今回、各地方で NCDRP 等にヒアリングしても、建設関連は訓練ニーズとして常に上位に挙げられている。正確にはこれら 4 科目(溶接、電気工事、自動車電装、塗装)は建設技能そのものではなく、建設現場に付随する周辺技能であるが、潜在的訓練ニーズは高いと思われる。(自動車電装はトラック整備としての位置付け)</td> </tr> <tr> <td>農業関連</td> <td>エリトリア国労働人口のうち農業人口は 9 割を占める。農業振興は最も大きな経済課題の一つと言えるため、訓練ニーズは高いと言える。</td> </tr> <tr> <td>木工</td> <td>潜在的雇用吸収力の大きい建設関連業種として位置づけられている。家具製作等のための基礎技能訓練として企画されている。</td> </tr> <tr> <td>金属加工</td> <td>潜在的雇用吸収力の大きい建設関連業種として位置づけられている。窓枠や家具製作等のための基礎技能訓練として企画されている。</td> </tr> </tbody> </table> <p>以上の通り、訓練コース開発時に労働市場を勘案した訓練コースが企画・実施されていると判断される。また、エリトリア国の労働人口の約 8 割が農業に従事していること、また復興の途上にありインフラ整備や建築物の建設需要が大きいと考えられることから、建設業関連及び農業関連の訓練コースを選定していることの妥当性は高いと判断される。</p> <p>また、本終了時評価に際し実施した研修受講者へのアンケート結果では 70.8%の受講者が研修内容に満足している結果を勘案すると、本プロジェクトの研修コースの内容は、労働市場と整合性があるとと言える。</p>	訓練コース	コース選択の妥当性	美容	アスマラ市内の登録美容院リスト(通商産業省提供)、美容院、訓練校へのヒアリングにより、訓練・市場ニーズを確認(2005 年)第 1 期修了生の就業率の高さ(8 割)からも、当初の科目選択の妥当性に問題なかったといえる。カウンセラーパートから、美容師需要が飽和していないか調査したいという声も挙がったが、この点については未調査。訓練プロバイダーの話によればアスマラ郊外及び他地域の需要はあはずとのこと。	配管	2005 年 7 月に行われた産業団体(Employer's Federation of Eritrea)へのリサーチによれば、アスマラ郊外に 3,000 軒程の住居建設が建設途上にあるなど、旺盛な建設需要が確認されていた。その後、2006 年 5 月～6 月から、政策により民間建設会社の経営活動が停止しており、その結果、一時的に配管工への需要も縮小している。ただし、デケムハレの金属加工業者を訪問調査した際、配管工のニーズは比較的堅調だというコメントもあった。建設業の停滞は一時的なものだけというのがカウンセラーパートや NCDRP 関係者の一致した見解であり、今後再び配管工のニーズは拡大していくものと思われる。	建設関連	2005 年 7 月に行われた産業団体(Employer's Federation of Eritrea)へのリサーチにより、建設関連の訓練ニーズがあると判断された。今回、各地方で NCDRP 等にヒアリングしても、建設関連は訓練ニーズとして常に上位に挙げられている。正確にはこれら 4 科目(溶接、電気工事、自動車電装、塗装)は建設技能そのものではなく、建設現場に付随する周辺技能であるが、潜在的訓練ニーズは高いと思われる。(自動車電装はトラック整備としての位置付け)	農業関連	エリトリア国労働人口のうち農業人口は 9 割を占める。農業振興は最も大きな経済課題の一つと言えるため、訓練ニーズは高いと言える。	木工	潜在的雇用吸収力の大きい建設関連業種として位置づけられている。家具製作等のための基礎技能訓練として企画されている。	金属加工	潜在的雇用吸収力の大きい建設関連業種として位置づけられている。窓枠や家具製作等のための基礎技能訓練として企画されている。
訓練コース	コース選択の妥当性																		
美容	アスマラ市内の登録美容院リスト(通商産業省提供)、美容院、訓練校へのヒアリングにより、訓練・市場ニーズを確認(2005 年)第 1 期修了生の就業率の高さ(8 割)からも、当初の科目選択の妥当性に問題なかったといえる。カウンセラーパートから、美容師需要が飽和していないか調査したいという声も挙がったが、この点については未調査。訓練プロバイダーの話によればアスマラ郊外及び他地域の需要はあはずとのこと。																		
配管	2005 年 7 月に行われた産業団体(Employer's Federation of Eritrea)へのリサーチによれば、アスマラ郊外に 3,000 軒程の住居建設が建設途上にあるなど、旺盛な建設需要が確認されていた。その後、2006 年 5 月～6 月から、政策により民間建設会社の経営活動が停止しており、その結果、一時的に配管工への需要も縮小している。ただし、デケムハレの金属加工業者を訪問調査した際、配管工のニーズは比較的堅調だというコメントもあった。建設業の停滞は一時的なものだけというのがカウンセラーパートや NCDRP 関係者の一致した見解であり、今後再び配管工のニーズは拡大していくものと思われる。																		
建設関連	2005 年 7 月に行われた産業団体(Employer's Federation of Eritrea)へのリサーチにより、建設関連の訓練ニーズがあると判断された。今回、各地方で NCDRP 等にヒアリングしても、建設関連は訓練ニーズとして常に上位に挙げられている。正確にはこれら 4 科目(溶接、電気工事、自動車電装、塗装)は建設技能そのものではなく、建設現場に付随する周辺技能であるが、潜在的訓練ニーズは高いと思われる。(自動車電装はトラック整備としての位置付け)																		
農業関連	エリトリア国労働人口のうち農業人口は 9 割を占める。農業振興は最も大きな経済課題の一つと言えるため、訓練ニーズは高いと言える。																		
木工	潜在的雇用吸収力の大きい建設関連業種として位置づけられている。家具製作等のための基礎技能訓練として企画されている。																		
金属加工	潜在的雇用吸収力の大きい建設関連業種として位置づけられている。窓枠や家具製作等のための基礎技能訓練として企画されている。																		

5 項目	評価設問		必要なデータ	情報源	調査結果
	大項目	小項目			
有効性	アウトプットは達成されているか。	(実績表のとおり)	(実績表のとおり)	・(実績表のとおり)	(実績表のとおり)
	プロジェクト目標は、達成度されたか？ (対象地域における除隊兵士が生計向上及び社会復帰に結びつく基礎技術を習得する。)	(実績表のとおり)	(実績表のとおり)	・(実績表のとおり)	実績表に示すように、2007年6月末までに、合計25回の訓練コースが実施され、494人の除隊兵士が基礎技術を習得する見込みである。また、これまでのところ、受講者のほぼ100%がコースを修了している。プロジェクト期間中に、NCDRP資金を利用した研修コースが複数実施される可能性はあるが、もし実施されれば、さらに約80名が受講する見込みである。 したがって、プロジェクト目標の指標「2007年6月までに、400名の除隊兵士が研修コースで技能を身につける」は、プロジェクト目標終了時までに達成する見込みである。
	プロジェクトのアウトプットはプロジェクト目標を達成するために十分であったかどうか。「アウトプットがすべて達成されればプロジェクト目標は達成されるだろう」という論理に無理はなかったか。	アウトプットは、プロジェクト目標を達成するために十分であったかどうか。「アウトプットがすべて達成されればプロジェクト目標は達成されるだろう」という論理に無理はなかったか。	・関係者の意見	①C/Ps ②専門家	プロジェクト目標を達成する上で必要なアウトプットが設定されており、アウトプットの達成がプロジェクト目標の達成につながっている。
	基礎訓練受講生が、受講した分野において就職できているか		①専門家 ②訓練生	研修終了後に実施されている就業状況調査の結果では、研修コース修了者の45.2%が、研修コースに関連する分野で就業している。エリトリア国経済の不安定な状況を考えると、ある程度の就業率を確保していることはプラスに評価すべきであろう。 本終了時評価に際し、実施中の研修コースの受講生を対象に、アンケート調査を実施し、1)コース内容・カリキュラム、2)教材・テキスト、3)機材・工具類、4)研修内容に対する満足度、5)講義内容の理解しやすさ、について評価してもらった。159人に配布し、154人から回答を得た。 1)、2)、3)については、70%前後の受講生が「非常に良い」あるいは「良い」と評価していること、4)の研修内容については、70.8%が「非常に満足」していること、5)の理解しやすさについては、87.0%が「大変容易」あるいは「容易」であると回答していることから判断して、訓練コースの質が確保されているものと判断される。	

5 項目	評価設問		必要なデータ	情報源	調査結果														
	大項目	小項目																	
有効性		基礎訓練プロバイダーは質の高い訓練を実施できているか		①C/Ps ②専門家	<p>なお、2006 年末に派遣された短期専門家は、その報告書の中で、訓練プロバイダー選択の妥当性について分析しているので、それを下表に記載する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>訓練コース</th> <th>訓練プロバイダー選択の妥当性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>美容</td> <td>エリトリア国内に美容専門学校は両校のみ。どちらもアスマラ周辺を中心に複数の美容院に卒業生を紹介している。サリナは海外に移住中のエリトリア人が一時帰国して学びに来るほか、既に就業中の美容師も最新の技術を学びに来ている。両校とも熱心に本プロジェクトに取り組みしており、妥当な訓練プロバイダー選択だったと言える。</td> </tr> <tr> <td>配管</td> <td>アスマラ市内の民間配管スクール2校のうち、JICA 専門家及びC/P による教育現場への視察や校長へのインタビュアー、提案書等により、第1期はエヴァン配管センターが、訓練プロバイダーに選ばれた。モニター後、施設・設備に関する課題を指摘する声はC/P からあがり、第2期以降は教育省直轄で広い教室と宿泊施設を持つマイハハ技術学校を訓練プロバイダーとしている。</td> </tr> <tr> <td>建設関連</td> <td>公共事業省の中央ワークショップが独立採算性民営化した企業である。道路等のインフラ建設を唯一担う。訓練施設としても国内有数規模であり、現在、国立技術教育機関であるエリトリア科学技術機構から 100 名強の学生を受け入れている。全国に支社はあるものの、訓練施設はアスマラ市内のみ。</td> </tr> <tr> <td>農業関連</td> <td>ラ・サール系協会施設であるため、ヨーロッパ（特にイタリア）からの支援がある。土壌・種子・飲料水等のコンピュータ分析ラボもある近代的農業教育施設。乳製品（チーズ・ヨーグルト）とワインを商品化して経営の一助とするなど、学校運営能力は高い。生徒の宿泊施設も揃っている。2006 年にケレン郊外の農学校が短期大学へ組織変更されたことにより、エリトリア国唯一の農業系技術学校といえる。</td> </tr> <tr> <td>木工</td> <td>教育省から学校用教育資材（パソコン機、椅子など）の生産をしている。日常業務で職業訓練を行っていないものの、責任者はアスマラ技術学校で教員経験あり。訓練生宿泊施設は無いが、OJT の機会に恵まれていると言える。</td> </tr> <tr> <td>金属加工</td> <td>カトリック系の職業訓練施設。施設も新しく、木工科目のほか、自動車整備や建設関連等の訓練設備も充実している。</td> </tr> </tbody> </table> <p>以上の情報から判断しても、訓練プロバイダーの選定は概ね適切に行われており、訓練の質が確保されているものと考えられる。また、配管コースのように、訓練プロバイダーとしての適格性に疑問が生じた場合、別の訓練プロバイダーを捜しており、適切な対応が取られている。</p>	訓練コース	訓練プロバイダー選択の妥当性	美容	エリトリア国内に美容専門学校は両校のみ。どちらもアスマラ周辺を中心に複数の美容院に卒業生を紹介している。サリナは海外に移住中のエリトリア人が一時帰国して学びに来るほか、既に就業中の美容師も最新の技術を学びに来ている。両校とも熱心に本プロジェクトに取り組みしており、妥当な訓練プロバイダー選択だったと言える。	配管	アスマラ市内の民間配管スクール2校のうち、JICA 専門家及びC/P による教育現場への視察や校長へのインタビュアー、提案書等により、第1期はエヴァン配管センターが、訓練プロバイダーに選ばれた。モニター後、施設・設備に関する課題を指摘する声はC/P からあがり、第2期以降は教育省直轄で広い教室と宿泊施設を持つマイハハ技術学校を訓練プロバイダーとしている。	建設関連	公共事業省の中央ワークショップが独立採算性民営化した企業である。道路等のインフラ建設を唯一担う。訓練施設としても国内有数規模であり、現在、国立技術教育機関であるエリトリア科学技術機構から 100 名強の学生を受け入れている。全国に支社はあるものの、訓練施設はアスマラ市内のみ。	農業関連	ラ・サール系協会施設であるため、ヨーロッパ（特にイタリア）からの支援がある。土壌・種子・飲料水等のコンピュータ分析ラボもある近代的農業教育施設。乳製品（チーズ・ヨーグルト）とワインを商品化して経営の一助とするなど、学校運営能力は高い。生徒の宿泊施設も揃っている。2006 年にケレン郊外の農学校が短期大学へ組織変更されたことにより、エリトリア国唯一の農業系技術学校といえる。	木工	教育省から学校用教育資材（パソコン機、椅子など）の生産をしている。日常業務で職業訓練を行っていないものの、責任者はアスマラ技術学校で教員経験あり。訓練生宿泊施設は無いが、OJT の機会に恵まれていると言える。	金属加工	カトリック系の職業訓練施設。施設も新しく、木工科目のほか、自動車整備や建設関連等の訓練設備も充実している。
訓練コース	訓練プロバイダー選択の妥当性																		
美容	エリトリア国内に美容専門学校は両校のみ。どちらもアスマラ周辺を中心に複数の美容院に卒業生を紹介している。サリナは海外に移住中のエリトリア人が一時帰国して学びに来るほか、既に就業中の美容師も最新の技術を学びに来ている。両校とも熱心に本プロジェクトに取り組みしており、妥当な訓練プロバイダー選択だったと言える。																		
配管	アスマラ市内の民間配管スクール2校のうち、JICA 専門家及びC/P による教育現場への視察や校長へのインタビュアー、提案書等により、第1期はエヴァン配管センターが、訓練プロバイダーに選ばれた。モニター後、施設・設備に関する課題を指摘する声はC/P からあがり、第2期以降は教育省直轄で広い教室と宿泊施設を持つマイハハ技術学校を訓練プロバイダーとしている。																		
建設関連	公共事業省の中央ワークショップが独立採算性民営化した企業である。道路等のインフラ建設を唯一担う。訓練施設としても国内有数規模であり、現在、国立技術教育機関であるエリトリア科学技術機構から 100 名強の学生を受け入れている。全国に支社はあるものの、訓練施設はアスマラ市内のみ。																		
農業関連	ラ・サール系協会施設であるため、ヨーロッパ（特にイタリア）からの支援がある。土壌・種子・飲料水等のコンピュータ分析ラボもある近代的農業教育施設。乳製品（チーズ・ヨーグルト）とワインを商品化して経営の一助とするなど、学校運営能力は高い。生徒の宿泊施設も揃っている。2006 年にケレン郊外の農学校が短期大学へ組織変更されたことにより、エリトリア国唯一の農業系技術学校といえる。																		
木工	教育省から学校用教育資材（パソコン機、椅子など）の生産をしている。日常業務で職業訓練を行っていないものの、責任者はアスマラ技術学校で教員経験あり。訓練生宿泊施設は無いが、OJT の機会に恵まれていると言える。																		
金属加工	カトリック系の職業訓練施設。施設も新しく、木工科目のほか、自動車整備や建設関連等の訓練設備も充実している。																		

5 項目	評価設問		必要なデータ	情報源	調査結果
	大項目	小項目			
有効性		プロジェクト以外に貢献した要因はあるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施プロセスの情報</li> <li>関係者の意見</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクト進捗報告書</li> <li>①C/Ps</li> <li>②専門家</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訓練コースを政府の訓練機関で開始でき、訓練が順調に進んでいること。</li> <li>プロジェクトに関係する機関（教育省 TVET 局、NCDRP、JICA）のコミットメントと、関係者間の調整が良好なこと。</li> <li>エリトリア政府が技能訓練提供に強い焦点を当てていること。</li> <li>大半の受講者が熱心な姿勢で研修コースに参加していること。</li> <li>活動についての定期的なモニタリングと評価</li> <li>教育省のカウンターパートの訓練コース準備や訓練運営支援における献身的取り組み</li> </ul>
	プロジェクト目標達成を阻害した要因はあるか。	C/Ps の移動・離職による影響はあったか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>離職率、離職理由、C/Ps の人数</li> <li>関係者の意見</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトの記録</li> <li>②C/Ps 及び専門家</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>配置されたカウンターパート全員が、プロジェクト開始当初から継続配置されている。移動や離職もなく、この点では影響はない。</li> </ul>
		その他の影響はあるか。（特に世界銀行のプロジェクトの実施に遅れなど）	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係者の意見</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①プロジェクト進捗報告書</li> <li>②C/Ps 及び専門家</li> </ul>	<p>(1)SDC 改修計画遅延による影響</p> <p>当初計画では、SDC をエリトリア側が改修し、基礎訓練に活用する予定であったため、SDC の改修が進まなかったことは、プロジェクトの計画の遅れを生じさせた。ただし、既存の訓練機関を訓練プロバイダーとする対策を取ったことにより、大きな阻害要因にはなっていない。</p> <p>(2)その他の影響</p> <p>教育省側の人材不足：教育省カウンターパート部署は、本プロジェクトの活動以外にも一般国民への技術教育・訓練をも担当しており、常に多忙な状況にあることから、プロジェクトへのコミットメントが制約されたこともある。</p>

5 項目	評価設問		必要なデータ	情報源	調査結果
	大項目	小項目			
効率性	達成されたアウトプットからみて、投入の質・量・タイミングは適切か。	<p>専門家派遣人数、専門分野・能力、派遣時期・期間は適切か。</p> <p>供与機材の種類、量、設置時期は適切か。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>派遣実績</li> <li>関係者の意見</li> </ul>	<p>①プロジェクト資料</p> <p>②C/Ps</p> <p>③専門家</p>	<p>長期専門家2名、短期専門家3名が派遣された。カウンタースパートのインタビュー結果によると長期専門家及び短期専門家の人数と専門分野の点では適切であった。一部専門家においては技術能力、コミュニケーション能力が十分でなかったとの指摘があった。</p> <p>(1)供与機材の種類 すでに供与された機材は、車輛の他は、事務用機器が主なもので、コピー機、コンピュータ、プロジェクトプリンターなどがある。また、調達中の機材には、コピー機やコンピュータなどの事務用機器のほか、訓練コースで使用予定の電動工具類が含まれる。</p> <p>(2)機材の適切さや管理状況 全般的には、機材の供与は概ね適切であると判断される。また、機材管理も定期的に実施されている。ただし、研修コースで使用目的で調達中の機材は、調達手続きが遅れがちであった。早期に調達をできていれば更なる効果が期待できたといえる。</p>
		<p>研修員受け入れ人数、研修内容、研修期間、受け入れ時期は適切か。</p> <p>C/Ps の人数、能力は適切か。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修員受け入れ実績</li> <li>関係者の意見</li> </ul>	<p>①研修員受入実績表</p> <p>②C/Ps</p> <p>③専門家</p>	<p>本邦研修は3名が参加し、第三国研修（ウガンダ国）に4名が参加した。</p> <p>本邦研修は、概ね適切なものであった。ウガンダ国での第三国研修についても全般的には適切なものであったと判断される。特にウガンダ国での研修については、研修内容が非常に良かったとの評価が見られる一方で、その研修内容を十分身につけるには研修期間が短かったとす意見が見られる。</p>
		<p>エリトリア側のプロジェクト予算は適切な規模か。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手側コスト負担実績</li> <li>関係者の意見</li> </ul>	<p>①コスト負担実績データ</p> <p>②C/Ps</p> <p>③専門家</p>	<p>プロジェクト・ダイレクターやプロジェクト・マネージャーを含めて計8名のカウンタースパートが配置されている。教育省職員が6名とNCDRP職員が2名である。全員がプロジェクト開始から現在まで継続配置されている。</p> <p>教育省 TVET 局の職員数は、局長から秘書まで含めてもわずか17名と非常に限られ、かつ多忙な状況にあり、プロジェクトに十分対応できるキャパシティが不足していると思われる側面がある。</p> <p>研修コース実施に要する経費は、主に日本側が負担しており、エリトリア側は、施設の提供等を通じて協力している。なお、プロジェクト期間中に、NCDRP の予算を使用した複数研修コースの実施の可能性がある。</p>

5 項目	評価設問		必要なデータ	情報源	調査結果																																																																																																
	大項目	小項目																																																																																																			
効率性	投入は十分活用されているか	供与機材は訓練コース運営に活用されているか 1回の訓練実施にかかるユニットコストは妥当か	・供与機材利用状況 ・1コースあたりのユニットコスト	①供与機材台帳 ②C/PS ①専門家報告書等	既述の通り、すでに供与された機材は事務用機器が主であり、プロジェクト運営のための利用されている。研修コース用の機材は、調達中であり、今後、研修コースで活用される見込みである。 ① インタビュー・資料レビュー 訓練コース別に一人あたりの訓練コストを算出すると、下表のとおりである。なお、平均すると一人あたり 497 ドルとなる。(1 ドル 120 円換算で、約6万円)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>コース</th> <th>コード</th> <th>受講者数</th> <th>経費総額 (ドル)</th> <th>訓練単価 (ドル/人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>HD-1 (L/S)</td><td>30</td><td>9,477.93</td><td>316</td></tr> <tr><td>2</td><td>HD-2 (L/S)</td><td>61</td><td>21,030.87</td><td>345</td></tr> <tr><td>3</td><td>HD-3 (L/S)</td><td>60</td><td>21,270.20</td><td>355</td></tr> <tr><td>4</td><td>HD-4SS</td><td>30</td><td>10,244.53</td><td>341</td></tr> <tr><td>5</td><td>HD-4SL</td><td>36</td><td>12,562.53</td><td>349</td></tr> <tr><td>6</td><td>BD-1</td><td>45</td><td>28,535.67</td><td>634</td></tr> <tr><td>7</td><td>MH-c</td><td>19</td><td>8,300.00</td><td>437</td></tr> <tr><td>8</td><td>PL-1</td><td>20</td><td>6,455.53</td><td>323</td></tr> <tr><td>9</td><td>MH-1</td><td>19</td><td>16,702.73</td><td>879</td></tr> <tr><td>10</td><td>MH-2</td><td>20</td><td>8,883.07</td><td>444</td></tr> <tr><td>11</td><td>HG-1</td><td>42</td><td>27,833.93</td><td>663</td></tr> <tr><td>12</td><td>HG-2</td><td>20</td><td>10,000.00</td><td>500</td></tr> <tr><td>13</td><td>WD-1</td><td>18</td><td>13,415.07</td><td>745</td></tr> <tr><td>14</td><td>AT-w</td><td>20</td><td>12,000.00</td><td>600</td></tr> <tr><td>15</td><td>MH-w</td><td>20</td><td>14,300.00</td><td>715</td></tr> <tr><td>16</td><td>MH-m</td><td>18</td><td>14,300.00</td><td>794</td></tr> <tr><td>17</td><td>AT-m</td><td>20</td><td>12,000.00</td><td>600</td></tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>498人</td> <td></td> <td>497 (平均値)</td> </tr> </tbody> </table>	コース	コード	受講者数	経費総額 (ドル)	訓練単価 (ドル/人)	1	HD-1 (L/S)	30	9,477.93	316	2	HD-2 (L/S)	61	21,030.87	345	3	HD-3 (L/S)	60	21,270.20	355	4	HD-4SS	30	10,244.53	341	5	HD-4SL	36	12,562.53	349	6	BD-1	45	28,535.67	634	7	MH-c	19	8,300.00	437	8	PL-1	20	6,455.53	323	9	MH-1	19	16,702.73	879	10	MH-2	20	8,883.07	444	11	HG-1	42	27,833.93	663	12	HG-2	20	10,000.00	500	13	WD-1	18	13,415.07	745	14	AT-w	20	12,000.00	600	15	MH-w	20	14,300.00	715	16	MH-m	18	14,300.00	794	17	AT-m	20	12,000.00	600			498人		497 (平均値)
コース	コード	受講者数	経費総額 (ドル)	訓練単価 (ドル/人)																																																																																																	
1	HD-1 (L/S)	30	9,477.93	316																																																																																																	
2	HD-2 (L/S)	61	21,030.87	345																																																																																																	
3	HD-3 (L/S)	60	21,270.20	355																																																																																																	
4	HD-4SS	30	10,244.53	341																																																																																																	
5	HD-4SL	36	12,562.53	349																																																																																																	
6	BD-1	45	28,535.67	634																																																																																																	
7	MH-c	19	8,300.00	437																																																																																																	
8	PL-1	20	6,455.53	323																																																																																																	
9	MH-1	19	16,702.73	879																																																																																																	
10	MH-2	20	8,883.07	444																																																																																																	
11	HG-1	42	27,833.93	663																																																																																																	
12	HG-2	20	10,000.00	500																																																																																																	
13	WD-1	18	13,415.07	745																																																																																																	
14	AT-w	20	12,000.00	600																																																																																																	
15	MH-w	20	14,300.00	715																																																																																																	
16	MH-m	18	14,300.00	794																																																																																																	
17	AT-m	20	12,000.00	600																																																																																																	
		498人		497 (平均値)																																																																																																	
					受講生一人あたりのコストと比較すると、NCDRP 基準の 810 ドルを上回るのは、配管コース内の 1 コースだけであることが解る。そして、平均値では、497 ドル/人であり、NCDRP 基準より 300 ドル以上低いコストとなっている。 また、ルワンダ共和国において世銀ローンによって実施されている DDR プログラムにおける訓練単価は 636 ドル/人であり、JICA が協力しているアフガニスタン国での除隊兵士の社会復帰のための基礎訓練プロジェクトでの訓練単価が約 17 万円 (約 1,450 ドル/人) であることと比較すると本プロジェクトの訓練単価は低いものであることが解る。この点からみると本プロジェクトの効率性は高いと考えられる。																																																																																																

5 項目	評価設問		必要なデータ	情報源	調査結果
	大項目	小項目			
効率性	効率性を阻害した要因はあるか。	C/Ps の定着度は、良好か。 ・研修に参加した C/Ps は継続して勤務しているか その他の要因はあるか。	・ C/Ps の当初の配置と現状との比較 ・ 関係者の意見	・ プロジェクト進捗報告書、その他資料 ・ C/Ps 及び日本人専門家	調査結果 プロジェクト開始当初から配置されているカウンタースタッフは全員継続している。また、研修に参加したカウンタースタッフは継続している勤務している。カウンタースタッフの定着度は良好である。 <貢献要因> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 訓練内容の選定にあたりカウンタースタッフとの長期にわたる協議や検討が、除隊兵士訓練の目的意識をはっきりとさせた。</li> <li>● 訓練実施コストの検討・調整に重点を置いたことで、NCDRP 予算によって持続性のある訓練プログラムが策定できた。</li> </ul> <阻害要因> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 教育省と NCDRP 間の協調性に多少難があり、特に NCDRP からの積極的な支援が得られにくい。</li> <li>● NCDRP の地方事務所との連絡体制の不備などから本部からの指示が的確に伝わらず、特に訓練生選考において問題が発生した。</li> <li>● プロジェクトスタッフの不足</li> </ul>

5 項目	評価設問		必要なデータ	情報源	調査結果
	大項目	小項目			
インパクト	上位目標「訓練コースを修了した除隊兵士の社会復帰が円滑に行われる。」が達成される見込みはあるか。	プロジェクト実績表 (プロジェクト実績表 上位目標達成見込み参照)	・関連データ	(プロジェクト実績表 上位目標達成見込み参照)	(プロジェクト実績表 上位目標達成見込み参照)
		プロジェクト目標から上位目標に至るまでの外部条件は現時点においても正しいか。外部条件が満たされる可能性は高いか。	・関係者からの情報	①C/Ps ②専門家	外部条件は、①エリトリア国経済の安定が継続すること、②各除隊兵士が社会に貢献する努力を行うこと、である。 エリトリア国の経済現在は、不景気な状況にある。そのため、研修コース修了生は、就業先を見つけている努力をしているものの、仕事（自営あるいは雇用）を得る上での制約要因となっている。
	その他の正負のインパクト。	プロジェクトで実施した訓練を生かして、他の除隊兵士の訓練が実施される見込みがあるか？	・関係者からの情報	①C/Ps ②専門家	教育省は、除隊兵士のための訓練実施に関する予算を計上していないため、実施するにはNCDRPの資金を利用する必要がある。本プロジェクトの残りの期間中に、NCDRPの資金を利用して美容師コースを2回と配管コース1回が実施される可能性がある。これらコース実施を手始めとして、エリトリア側独自に研修コースを実施していくことが期待される。
			・関係者からの情報	①プロジェクト資料 ②C/Ps ③専門家	本プロジェクトは、除隊兵士のための研修コースの計画、マネジメント、モニタリングに関わるカウンターパートの能力を強化することに寄与している。本プロジェクトを通じてカウンターパート機関が得た経験は、さらに多く人数の除隊兵士のための研修を実施する際に活用される。 また最近、教育省は、労働人間福祉省から障害者、社会的弱者等を対象とする研修コースを実施するよう要請されており、これまで本プロジェクトが実施してきた除隊兵士向け研修コースの実施実績が評価されたものである。 なお、教育省においては、本プロジェクトを通じて得られた経験を、教育省の本来の担当任務である一般若年層の職業教育・職業訓練に活用していく見通しである。

5 項目	評価設問		必要なデータ	情報源	調査結果
	大項目	小項目			
自立発展性 (見込み)	政府の国家開発計画あるいはその他政策・方針における、除隊兵士の社会復帰のための基礎技術訓練の位置付けはどうか。	エリトリア国教育省では、本プロジェクトがどのような認識されているか。政策面での支援が継続するか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係者の意見</li> </ul>	① 国家開発政策、その他関連政策	エリトリア政府は、除隊兵士の社会復帰を、除隊兵士の研修といった点だけでなく、戦争に起因する避難民、戦争被災者等の社会復帰や青年の職業訓練といった面の課題解決も含めたより広い課題に対して、国家開発と人材育成をリンクさせながら進めていく方針を有している 教育省は、本プロジェクトの成果を高く評価している。ただし現在、教育省は、青年の職業訓練に重点を置きつつあり、これを主体的に進めていく政府機関としてその責務を担っていく方針である。
		事業を継続するだけの能力が本プロジェクトに関わっている教育省に備わっているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スタッフの配置、定着状況</li> <li>・ 関係者の意見</li> </ul>	① 関係資料 ② 教育省の職員 ③ 専門家	
	移転された技術は定着していくか。	プロジェクト終了後は政府の除隊兵士の社会復帰のための基礎技術訓練向けの予算は、今後も確保される見通しはあるか、その金額は適切なものか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育省の予算獲得状況データ</li> <li>・ 関係者の意見</li> </ul>	① これまでのエリトリア側予算支出実績データと今後の予算調達計画 ② 教育省の職員 ③ 専門家	本プロジェクト期間中も今年度予算にも、教育省からは除隊兵士向け研修コース実施に要する経費の支出はない。プロジェクト終了後に研修コースを実施するには、NCDRP が予算を付ける必要がある。
		エリトリア側のオーナーシップ（当事者意識）は高いか ・ C/Ps 並びに教育省の関係者は、これまでのプロジェクトの成果をプロジェクト終了後も引き続き活用して、訓練を継続する意欲があるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係者の意見</li> </ul>	① 教育省の職員、C/Ps ② 専門家	上記の通り、NCDRP が予算を付けるかどうかにか大きく左右される。

5 項目	評価設問		必要なデータ	情報源	調査結果
	大項目	小項目			
自立発展性 (見込み)		C/Ps の技術レベル ・C/P は、基礎技術訓練コースの計画および運営管理、研修関連データの記録・活用、訓練コースのモニタリング、修了生の雇用状況モニタリング等の適切に実施できるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係者の意見</li> </ul>	①C/Ps ②専門家	本プロジェクト実施を通じて、教育省ならびにNCDRP のカンタナーパートの基礎技能訓練の運営・マネジメントに関わる能力は、①訓練ニーズ調査及び研修コース計画、②訓練プロバイダーとの交渉と契約、③研修コースのモニタリング、④研修コース修了生の就業状況追跡調査などの面で強化された。教育省のカンタナーパートの場合、これら能力は、一般若年層を対象とした職業教育・職業訓練業務においても活用されていく見通しである。
		機材の維持管理は適切に行われる見通しがあるか。 ・機材は台帳により管理されているか ・機材管理は適切なルールの下（鍵の保管者、貸出記録など）行われているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係者の意見</li> </ul>	①C/Ps ②専門家 ③機材台帳	
		自立発展性に影響を与える貢献・阻害要因は何か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係者の意見</li> </ul>	①C/Ps ②専門家	本プロジェクトは、エリトリア側が構想していた約 1 万人の除隊兵士への技能訓練を寄与するパイロットプロジェクトとしての位置づけで始まった。しかし、1 万人の技能訓練構想が具体化していない現在、本プロジェクトの経験を活用してエリトリア側独自の程度技能訓練を継続実施していくかどうかは不透明であり、自立発展性を論じることは難しい。

# 実施プロセスの検証

	評価設問		情報源	調査結果												
	大項目	小項目														
実施プロセス	当初計画した成果を達成するためにどのような計画・実施体制の変更・軌道修正が行われたか	プロジェクト実施中に把握されていた課題（特に成果に影響するもの）は何か。その課題はどのように解決されたか	①各種報告書 ②C/Ps及び日本人専門家	JCC等の機会を通じて、SDC改修の進捗状況について確認してきたが、2006年11月28日に実施されたJCCの場において、SDC改修が進んでいないこと、また、本プロジェクト期間中にSDCの改修が実施されるかどうか不確定であることが確認された。この認識に基づいてJCCにおいて、本プロジェクトではSDCの代わりに他の研修施設を利用して、訓練コースを実施していくことが合意された。また、PDM（案）の中での指標や指標データ入手手段の修正が実施され、JCCで同意され、正式なPDMができた。さらに、プロジェクトの残りの期間のPO（運営計画）についても確認が行われた。												
	技術移転の方法に問題はなかったか。	問題がある場合、どの分野におけるどのような技術移転方法に問題があったか。その解決方法はあるか。	①C/Ps及び日本人専門家	訓練プログラムの運営面では、教育省のカウンタートーナメントは非常に献身的な努力をしている。												
	プロジェクトのマネジメント体制に問題はなかったか。	JCCは必要な時期に実施され、必要なテーマが話し合われたか。	①プロジェクト進捗報告書 ②C/Ps及び日本人専門家	これまでにJCCは、2回実施され、その他の会議が1回実施されている。開催時期と主な議題は以下のとおりである。												
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>開催時期</th> <th>主な議題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>2005年 9月2日</td> <td>プロジェクト進捗状況報告 (JICA) 兵士除隊社会復帰プログラム進捗状況報告(NCDRP) SDCリハビリ計画進捗状況報告 (TVET)</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>2006年 3月29日</td> <td>実施済み訓練コースのレビュー SDCリハビリ計画 JICA側投入 訓練コース実施日程</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>2006年 11月28日</td> <td>本プロジェクトのマスタープラン内容の一部修正 PDMの修正合意 新規訓練コース用の機材 プロジェクトの残りの期間の運営計画の確認</td> </tr> </tbody> </table>	回	開催時期	主な議題	第1回	2005年 9月2日	プロジェクト進捗状況報告 (JICA) 兵士除隊社会復帰プログラム進捗状況報告(NCDRP) SDCリハビリ計画進捗状況報告 (TVET)	その他	2006年 3月29日	実施済み訓練コースのレビュー SDCリハビリ計画 JICA側投入 訓練コース実施日程	第2回	2006年 11月28日	本プロジェクトのマスタープラン内容の一部修正 PDMの修正合意 新規訓練コース用の機材 プロジェクトの残りの期間の運営計画の確認
回	開催時期	主な議題														
第1回	2005年 9月2日	プロジェクト進捗状況報告 (JICA) 兵士除隊社会復帰プログラム進捗状況報告(NCDRP) SDCリハビリ計画進捗状況報告 (TVET)														
その他	2006年 3月29日	実施済み訓練コースのレビュー SDCリハビリ計画 JICA側投入 訓練コース実施日程														
第2回	2006年 11月28日	本プロジェクトのマスタープラン内容の一部修正 PDMの修正合意 新規訓練コース用の機材 プロジェクトの残りの期間の運営計画の確認														
				ほぼ1年間に1回の頻度でJCCが開催され、必要なテーマについて話し合われている。カウンタートーナメントは、JCCが大変適切に機能しているという意見を持っていることから半断して、JCCは適切に機能していると判断される。												

	評価設問		情報源	調査結果
	大項目	小項目		
実施プロセス		プロジェクトの進捗状況はどのようなにモニタリングされていたか。	①プロジェクト進捗報告書 ②日本人専門家	JCCにおいてプロジェクトの進捗状況についての情報共有が行われている。この他、2週間に1度の実務者レベル（日本人専門家とカウンタパーパート2名）のミーティング、4週に1度のプロジェクト協議（実務者レベル+TVET 局長・次長）において、進捗状況をモニタリングすることとなっている。ただし、エリトリリア側関係者の業務の都合等の理由から、必ずしも計画した頻度でミーティングが実施できていない状況は見られるものの、プロジェクト進捗状況についての情報共有には寄与していると考えられる。
		プロジェクト内のコミュニケーションは、円滑に行われているか。	①C/Ps 及び日本人専門家	一部、コミュニケーション面で改善が必要であるとの指摘も見られるが、プロジェクト関係者間（教育省、NCDRR、JICA 専門家）の協力関係は非常に良好であることが、質問票調査や現地インタビュアーを通じて確認され、プロジェクト内のコミュニケーションが円滑であったと言える。
		JICA 本部および JICA ケニア事務所との連絡・協力が円滑に実施されたか。	①日本人専門家	通信事情（電子メール利用上）があまり良好ではない状況下にはあるが、JICA 本部及びケニア事務所と定期的に連絡がとられており、ほぼ円滑なものであった。

プロジェクト実績表（上位目標、プロジェクト目標、アウトプットの実績表）

達成度	項目		必要な情報・データ (指標)	情報源	調査結果
	主項目	サブ項目			
達成	上位目標の達成見込み (訓練コースを修了した除隊兵士の社会復帰が円滑に行われる。)		1) 2008年12月までに、訓練コースを修了した除隊兵士の生計が向上する。	①修了生へのインタビュー結果 ②(案) プロジェクトで実施する修了生対象のフォローアップモニタリング調査結果)	<p>(1) 総括 各研修コース終了から5ヵ月後までの期間行っている修了生の就業状況モニタリング調査と2007年2月に実施された美容師コースの修了生を対象とした就業状況調査の結果を総合すると、経済活動に従事修了生の割合は63.5%であり、このうち、受講した研修分野に関連する仕事（自営あるいは雇用）に従事している割合は45.2%である。本プロジェクトの研修コースは、基本的に定職を持っていない人を対象としている。したがって、本プロジェクトは、除隊兵士の雇用にある程度貢献していると言える。</p> <p>なお、除隊兵士の生計向上はエリトリア国の社会経済状況に大きく左右されるものであり、経済状況が停滞している現状においては、本プロジェクトが除隊兵士の生計向上にどの程度寄与しているかについて確たることを述べるのは難しい。</p> <p>(2) 修了生へのインタビュー結果 修了生11名に対してインタビュー調査を実施した。美容コース7名、建設コース2名、配管コース2名である。このうち、研修コースに関連する分野に就業している人は3名だけであった。また、いったん就業したものの、転職したり解雇されたりした人が2名いた。その他にはアルバイトしている者、無職のものがいた。収入面については、常勤で雇用されている人達にとつては、研修コース受講前より若干収入が増加しているものの、美容室勤務における月収の水準が低いこと、また民間の建設部門の仕事が少なく配管分野の仕事も少ない影響もあって、生計向上に大きく寄与するまでには至っていない。</p> <p>(3) 就業率 研修コースの多くが実施中もしくは終了間もないことから、本項目については評価するのは時期尚早かもしれないが、就業状況調査結果では、修了生のうち、経済活動に従事している割合は63.5%であり、このうち、受講した研修コースに関連する仕事（自営あるいは雇用）に従事している割合は45.2%である。したがって、本プロジェクトは、除隊兵士の雇用にある程度貢献していると言える。</p>

達成度	項目		必要な情報・データ (指標)	情報源	調査結果																																										
	主項目	サブ項目																																													
達成度			<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>コース名 (コース番号)</th> <th>修了生数 (人)</th> <th>調査した修了生数 (人)</th> <th>研修コースと関連する仕事への就業率 (自営あるいは雇用)</th> <th>就業率 (他の分野での就業を含む)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>美容 (HD-1-SS/SL)</td> <td>30</td> <td>18</td> <td>38.9%</td> <td>50.0%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>美容 (HD2-SS/SL)</td> <td>61</td> <td>31</td> <td>45.2%</td> <td>54.8%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>美容 (HD3-SS/SL)</td> <td>59</td> <td>36</td> <td>41.7%</td> <td>50.0%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>配管 (PL-1)</td> <td>20</td> <td>19</td> <td>68.4%</td> <td>94.7%</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>建設関連 (BD-1-WL, BD1-EL, BD-1-SP and BD-1-AE)</td> <td>45</td> <td>22</td> <td>36.4%</td> <td>81.8%</td> </tr> <tr> <td colspan="2">計</td> <td>215</td> <td>126</td> <td>45.2%</td> <td>63.5%</td> </tr> </tbody> </table>	No	コース名 (コース番号)	修了生数 (人)	調査した修了生数 (人)	研修コースと関連する仕事への就業率 (自営あるいは雇用)	就業率 (他の分野での就業を含む)	1	美容 (HD-1-SS/SL)	30	18	38.9%	50.0%	2	美容 (HD2-SS/SL)	61	31	45.2%	54.8%	3	美容 (HD3-SS/SL)	59	36	41.7%	50.0%	4	配管 (PL-1)	20	19	68.4%	94.7%	5	建設関連 (BD-1-WL, BD1-EL, BD-1-SP and BD-1-AE)	45	22	36.4%	81.8%	計		215	126	45.2%	63.5%		
	No	コース名 (コース番号)	修了生数 (人)	調査した修了生数 (人)	研修コースと関連する仕事への就業率 (自営あるいは雇用)	就業率 (他の分野での就業を含む)																																									
1	美容 (HD-1-SS/SL)	30	18	38.9%	50.0%																																										
2	美容 (HD2-SS/SL)	61	31	45.2%	54.8%																																										
3	美容 (HD3-SS/SL)	59	36	41.7%	50.0%																																										
4	配管 (PL-1)	20	19	68.4%	94.7%																																										
5	建設関連 (BD-1-WL, BD1-EL, BD-1-SP and BD-1-AE)	45	22	36.4%	81.8%																																										
計		215	126	45.2%	63.5%																																										
	プロジェクト目標の達成度 (対象地域における除隊兵士が生計向上及び社会復帰に結びつく基礎技術を習得する。)	<p>1) 2007年6月までに、400名の除隊兵士が研修コースで技能を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 美容コース 10コース</li> <li>◆ 配管コース 4コース</li> <li>◆ 建設コース 2コース</li> <li>◆ 金属コース 4コース</li> <li>◆ 木工コース 2コース</li> <li>◆ 農業機械コース 3コース</li> </ul>	<p>①訓練報告書</p> <p>②教育省が授与した修了証書の枚数</p>	<p>(1) 研修コースを通じて技術を身に付けた除隊兵士の人数</p> <p>2007年3月2日現在、美容、配管、建設、金属加工、木工、農業の分野の研修コース(計23回実施)の受講者数は、454名である。プロジェクト終了時までさらに2つの研修コースが実施され、40名が受講する予定である。受講者数は目標値を超える。</p> <p>研修コースの実施回数や受講者数等のデータは下表のとおり。</p>	<p>(3) 生計の変化</p> <p>本プロジェクトでは、上記のような就業状況についてのモニタリングは実施しているが、生計向上についての調査項目が含まれていない。したがって、上位目標の指標の達成を図るためには、何らかの数値目標の設定と、どの程度の収入を得ているのか等、生計向上に結びついているかどうか調査・モニタリングする仕組みを構築する必要がある。</p>																																										

達成度	項目		必要な情報・データ (指標)	情報源	調査結果										
	主項目	サブ項目			実施済みの研修コース		実施中の研修コース		実施予定の訓練コース		計				
					分野	回数	受講者数	回数	受講者数	回数	受講者数	回数	受講者数	回数	受講者数
					1 美容	6	151	2	66	0	0	8	217		
					2 建設	4	45	0	0	1	20	5	65		
					3 配管	3	59	0	0	0	0	3	59		
					4 農業	3	42	0	0	1	20	4	62		
					5 木工	0	0	3	55	0	0	3	55		
					6 金属加工	0	0	2	36	0	0	2	36		
					計	16	297	7	157	2	40	25	494		

(2) 修了率

これまでに終了した研修コースにおける、受講者の修了率はほとんどのコースで100%である。修了率の平均は、98.9%である。  
これまでに終了した16の研修コース別の修了率(2007年3月2日現在)

分野	コース名(コース番号)	受講者数(人)	修了者数(人)	修了率
美容	美容(HD-1-SS)	15	15	100%
	美容(HD-1-SL)	15	15	100%
	美容(HD-2-SS)	30	30	100%
	美容(HD-2-SL)	31	31	100%
	美容(HD-3-SS)	30	30	100%
	美容(HD-3-SL)	30	29	96.7%
建設	溶接(BD-1-WL)	14	14	100%
	電気配線(BD-1-EL)	15	15	100%
	板金塗装(BD-1-SP)	5	5	100%
	電装(BD-1-AE)	11	11	100%
配管	配管(PL-1)	20	20	100%
	配管(MH-1)	19	18	94.7%
	配管(MH-2)	20	19	95.0%
農業	農業機械操作(HG-1-MO)	16	16	100%
	農業機械メンテナンス(HG-1-MM)	15	15	100%
	家畜飼育(HG-1-LH)	11	11	100%
	計	297	294	98.9%

達成度	項目		必要な情報・データ (指標)	情報源	調査結果
	主項目	サブ項目			
達成度	アウトプットは計画通り産出しているか。	1. アスマラおよび対象地域の研修機関またはその周辺地域において、除隊兵士の社会復帰のための基礎技術訓練コースが開発され、実施される。	1) 基礎訓練コースの実施計画が作成される。 2) 研修受講者選定基準が作成される。	①基礎訓練コースの実施計画（運営計画と予算） ①選定基準	(3) 女性受講者の割合 除隊兵士のうちの約30%が女性であるとされていることから、女性受講者がどのくらいの割合を占めているかは重要な点である。上記に示した実施済みの研修コースの受講者数は、297人で、この内、172人が女性であり、57.9%と半数以上を占めている。これは、美容師コースの多数回実施が貢献している。
			3) 研修コース並びに研修受講者に関する基礎データが適切に記録され、プロジェクトで利用できる。	①基礎データ記録状況と利用状況	プロジェクトによって基礎訓練に関する研修実施計画案が作成され、承認を受けるためNCDRPに提出された。NCDRPは、12件の研修実施計画を承認しており、研修分野としては、美容師、建設、配管、農業、木工、金属加工に分類される。 第1回目の美容師コースを開発する過程で、研修受講者の選定基準が作成された。その内容には、質問事項のリストとインタビュー時に考慮すべきポイントが含まれている。第1回目の美容師コースに際しては、教育省スタッフ、NCDRPスタッフ及び日本人専門家が共同で、作成された選考基準を使って研修受講者を選定した。その後は、研修受講者の募集と選定作業は、主としてNCDRPが行っている。研修受講者選定は概ね良好に実施されたが、以下に示すようないくつかの問題点も発生した。 ①識字能力面で基準に満たない人が選定されたこと。 ②すでに業務従事経験を有し、研修を受ける必要がない人が選定されたこと。  このような選定に関する問題が生じた場合は、教育省、NCDRPおよび日本人専門家の間で、どのように改善するか議論し、対策を講じてきている。対応策の一つとしては、木工コースの受講生選定に際し、ペーパー試験を導入していることが挙げられる。また、エリトリア側は、除隊兵士が研修を受けられるのは1回だけという規定を設けているが、すでに受講経験がある人が申し込みしてきた例があるが、そのような場合は、コースを開始する前に、他の適格者に変えている。  研修コース並びに研修受講者に関する基礎データが記録されている。そのデータに基づいて写真付きの訓練修了書の発行や修了生の雇用状況モニタリング調査を実施している。

達成度	項目		必要な情報・データ (指標)	情報源	調査結果										
	主項目	サブ項目													
			4) 研修用の教材とカリキュラムが開発される。	① 訓練教材とカリキュラム	すべての訓練コースのカリキュラムは、訓練プロバイダーと共同で開発されている。研修教材については、教育省管轄下の技術学校ならびに教育省ワークショップが実施している訓練コースの場合、訓練プロバイダーと共同で作成された。以下にコース別教材を示す。										
			5) 400名以上が受講を申し込み、受講生として選定される。	① 訓練報告書	<table border="1" data-bbox="368 315 533 972"> <thead> <tr> <th>訓練コース分野</th> <th>教材</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>美容師</td> <td>ヘアスタイル集</td> </tr> <tr> <td>配管</td> <td>テキスト、作業図面</td> </tr> <tr> <td>木工</td> <td>テキスト、作成図</td> </tr> <tr> <td>金属</td> <td>テキスト、作成図</td> </tr> </tbody> </table>	訓練コース分野	教材	美容師	ヘアスタイル集	配管	テキスト、作業図面	木工	テキスト、作成図	金属	テキスト、作成図
訓練コース分野	教材														
美容師	ヘアスタイル集														
配管	テキスト、作業図面														
木工	テキスト、作成図														
金属	テキスト、作成図														
			6) すくなくとも12の研修コースが実施される。	① 訓練報告書	正確な申込者数については、記録されていないものの、2007年2月末現在で454名の除隊兵士が受講者として選定された。今後、プロジェクト終了時まで2回の研修コースが実施される予定で、さらに40名が選定される。最終的には、494名が受講者として選定される見込みである。										
			7) 研修コース終了時マイクロファイナンスについてのオリエンテーションが実施される。	① 訓練報告書	2007年3月2日時点で、実施済みの研修コースは16であり、7つの研修コースが実施中である。プロジェクト終了時に、小規模貸付プログラム (SMCP: Savings and Micro Credit Program) と呼ばれる融資制度についての説明が、SMCPの担当者によって実施されている。このマイクロクレジット・プログラムは、世銀の資金支援を受けて1996年から国家開発省が実施しているもので、その対象はエリトリア国民全般で、避難民、戦争被災者、除隊兵士も含む。										
					このプログラムを担当しているSMCPの情報によると、本プロジェクトの修了生7名がこのクレジットを利用したことが確認されている。この融資制度を本プロジェクトの修了生が利用する上の課題として次の点が指摘されている。										
					<ul style="list-style-type: none"> <li>① プログラムの説明は半日程度の概要説明にとどまることから、多くの修了生にとって融資制度の仕組みを十分理解し、実現可能な起業計画を作ることが難しい。</li> <li>② エリトリア国では経済活動が停滞しており、ビジネスチャンスが限られている。</li> <li>③ 配管や建設分野では、起業に十分な技術を身につけるには長い時間と経験を要し、訓練コースで身につけられる技術水準では、雇用されるのが精一杯である。</li> </ul>										

達成度	項目		必要な情報・データ (指標)	情報源	調査結果																																																									
	主項目	サブ項目																																																												
達成度	2. 周辺地域の市場ニーズに合わせた訓練プログラムの提供できるよう除隊兵士の基礎技術訓練体制が見直し、評価、改善される。		1) 定期的モニタリング実施される。(年2回以上)	①ニーズ調査報告書	新規訓練コースを計画した際にアスマラ市内及びその他の地方で訓練ニーズ調査が実施された。エリトリアの経済活動はインフオーマル経済が優位を占めるので、ニーズ調査は必要に応じて適宜実施された。 訓練ニーズ調査は、企業、訓練プロバイダー、関係機関を対象とするインタビュー調査を通じて実施された。 訓練ニーズ調査の他に、訓練プロバイダーの能力調査も実施された。本プロジェクトの研修コースの分野が複数あり、訓練コースの実施を訓練プロバイダーに依存するところがあるので、的確な訓練コースを開発するうえで、訓練プロバイダーの能力を把握することが重要であった。																																																									
			2) プロジェクトによって定期的モニタリングが実施される。(1コースあたり少なくとも月1回)	①モニタリング報告書	訓練プロバイダーが毎月提出する月報を通じて研修コースをモニタリングしている。月報が提出されない場合は、訓練プロバイダーへの支払いが中断することになるので、定期的にモニタリングできる仕組みになっている。また、教育省及び NCDRP のスタッフは、定期的に訓練プロバイダーを訪問し、研修生対象のアンケート調査あるいはグループインタビューを実施し、研修コース実施状況を把握している。このような定期的モニタリングを通じて研修コースの見直しが実施されている。																																																									
			3) 修了生の雇用状況がモニタリングされる。(80%以上)	①雇用モニタリングレポート	研修終了後、修了生の雇用状況をモニタリングするための調査が実施されているが、情報を入力するためいくつかの方法が用いられた。その方法には、訓練プロバイダーから得られた情報(美容コース第1回目)、電話による調査、修了生からの郵便による報告がある。主として、修了生からの郵便による報告と電話による調査を組み合わせる雇用状況を把握している。 このうち、入手しているデータを下表に示す。なお、モニタリング実績は75%である(連絡が取れた人の割合)。																																																									
					<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">コース名</th> <th rowspan="2">修了生数 (人)</th> <th colspan="2">就業者</th> <th rowspan="2">無職 (人)</th> <th rowspan="2">その他の仕事 (人)</th> <th rowspan="2">連絡取れず (人)</th> <th rowspan="2">その他 (人)</th> <th rowspan="2">就業率 (%)</th> </tr> <tr> <th>自営 (人)</th> <th>雇用 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 美容(1)</td> <td>30</td> <td>17 (57%)</td> <td>7 (23%)</td> <td>2 (7%)</td> <td>0 (0%)</td> <td>1 (3%)</td> <td>3 (10%)</td> <td>83%</td> </tr> <tr> <td>2 美容(2)</td> <td>61</td> <td>7 (12%)</td> <td>2 (3%)</td> <td>27 (44%)</td> <td>10 (16%)</td> <td>14 (23%)</td> <td>1 (2%)</td> <td>19%</td> </tr> <tr> <td>3 配管</td> <td>20</td> <td>7 (35%)</td> <td>6 (30%)</td> <td>0 (0%)</td> <td>5 (25%)</td> <td>1 (5%)</td> <td>1 (5%)</td> <td>68%</td> </tr> <tr> <td>4 建設</td> <td>45</td> <td>7 (16%)</td> <td>1 (2%)</td> <td>4 (9%)</td> <td>10 (22%)</td> <td>23 (51%)</td> <td>0 (0%)</td> <td>36%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>156</td> <td>38 (25%)</td> <td>16 (10%)</td> <td>33 (21%)</td> <td>25 (16%)</td> <td>39 (25%)</td> <td>5 (3%)</td> <td>46%</td> </tr> </tbody> </table> <p>注：就業率は、連絡が取れた人の中で、トレーニングコースと関係ある仕事で自営あるいは雇用されている人の割合を示す。</p>		コース名	修了生数 (人)	就業者		無職 (人)	その他の仕事 (人)	連絡取れず (人)	その他 (人)	就業率 (%)	自営 (人)	雇用 (人)	1 美容(1)	30	17 (57%)	7 (23%)	2 (7%)	0 (0%)	1 (3%)	3 (10%)	83%	2 美容(2)	61	7 (12%)	2 (3%)	27 (44%)	10 (16%)	14 (23%)	1 (2%)	19%	3 配管	20	7 (35%)	6 (30%)	0 (0%)	5 (25%)	1 (5%)	1 (5%)	68%	4 建設	45	7 (16%)	1 (2%)	4 (9%)	10 (22%)	23 (51%)	0 (0%)	36%	計	156	38 (25%)	16 (10%)	33 (21%)	25 (16%)	39 (25%)	5 (3%)	46%
コース名	修了生数 (人)	就業者		無職 (人)	その他の仕事 (人)	連絡取れず (人)			その他 (人)	就業率 (%)																																																				
		自営 (人)	雇用 (人)																																																											
1 美容(1)	30	17 (57%)	7 (23%)	2 (7%)	0 (0%)	1 (3%)	3 (10%)	83%																																																						
2 美容(2)	61	7 (12%)	2 (3%)	27 (44%)	10 (16%)	14 (23%)	1 (2%)	19%																																																						
3 配管	20	7 (35%)	6 (30%)	0 (0%)	5 (25%)	1 (5%)	1 (5%)	68%																																																						
4 建設	45	7 (16%)	1 (2%)	4 (9%)	10 (22%)	23 (51%)	0 (0%)	36%																																																						
計	156	38 (25%)	16 (10%)	33 (21%)	25 (16%)	39 (25%)	5 (3%)	46%																																																						

達成度	項目		必要な情報・データ (指標)	情報源	調査結果
	主項目	サブ項目			
			<p>4) 研修のモニタリングと評価の結果が研修コースへフィードバックされる。</p> <p>5) 技能評価システムが開発される。</p>	<p>①フイードバック実績データ</p> <p>①技能評価の枠組み</p>	<p>合同調整委員会の会議を通じて教育省スタッフ、NCDRP スタッフ、日本人専門家は、研修コースの進捗状況とその課題について情報共有を図っている。その他、プロジェクト関係者は、研修コースのモニタリング・評価結果に基づいて、研修コースの改善について頻繁に議論を行っている。</p> <p>技能評価システムは開発されていない。本プロジェクトでは、訓練プロバイダーがすでに持っている評価システムを利用している。</p> <p>(なお、プロジェクト計画としては、研修生が研修コースを通じて身につけた技能を評価するシステムの構築を期待していたが、訓練コースの立ち上げ等に労力が割かれ、システムの構築には至っていない。また以前からエリトリア側には、除隊兵士が既に身につけている技能を評価するシステム (Prior Learning Recognition System) の構築を図ろうという意向があり、そのための活動も始まっているようである。それを支援することも選択肢としてあった模様である。本プロジェクトにおいては、短期専門家が技能評価システムの構築方法概論について、関係者に説明を行ったことがあるものの、本プロジェクトとして具体的にどのような技能評価システムを構築し、そのためにどのような活動を行うのか、明確にされていなかった。)</p>

5. 実施訓練コースリスト

訓練コースリスト

No.	分野	訓練コース	コード	訓練プロバイダー	訓練実施期間	期間 (週)	訓練生			修了生数	備考
							合計	男性	女性		
1	美容師	美容師	HD-1-SS	セセン美容学校	Oct 03 - Dec 23, 2005	12	15	0	15	15	
2		美容師	HD-1-SL	サリナ美容学校	Oct 03 - Dec 23, 2005	12	15	0	15	15	
3		美容師	HD-2-SS	セセン美容学校	Mar 1 - May 23, 2006	12	30	0	30	30	
4		美容師	HD-2-SL	サリナ美容学校	Mar 1 - May 23, 2006	12	31	0	31	31	
5		美容師	HD-3-SS	セセン美容学校	July 10 - Oct 7, 2006	12	30	0	30	30	
6		美容師	HD-3-SL	サリナ美容学校	July 10 - Oct 7, 2006	12	30	0	30	29	
7		美容師	HD-4-SS	セセン美容学校	Dec 26 - Mar 23, 2007	13	30	0	30	30	実施中
8		美容師	HD-4-SL	サリナ美容学校	Feb 05 - May 04, 2007	13	36	0	36	36	実施中
9		美容師	<b>HD-5-SS</b>	<b>セセン美容学校</b>	<b>Apr 00 - Jun 00, 2007</b>	<b>13</b>	<b>30</b>				<b>予定</b>
10		美容師	<b>HD-5-SL</b>	<b>サリナ美容学校</b>	<b>Jun 00 - Aug 00, 2007</b>	<b>13</b>	<b>36</b>				<b>予定</b>
11	建設	溶接	BD-1-WL	ブドウ建設	Jan 02 - Mar 24, 2006	12	14	12	2	14	
12		電気工事	BD-1-EI	ブドウ建設	Jan 02 - Mar 24, 2006	12	15	13	2	15	
13		スプレー塗装	BD-1-SP	ブドウ建設	Jan 02 - Mar 24, 2006	12	5	3	2	5	
14		自動車電装	BD-1-AE	ブドウ建設	Jan 02 - Mar 24, 2006	12	11	8	3	11	
15		石工	MH-c	マイハバ技術学校	Mar 12 - May 31, 2007	12	20				実施中
16	配管	配管	PL-1	エヴァン配管センター	Dec 28 - Feb 17, 2006	8	20	19	1	20	
17		配管	MH-1	マイハバ技術学校	Aug 28 - Nov 24, 2006	12	19	18	1	18	
18		配管	MH-2	マイハバ技術学校	Dec 04, 2006 - Mar 02, 2007	12	20	17	3	19	
19		配管	<b>MH-3</b>	<b>マイハバ技術学校</b>	<b>Apr 00 - Jun 00, 2007</b>	<b>12</b>	<b>20</b>				<b>予定</b>
20	農業	農業機械操作	HG-1-MO	ハガス農業技術学校	Sep 28 - Dec 22, 2006	12	16	16	0	16	
21		農業機械保守	HG-1-MM	ハガス農業技術学校	Sep 28 - Dec 22, 2006	12	15	15	0	15	
22		家畜飼育	HG-1-LH	ハガス農業技術学校	Sep 28 - Dec 22, 2006	12	11	4	7	11	
23		養鶏	HG-2	ハガス農業技術学校	Mar 19 - Jun 08, 2007	12	20				実施中
24	木工	木工	WD-1	教育省営繕局	Nov 27, 2006 - Mar 23, 2007	17	19	16	3	19	実施中
25		木工	MH-w	マイハバ技術学校	Feb 12, 2007 - May 10, 2007	13	16	13	3	16	実施中
26		木工	AT-w	アスマラ技術学校	Feb 13, 2007 - May 11, 2007	13	20	13	7	20	実施中
27	金属	金属	MH-m	マイハバ技術学校	Feb 12, 2007 - May 10, 2007	13	16	15	1	16	実施中
28		金属	AT-m	アスマラ技術学校	Feb 13, 2007 - May 11, 2007	13	20	17	3	20	実施中
							<b>Total</b>	580	199	255	294

Remarks: *Italic/Bold letter courses are scheduled funding by NCDPR*

専門家派遣実績

(1) 長期派遣専門家

	指導科目	氏名	派遣期間		M/M	年			備考
			自	至		2005	2006	2007	
1	チーフアドバイザー／基礎訓練管理	伊藤 嘉一	2006/2/21	2007/6/30	16.5		■		
2	調整員／基礎訓練計画	井上 高司	2005/1/4	2007/6/14	29.7	■	■		
				合計	46.2				

(2) 短期派遣専門家

	指導科目	氏名	派遣期間		M/M	年			備考
			自	至		2005	2006	2007	
1	基礎訓練計画	草苺 康子	2005/8/16	2005/11/23	3.3	■			
2	訓練評価・計画	佐藤 晶	2006/10/22	2006/12/20	2.0		■		
3	訓練計画・管理	佐々木 修	2007/2/11	2007/3/22	1.3			■	
				合計	6.6				

7. カウンターパート研修実績

カウンターパート研修実績

	氏名	所属	プロジェクト役職	訓練分野	期間		備考
					自	至	
1	Tesfai Seyoum MEDHANE	Director General, Department of TVET, MOE	Project Director	Vocational Training Policy	2005/10/1	2005/10/24	Training in Japan
2	Measho Gebretnsae BERHANE	Director, Monitoring and Quality Assurance Division, TVET, MOE	Project Manager	Vocational Training Policy	2005/10/1	2005/10/24	Training in Japan
3	Ghirmai ESTIFANOS	Unit Head, Vocational Education and Training Unit, Curriculum Planning and Development Division, TVET, MOE	Deputy Project Manager	Training Management in Vocational Training	2006/6/13	2006/7/22	Training in Japan (Group training course)
4	Abraham MENGESHA	Unit Head, Assessment Unit, Monitoring and Quality Assurance Division, TVET, MOE	Supporting Staff	Training Program Management	2006/9/3	2006/9/30	Training in Uganda
5	Ghebreziabher YOHANES	Technical Education and Training Unit, Monitoring and Quality Assurance Division, TVET, MOE	Supporting Staff	Training Program Management	2006/9/3	2006/9/30	Training in Uganda
6	Kifleysus ASFAHA	Vocational Education and Training Unit, Curriculum Planning and Development Division, TVET, MOE	Training Manager	Training Program Management	2006/9/3	2006/9/30	Training in Uganda
7	Mehreteab MEDHANIE	NCDRP Training officer	Supporting Staff	Training Program Management	2006/9/3	2006/9/30	Training in Uganda

MOE: Ministry of Education

TVET: Technical and Vocational Education and Training

NCDRP: National Commission for Demobilization and Re-integration Program

供与機材リスト(供与済み)

No.	品名	モデル	数量	単価	小計	利用場所	状況
1	車輛	Toyota Hilux LN166L-PRMDS	1	US\$36,500	US\$36,500	教育省本部	Good
2	コピー機	Ricoh Aficio 2022	1	US\$4,357	US\$4,357	教育省本部	Good
3	デスクトップコンピュータ	DELL Optipley GX 520	1	US\$1,757	US\$1,757	教育省本部	Good
4	コンピュータプリンター	HP laser jet 1020	1	US\$207	US\$207	教育省本部	Good
5	ラップトップコンピュータ	Toshiba PTA 30 E	1	US\$1,814	US\$1,814	教育省本部	Good
6	LCDプロジェクター	DELL 2300 MP	1	US\$3,313	US\$3,313	教育省本部	Good
7	スクリーン	Screen size 180 x 180 cm	1	US\$193	US\$193	教育省本部	Good
8	UPS	APC Back UPS650	1	US\$300	US\$300	教育省本部	Good
9	コピー機	Olivetti D-Copia 16	1	US\$4,000	US\$4,000	教育省本部	Good
10	レーザープリンター	HP laser jet 1010	1	US\$278	US\$278	教育省本部	Good
11	PCモニター	HP 15-LCD	1	US\$556	US\$556	教育省本部	Good
12	飲料水デバイスセンサー	Nikai NWD1203	1	US\$253	US\$253	教育省本部	Good
13	金庫	Boss CST46	1	US\$393	US\$393	教育省本部	Good
14	スキャナー	HP Scanjet 2400	1	US\$260	US\$260	教育省本部	Good
15	ワイヤレス Lan ルーター	Linksys WRT54G	1	US\$130	US\$130	教育省本部	Good
16	スキャナー	HP Scanjet 2200	1	US\$170	US\$170	教育省本部	Good
17	デジタルカメラ	Panasonic DMC-LZ2	1	US\$272	US\$272	教育省本部	Good
18	テーブル	D-140 round table	1	US\$333	US\$333	教育省本部	Good
19	PCプリンター	HP Laserjet 2600n	1	US\$575	US\$575	教育省本部	Good
20	ポータブルジェネレーター	Tiger 2700	1	US\$180	US\$180	教育省本部	Good
21	自転車	Xidesheng Wonder Admire	1	US\$170	US\$170	教育省本部	Good

供与機材リスト(供与予定)

No.	品名	モデル	数量	単価	小計	利用場所	Condition
1	コピー機	Desk top type, Digital copier, 22 copy/min., A3 max.	1	US\$5,710	US\$5,710.00	教育省本部	-
2	デスクトップコンピュータ	P-4 / 2.8 GHz, 256MB-RAM, 40GB-HDD, LCD17"Monitor, Required Software. UPS	1	US\$1,600	US\$1,600.00	教育省本部	-
3	PCプリンター	Laser B/W, 600 dpi, 15 ppm, 2 MB Memory, USB port	1	US\$350	US\$350.00	教育省本部	-
	プリンタートナーカートリッジ	for the above equipment	5	US\$120	US\$600.00	教育省本部	-
4	カラープリンター	Laser Color, 600 dpi, 4 ppm, 2 MB Memory, USB port	1	US\$600	US\$600.00	教育省本部	-
	プリンタートナーカートリッジ	for the above equipment	2	US\$500	US\$1,000.00	教育省本部	-
5	ラップトップコンピュータ	P-M / 1.6 GHz, 256MB-RAM, 40GB-HDD, LCD15"Monitor, Required Software	2	US\$1,670	US\$3,340.00	教育省本部	-
6	LCDプロジェクトー	Compact type, XGA resolution, 1800 lmn,ANSI	1	US\$2,600	US\$2,600.00	教育省本部	-
7	スクリーン	Tripod stand type, Screen size150 x 150 cm. or more	1	US\$500	US\$500.00	教育省本部	-
8	アーク溶接機	Portable Type, 220V-180A, with accessories and	3	US\$850	US\$2,550.00	教育省所管技術学校	-
9	MIG溶接機	Portable Type, 220V-180A, with accessories and	3	US\$950	US\$2,850.00	教育省所管技術学校	-
10	スポット溶接機	Portable Type, 220V-180A, with accessories and	2	US\$850	US\$1,700.00	教育省所管技術学校	-
11	ガス溶接機セット	Standard Set for Brazing and Cutting, with Gas regulators	5	US\$250	US\$1,250.00	教育省所管技術学校	-
12	水圧パイプベンダ	Portable Type, 10 ton, with 1-3" Die Set	1	US\$1,200	US\$1,200.00	教育省所管技術学校	-
13	角度研磨機	9" disc, 220 V, 1.5-2kW	5	US\$120	US\$600.00	教育省所管技術学校	-
14	角度研磨機	4.5" disc, 220V, 700-800W	5	US\$90	US\$450.00	教育省所管技術学校	-
15	卓上研削盤	6" wheel, 220V	2	US\$135	US\$270.00	教育省所管技術学校	-
16	卓上ハンドソー	220V, 1 HP Light Duty, Metal and Wood saw blade 3-13mm, 200mm cutting height	1	US\$2,000	US\$2,000.00	教育省所管技術学校	-

供与機材リスト(供与予定)

No.	品名		モデル	数量	単価	小計	利用場所	Condition
17	小型ハンドソー	220V, 700-900W, depth=40mm. wood saw disc	Black&Decker KS40	3	US\$120	US\$360.00	教育省所管技術学校	-
18	かんざ	220V, 650W, 100mm width, 2mm depth	Black&Decker KW712	3	US\$180	US\$540.00	教育省所管技術学校	-

## 9. 各訓練コース概要

### 各訓練コースの概要

- (1) 美容師コース
- (2) 配管コース
- (3) 建設コース（溶接）
- (4) 建設コース（電気工事）
- (5) 建設コース（スプレー塗装）
- (6) 建設コース（自動車電装）
- (7) 建設コース（石工）
- (8) 木工コース
- (9) 金属加工コース
- (10) 農業関連コース（農業機械操作、農業機械保守、家畜飼育）

(1) 美容師コース

研修期間	3 ヶ月 (12 週間～13 週間、5～6 時間/日、月～金)
訓練プロバイダー	①Salina Beauty School ②Sesen Beauty School
コースの目的	理髪・美容サロンで働くために必要な基礎的スキルを身につけ、就業に結びつく (自営あるいは雇用)。
身につける技能	洗髪とカーリング、ハサミを用いた髪型調整、エクステンション取り付け、エリトリアの伝統的調髪。
受講資格	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 女性の除隊兵士。</li> <li>● 美容に強い興味を持っていること。</li> <li>● グレード5以上の学歴を持つこと。</li> <li>● 18歳以上。</li> </ul>
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ハサミの使い方を含む美容の基礎</li> <li>● エリトリアの伝統的調髪</li> <li>● 洗髪、カーリング、ストレート、カット</li> <li>● 染色・カラーリング</li> <li>● エクステンション</li> <li>● 最終試験</li> </ul>
修了証受領条件	最終試験 (筆記と実地) に合格すること。出席率が 90%以上。

(2) 配管コース

研修期間	第1回目は8週間。第2回目以降は12週間。
訓練プロバイダー	第1回目: Even Plumbing 第2回目以降: Mai Habar Technical school
コースの目的	ビル建設工事に付随する配管工事等に従事できるスキルを身につける。
身につける技能	配管に関する計画作りと配管作業の実践、作業の安全衛生等の確保、配管に関する測定やパイプ加工、ビル現場でのパイプ組み立てと取り付け、配管の調整や問題解決など。
受講資格	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 除隊兵士 (男女)</li> <li>● 18歳以上</li> <li>● グレード5以上の学歴を持つこと。</li> <li>● 建設/配管に強い興味を持っていること。</li> </ul>
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 作業現場の安全衛生と救急箱</li> <li>● 配管の基礎原理</li> <li>● 配管工具の機能と利用</li> <li>● 配管材料、工具、機器の調達</li> <li>● パイプの切断と接合</li> <li>● 配管計画準備</li> <li>● 基礎的配管図</li> <li>● 上下水道管の設置と維持管理</li> <li>● 蛇口の取り付け</li> <li>● 温水器の取り付けと維持管理</li> <li>● ポンプの取り付けと問題点のチェック</li> <li>● 排水溝等の取り付け</li> <li>● 衛生機器の取り付けと維持管理</li> <li>● 銅製パイプの溶接</li> <li>● 衛生施設の取り付けと維持管理に関する理論的及び実践的レビュー</li> <li>● 受講生の理論面及び実践面の能力確認</li> </ul>
修了証受領条件	最終試験 (筆記と実地) に合格すること。出席率が 90%以上。

### (3) 建設コース（溶接）

研修期間	3 ヶ月、7 時間/日 x 5 日間/週 x 12 週
訓練プロバイダー	Bdho Construction
コースの目的	自動車配線工として働くための基礎的スキルを身に付ける
身につける技能	安全ルールを適切に適用できる。機器類を適切に使用でき、維持管理できる。簡易な図面の読み取りと理解ができる。基礎的な金属構造物を作製できる。作業に必要な工具・機器・使用できる。
受講資格	除隊兵士 自動車配線に強い興味を持っていること。 グレード 8 以上の学歴を持つこと。
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"><li>● 作業の安全</li><li>● 金属科学の基礎</li><li>● 工具類の説明</li><li>● アーク溶接機器の使用法</li><li>● アーク溶接基礎の実践</li><li>● ガス溶接機器の使用法</li><li>● ガス溶接基礎の実践</li></ul>
修了証受領条件	最終試験（筆記と実地）に合格すること。出席率が 90%以上。

### (4) 建設コース（電気工事）

研修期間	3 ヶ月、7 時間/日 x 5 日間/週 x 12 週
訓練プロバイダー	Bdho Construction
コースの目的	電気工事工として働くための基礎的スキルを身に付ける
身につける技能	作業安全の適切な実施、工具類の適切な使用と維持管理、電気配線法令の理解、配線ダイアグラムの読み取り・理解、家庭電気配線、電気配線問題点の診断
受講資格	除隊兵士 電気配線に強い興味をもっていること グレード 8 以上の学歴を持つこと。
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"><li>● 作業の安全</li><li>● 工具類の説明</li><li>● 建設に関わる基礎的電気工事</li><li>● 電気配線法令の理解</li><li>● 工具類の使用と取り扱い</li><li>● 電気に関する記号と配線図の理解</li><li>● 電気配線の実地</li></ul>
修了証受領条件	最終試験（筆記と実地）に合格すること。出席率が 90%以上。

(5) 建設コース (スプレー塗装)

研修期間	3 ヶ月、7 時間/日 x 5 日間/週 x 12 週
訓練プロバイダー	Bdho Construction
コースの目的	塗装工として働くための基礎的スキルを身に付ける。
身につける技能	作業安全の適切な実施、塗装手順の理解、塗装用工具と材料の適切な取り扱いと安全確保
受講資格	除隊兵士 塗装に強い興味をもっていること 基礎教育を修了していること。
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"><li>● 塗装作業の安全</li><li>● 塗装作業概論</li><li>● 塗装に必要な材料と工具</li><li>● 自動車の車体修理における塗装</li><li>● 色の調整</li><li>● 塗装手順の理解</li><li>● 塗装の実践</li><li>● 最終仕上げとつや出しの実践</li></ul>
修了証受領条件	最終試験 (筆記と実地) に合格すること。出席率が 90%以上。

(6) 建設コース (自動車電装)

研修期間	3 ヶ月、7 時間/日 x 5 日間/週 x 12 週
訓練プロバイダー	Bdho Construction
コースの目的	自動車電装工として働くための基礎的スキルを身に付ける
身につける技能	技能工の監督下で自動車電装工として働ける。工具・機器を適切に使用・維持管理できる。簡易な配線図を読み取り・理解できる。電気コンポーネントを適切に取り扱い・維持管理できる。一般的に発生する自動車電装に関する故障を直すことができる。
受講資格	除隊兵士 自動車電装に強い興味をもっていること グレード 8 以上の学歴を持つこと。
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"><li>● 作業の安全</li><li>● 自動車配線システム序論</li><li>● 配線図の読み取り</li><li>● 自動車バッテリーの理論と実践</li><li>● チャージング・システムの理論と実践</li><li>● スターター・システムの理論と実践</li><li>● 燃焼システムの理論と実践</li><li>● 工具・試験機器の取り扱い</li><li>● 修理の手順</li></ul>
修了証受領条件	最終試験 (筆記と実地) に合格すること。出席率が 90%以上。

(7) 建設コース (石工)

研修期間	3 ヲ月 (7 時間/日 x 5 日間/週 x 12 週)
訓練プロバイダー	Mai Habar Technical School
コースの目的	自営あるいは政府機関あるいは民間企業に石工として雇用されるための基礎的スキルを身に付ける。
身につけるスキル	簡易なビル建設プロセスに対応する、初心者の石工として働く、手工具あるいは電動工具を選択・使用できる、一般的な安全と電動工具の安全に関する規定を知る。簡易な図面の読み取りと理解ができる。
受講資格	除隊兵士 石積みスキルに強い興味をもっていること 基礎教育修了の学歴を持つこと。
カリキュラム	(1)石工 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 石積み工と安全</li> <li>● 石積み用の工具と材料</li> <li>● ビルの形式</li> <li>● 基礎</li> <li>● 計画の読み取りと着手</li> <li>● モルタル</li> <li>● つなぎと壁</li> <li>● 石積みの仕上げ</li> </ul> (2)コンクリート工 <ul style="list-style-type: none"> <li>● コンクリート工序論</li> <li>● 手工具と機械</li> <li>● コンクリートの種類と特性</li> <li>● 鉄筋工</li> <li>● 型枠と足場</li> <li>● コンクリート材料の調合</li> <li>● コンクリートの手動あるいは機械による混合</li> <li>● 梁、柱、厚板、階段</li> </ul>
修了証受領条件	最終試験 (筆記と実地) に合格すること。出席率が 90%以上。

(8) 木工コース

研修期間	3 ヲ月 (7 時間/日 x 5 日間/週 x 13 週)
訓練プロバイダー	MOE Production Workshop Mai Habar Technical School Asmara Technical School
コースの目的	自営あるいは政府機関あるいは民間企業に雇用されるための木工の基礎的スキルを身に付ける。
身につけるスキル	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 木工製品を測定し製造する能力。</li> <li>● 木工作業工として工場働く能力。</li> <li>● 規定・法令を建設に適用する、これには作業の安全衛生、入札、数量計算書、品質保証を含む。</li> <li>● 材料、構造、製造方法、製造計画に関する情報収集と決定を行うことができ、また作業所において他の工員と共同で作業が行える。</li> </ul>
受講資格	除隊兵士 木工に強い興味をもっていること 基礎教育修了の学歴を持つこと。
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 作業現場の安全衛生と救急箱</li> <li>● 木工材料の種類</li> <li>● 木工用手工具</li> <li>● 手工具利用実践</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>木工用電動機器</li> <li>電動工具利用実践</li> <li>木材の接合</li> <li>基礎的家具の設計・構造</li> <li>木材及び金属加工</li> <li>家具製造の基礎</li> <li>簡易な棚の製作実践</li> <li>机の製作実践</li> <li>応用設計実践</li> <li>受講生の技能の理論面及び実践面の診断</li> </ul>
修了証受領条件	最終試験（筆記と実地）に合格すること。出席率が90%以上。

### (9) 金属加工コース

研修期間	3 ヶ月（7 時間/日 x 5 日間/週 x 13 週）
訓練プロバイダー	Mai Habar Technical School Asmara Technical School
コースの目的	自営あるいは政府機関あるいは民間企業に雇用されるための金属加工の基礎的スキルを身に付ける。
身につける技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全規定の適切な適用</li> <li>手工具の選定と利用</li> <li>簡易なアーク溶接とガス溶接</li> <li>材料の正しい選択：正しい作業所での技能と品質保証</li> <li>工具・機器の維持管理と修理</li> </ul>
受講資格	除隊兵士 溶接や金属加工に強い興味をもっていること 基礎教育修了の学歴を持つこと。
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全衛生一般</li> <li>アーク溶接の特徴</li> <li>シールド金属アーク溶接</li> <li>溶接消耗品</li> <li>溶接の設計と製作</li> <li>ガス溶接概論</li> <li>ガス溶接の手順</li> </ul>
修了証受領条件	最終試験（筆記と実地）に合格すること。出席率が90%以上。

### (10) 農業関連コース（農業機械操作、農業機械保守、家畜飼育、養鶏）

研修期間	3 ヶ月（12 週）
訓練プロバイダー	Hagaz AgroTechnical School
コースの目的	以下の基礎的なスキルを身に付ける。
身につける技能	<p>(1) 農業機械操作コース</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>トラクターの運転</li> <li>農業機械の運転理解</li> <li>ポンプの操作</li> </ul> <p>(2) 農業機械メンテナンスコース</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各種コースの取り扱いと利用</li> <li>金属加工と配管の実践</li> <li>農業機械の操作とパーツの理解</li> <li>エンジンの理解と基礎的メンテナンス</li> <li>ポンプのメンテナンスとパイプ取り付け</li> <li>修理</li> </ul>

	<p>(3)家畜飼育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 家畜飼料の生産</li> <li>● 健康と病気管理</li> <li>● 家畜の飼育管理</li> <li>● 近代的技術を用いた牛乳生産</li> <li>● 養鶏</li> </ul> <p>(4)養鶏</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 鶏の給餌と飼育</li> <li>● 健康と病気管理</li> <li>● 利用可能な資源を用いた飼育と管理</li> <li>● 他の種類の家畜の飼育技能一般</li> </ul>
受講資格	女性の除隊兵士
カリキュラム	(プロジェクト側では作成していない。)
修了証受領条件	最終試験(筆記と実地)に合格すること。出席率が90%以上。

## 10. 専門家アンケート結果

### 0. 回答者基礎情報

	氏名	担当分野
1	伊藤嘉一	チーフアドバイザー/基礎訓練計画
2	井上高司	業務調整/基礎技能訓練

### 1. 妥当性関連

1.1 緊急試行的に 400 名の除隊兵士の訓練を実施する本プロジェクトのアプローチは、適切なものでしたか。

	回答数
a. 非常に適切であった。	0
b. 適切であった。	1
c. あまり適切でなかった。	1

理由/コメント：

- ◆ (教育省は除隊兵士の訓練に関する承認や世銀資金の活用を NCDRP に委ねなければならないことから)、カウンターパートを教育省ではなく、NCDRP としてサブカウンターパートを教育省等にすれば、業務がさらにスムーズに行った可能性がある。

1.2 本プロジェクトで実施している訓練コースは、除隊兵士の訓練志向と合致していますか。

訓練コース	大いに合致している	ある程度合致している	あまり合致していない	回答なし
美容	1	1	0	0
配管	1	0	0	1
建設	1	0	0	1
農業関連	1	1	0	0
木工	1	0	0	1
金属加工	1	0	0	1

理由/コメント：

- ◆ 地場産業が発達していない現状では就職の問題が有り、自活できるコースが最適であるが訓練実施場所や期間の問題等でパイロット的にさまざまなコースを設定した。

1.3 本プロジェクトで実施している訓練コースは、労働市場のニーズと合致していますか。

訓練コース	大いに合致している	ある程度合致している	あまり合致していない	回答なし
美容	1	1	0	0
配管	1	0	0	1
建設	1	0	0	1
農業関連	1	1	0	0
木工	0	1	0	1
金属加工	0	1	0	1

理由/コメント：

- ◆ エリトリアは地場産業が発達していないことからコメントは困難。建設及び配管コースについては建設会社へ就職のニーズがあると市場調査(マーケット調査)の結果を踏まえて実施した。ただし、訓練開始後に政府の突然の政策転換により民間建設会社の営業・建設が差し押さえられたことから、建設については、訓練生が就職する先が無くなった。しかし、建設部門の個人営業は若干認められてい

るので、現在も建設関連コースを続行している。

- ◆ 木工・金属については雇用環境が十分でないため自立型志向の訓練内容が求められる。

## 2. 有効性関連

### 2.1 訓練プロバイダーは、質の高い訓練を実施できていますか。

コース	訓練プロバイダー名	非常に高い	高い	普通	低い
美容師	Sesen Beauty Training Center	0	2	0	0
美容師	Salina Beauty Training Center	0	2	0	0
配管	Even Plumbing Center	0	1	1	0
配管	Mai Habar Technical School	0	1	1	0
建設関連	Bdho General Construction Co.	0	1	1	0
農業関連	Hagaz Agro-Technical School	0	1	1	0
木工	Production of School Supplies, Ministry of Education	0	1	1	0

(2) プロジェクト目標を達成するうえで、世銀プロジェクトの進捗の遅れや、SDCの改修が実施されないことは、本プロジェクトの進捗や目標を達成するうえで、どのような影響がありましたか。

- ◆ 世銀プロジェクトの実施の遅れは「エ」国政府の資金活用の計画遅れであって、JICAプロジェクトには影響はない。また、SDC改修については、「エ」国政府の方針が換えを受けてJICAは代替訓練施設を活用して訓練を実施したので、(目標達成に関しては)大きな影響はなかった。
- ◆ SDCの施設のみでの修復が行なわれ、資機材や人材・予算の配置が不十分な場合を想定すると、むしろプロジェクトがとった既存の訓練施設(技術学校等)利用のほうがより現実的で効果があったと考えられる。

(3) その他、プロジェクト目標の達成に貢献した要因あるいは阻害した要因がありますか。ありましたら、それを記述願います。

貢献要因：

- ◆ 上位計画の教育省が掲げている2010年までに10,000人の除隊兵士を訓練するためにJICAは400名をパイロット的に訓練を引き受けてR/Dを結んで実施しておりJICAは訓練の目標に貢献している。
- ◆ 訓練を実施している訓練機関に対して供与機材を供与して除隊兵士訓練以外の訓練生(一般の学生)に活用してもらい、将来の国を担う若者に対して貢献している。
- ◆ 教育省カウンターパートによる献身的な訓練コース準備や訓練運営支援

阻害要因：

- ◆ 訓練のそのものの基本理念がNCDRPの雇用したコンサルタント(欧米)が作成したものでコストの考え方で訓練開始までに時間がかかった。
- ◆ エリトリア側の案件に対する予算の問題。特にカウンターパートである教育省は予算的に未処置の状況下で当技プロがスタートした。
- ◆ 教育省側の人材の不足(実質2名のみが訓練準備から運営に関わり、他の業務との兼任のため常に多忙である)

### 3. 効率性関連

#### 3.1 投入について

##### 日本側の投入

##### 3.1.1 日本人専門家の派遣の適切さについて

###### a. 長期専門家

	大変適切	適切	適切でない
人数	0	1	1
専門分野	0	1	1
知識・技術力	0	2	0
コミュニケーション能力	0	2	0

理由/コメント：

- ◆ 知識・技術力/コミュニケーションは普通であるが派遣の人員・人選及び人数が適切ではない。したがって、専門分野についての調整員と訓練計画を一緒にした事は当案件についてはマイナスであったと感じる。二束のわらじは考え方にもよるが当技プロに関しては適切ではなかった。

###### b. 短期専門家

	大変適切	適切	適切でない
人数	0	2	0
専門分野	0	1	1
派遣時期（タイミング）	0	2	0
派遣期間	0	2	0
知識・技術力	0	2	0
コミュニケーション能力	0	2	0

理由/コメント：

- ◆ 短専の派遣については適切であったが専門分野がかなりむずかしいく、派遣された短専も苦慮していた。

##### 3.1.2 機材の供与

	大変適切	適切	適切でない
機材の種類	1	1	0
数量	1	1	0
供与時期（タイミング）	0	0	2

理由/コメント：

- ◆ 教育省と協議の結果の供与（機種・数量）なので特に問題はないが搬入のタイミングについては訓練の開始時期を見ての搬入（通関時間）を考慮してほしかった。
- ◆ H18年度の訓練用機材については訓練に使用できるよう早急な供与が求められる。

##### 3.1.3 カウンターパートの日本での研修

	大変適切	適切	適切でない
人数	0	1	1
研修受入時期	0	2	0
研修期間	0	2	0
研修内容	0	2	0

理由/コメント：

- ◆ 個別の研修以外に集団での研修が多くあったが、中々参加できずカウンターパートで研修させたい政

府職員が多くいる現状を考慮してもらいたかった。

### 3.1.4 カウンターパートの第三国（ウガンダ）での研修

	大変適切	適切	適切でない
人数	0	1	1
研修受入時期	0	2	0
研修期間	0	2	0
研修内容	0	2	0

理由/コメント：

- ◆ 受け入れ機関との制約で一回しか実現できなかったが後二回位実施したかった。
- ◆ カウンターパート特に訓練実施や運営に係る実務レベルの人材不足。
- ◆ その他の管理・支援スタッフの配置なし。
- ◆ エリトリア側によるプロジェクト運営のための予算計上なし。

エリトリア側の投入

### 3.1.5 エリトリア側の本プロジェクトに対する投入は適切であったか。

		大変適切	適切	適切でない	回答なし
カウンターパート	人数	0	0	2	0
	能力	0	2	0	0
	英語力	1	1	0	0
管理・支援スタッフ	人数	0	1	1	0
	能力	0	1	0	1
予算支出	金額	0	0	2	0
	タイミング	0	0	1	1

理由/コメント：（不足している場合、何が不足しているか具体的に記述願います）

- ◆ カウンターパートに対する教育省及び NCDRP の予算処置（人員配置も予算の関係でごく少人数となっている。）

### 3.2 エリトリア教育省の本プロジェクトに対する認識、協力の度合いはどうか。

高い理解や協力が得られている。	0
ある程度の理解や協力が得られている。	2
まだ不十分な理解や協力しか得られていない。	0

理由/コメント：

- ◆ 無い予算で最大限の協力を受けている。
- ◆ 除隊兵士の社会復帰支援プログラム実施責任は教育省ではなく NCDRP にあるため、教育省としては JICA と共同でプロジェクト期間についてのみ支援するものという理解。

### 3.3 プロジェクトの効率性、特に投入や活動を行う際に、良い影響を及ぼした貢献要因、あるいは悪影響を及ぼした阻害要因がありましたら以下に記述願います。

貢献要因：

- ◆ 投入によって訓練の活性化になりよい影響を与えている。
- ◆ 訓練内容の選定にあたりカウンターパートとの長期にわたる協議や検討が、除隊兵士訓練の目的意識をはっきりとさせた。

- ◆ 訓練実施コストの検討・調整に重点を置いたことで、NCDRP 予算によって持続性のある訓練プログラムが策定できた。

阻害要因：

- ◆ 基本的機材を JICA に頼りすぎている。
- ◆ 教育省と NCDRP 間の協調性に多少難があり、特に NCDRP からの積極的な支援が得られにくい。
- ◆ NCDRP の地方事務所との連絡体制の不備などから本部からの指示が的確に伝わらず、特に訓練生選考において問題が頻発している。

**4. 上位目標及びインパクトに関して**

4.1「本プロジェクトの訓練コースを修了した除隊兵士の社会復帰が円滑に行われる。(指標は、2008年12月までに、訓練コースを修了した除隊兵士の生計が向上する。)」という上位目標が、達成される見込みはありますか。

確実に達成できるであろう。	0
ある程度達成できるであろう。	1
達成することは困難である。	1

理由/コメント：

- ◆ 本案件は H19 年 6 月までの協力で、当初立てた訓練者の目標には達している。しかし、自活者以外は生計が向上したかは不明であり 2008 年 12 月までは見通しがつきかねる。
- ◆ 市場経済の活性化(建設事業活動制限の撤廃など)による雇用創出機会が復活するなどの条件による。

4.2 プロジェクトで実施した訓練を生かして、他の除隊兵士の訓練が実施される見込みはありますか。見込みがある場合、どのような見込みがあるか具体的に記述願います。

- ◆ 美容師コースと配管コースを NCDRP・政府独自で JICA の技術移転を活用して 2007 年 4 月頃より実施する方向。この訓練の管理は教育省が実施する予定。
- ◆ プロジェクトが策定し実施している「美容師コース」の NCDRP による今後の継続はすでに同意されており、教育省の技術学校での「配管コース」の継続も検討されている。更に NCDRP による訓練予算単価の見直しが進めば、金属・木工などの訓練単価が高くなるコースについても NCDRP からの予算措置により教育省プログラムとして実施可能。

4.3 本プロジェクトによって発現したなんらかのインパクトはありますか。政策制度面、社会文化面、技術面など、プロジェクトのプラスおよびマイナスの影響がありましたら、記述願います。

<プラス面>

- ◆ 政策制度面、社会文化面、技術面などは別にして日本が平和構築の一環としてこの種の案件に協力しているという広報での点。

<マイナス面>

- ◆ 除隊兵士者に対する訓練は除隊後一回だけのチャンスなので訓練そのものは真剣ではあるが、ドナー側の経費負担が比較的大きい。

<その他>

- ◆ プロジェクトでは通常の技能訓練より短いサイクルでの訓練実施によってより多くの除隊兵士に訓練機会を提供することを実践してきたが、依然として一部に長期間の訓練の必要性を唱える声も聞かれる。現状の社会情勢と雇用機会からみても長期間の訓練によるメリット(雇用優位性)は見られないため、訓練後の雇用機会は本人の資質や努力あるいは偶然性によるところが大きいと考えられる。

**5. 自立発展性に関して**

**5.1 カウンターパートの技術レベルについて**  
以下の点について、カウンターパート（教育省 TVET 局）の能力をどう評価していますか。

	大変適切な能力を有する	適切な能力を有する	まだ不十分
訓練コースの計画	0	2	0
訓練コースの運営管理	0	2	0
研修関連データの記録と有効活用	0	0	2
訓練コースのモニタリングとモニタリング結果に基づく訓練コース改善	0	1	1
修了生の雇用状況モニタリング	0	0	2

理由/コメント：

- ◆ 訓練計画・運営は今まで職業訓練学校を管理してきた関係で問題はなく履行できていたが記録とかモニタリングに関しては技術移転の結果ある程度確立されたと思う。
- ◆ 通信環境の整っていない場所からの参加者が多い中で、NCDRP に依存せざるを得ない環境での追跡モニタリングには限界がある。

**5.2 本プロジェクトで供与した機材の維持管理は、本プロジェクト終了後も、適切に行われる見通しはありますか。**

a. 十分ある。	2
b. ある程度、ある。	0
c. あまりない。	0

理由/コメント：

- ◆ 除隊兵士訓練が優先的に活用するが、職業訓練学校に搬入したので一般学生も活用することとなる。
- ◆ 概して資機材の管理状況は良く使用状況も適切である。

**5.3 プロジェクトの効果の持続性に影響を及ぼすと予想される要因（貢献要因、阻害要因）はありますか。ありましたら、以下に記述してください。**

貢献要因：

- ◆ 訓練後の就業状況は、国内の経済が大きく左右する。
- ◆ NCDRP による予算措置がとられること。
- ◆ NCDRP から教育省への訓練実施にかかる要請が継続すること。

阻害要因：

- ◆ 当国に於ける除隊兵士にかかる予算処置（教育省・NCDRP）
- ◆ NCDRP による予算措置がとられないこと。

## 6. プロジェクト実施プロセス

6.1 合同調整委員会は良好にその機能を果たしていますか（必要な時期に実施され、必要なテーマについて話が行われたかどうか、問題解決に役立ったかどうかなど）。

大変有効に機能している。	0
ある程度、機能している。	2
あまり機能していない。	0

理由/コメント：

- ◆ PDM 等節目で報告をして承認を受けており、適切に機能している。特に供与機材に関しては JCC にて承認後に申請をしている。したがって、何処に機材が入るかについて討議をしている。
- ◆ プロジェクトの目的と進捗状況の確認に有効

6.2 カウンターパートと専門家間の定期的な会議は、実施していますか。開催頻度と参加者の範囲を記載願います。

- ◆ 月一回の合同運営会議（局部会議）を実施し、週一回の担当カウンターパートとの会議。
- ◆ 2週間に1度の実務者レベル（日本人専門家とカウンターパート2名）の進捗確認のための打ち合わせに加え、4週に1度のプロジェクト協議（実務者レベル+TVET 局長・次長）の計画はあるが、業務の都合で延期や繰越になることが多い。

6.3 上記の定期的な会議は、プロジェクト運営進捗上、有効に機能していますか。

大変有効に機能している。	1
ある程度、機能している。	1
あまり機能していない。	0

理由/コメント：

- ◆ 特に局部会議は訓練の方向性を決定するのに重要な会議です。カウンターパートとの会議は実務会議となります。案件の管理に有効に働いています。
- ◆ 延期や中止が多い

6.4 プロジェクト関係者間のコミュニケーションは、円滑に行われましたか。

大変円滑に行われている。	0
ある程度、円滑に行われている。	2
あまり円滑ではない。	0

理由/コメント：

- ◆ カウンターパートとの風通しの為に「飲み会」を含め週一回実施しており円滑に物事を実施、出来ていると思っている。
- ◆ 当事者意識の欠如や独断行動による一時的な軋轢が見られる。

7. プロジェクト期間は、残り約4ヵ月ですが、この期間の活動において、改善・解決すべき事項、あるいは最も優先的に対処する必要がある事項がありましたら、ご意見を記述願います。

- ◆ 特に無いが訓練生修了生のモニタリングを教育省カウンターパートと研究して行きたいという課題

がある。PC の接続が悪いのでどの様にしてお互いのコミュニケーションをとるかが際優先で対応する事。

- ◆ 訓練事業の継続性の観点からは訓練実施運営の教育省移管と NCDRP との強調体制確立が重要となる。現実的な除隊兵士の収入創出機会を与える点では、(食品加工販売など)自立型支援に特化した短期コース(1 ヶ月程度)の試験的实施も時間的にまだ可能であると思われる。

## 11. カウンターパートアンケート結果

### 教育省所属及びNCDRP 所属カウンターパート向け質問票の集計 (教育省 5 名+NCDRP2 名=計 7 名分)

#### **1A. Training plan for demobilized soldiers** <この設問は、教育省所属カウンターパートのみ対象>

1.1 Has MOE developed any alternative plan to provide vocational trainings for demobilized soldiers with budget from NCDRP? If it has, please describe it as in detail as possible, especially concerning to its term, target number of soldiers and courses, field of training, implementation process and the total budget.

- ◆ The MOE by now has acquired experience from the Project. Skills training to demobilized soldiers can be provided in MOE's institutions or in private training providers under the supervision of MOE. No negotiations took place so far between the MOE and NCDRP. If such request comes from the NCDRP, Dep't of TVET of the MOE is ready to assume responsibility of utilizing any budget for the benefit of demobilized soldiers.
- ◆ We tried, but it did not materialized due to the delay of rehabilitating of SDC's
- ◆ No
- ◆ Yes, but it was not implemented due to some technical reasons.

1.2 So far, has MOE implemented any training course for demobilized soldiers independently from the Projects activities and budget support by Japan. If any, please provide the information about it: 1) number of trained demobilized soldiers, 2) budget disbursed (annual data) so far, and 3) training plan for the year 2007 and future.

1)

- ◆ No (3 Persons)
- ◆ Training of Trainers 10 for Teaching Sewing skill to demobilized soldiers (3,790 USD) .

2)

- ◆ Basic Sewing Training course for 30 demobilized soldiers 10,450 USD.

3) (回答なし)

1.3 Please describe how TVET Department of MOE utilizes know-how accumulated by the Project.

- ◆ We had good experience in preparations and implementations of training projects. Working with the Japan's expert and implementing projects helped us to strengthen our working capacity better. The counterpart training either in Japan or in Uganda really helped us a lot in expanding our out look.
- ◆ Costing of courses & Follow-up of ex-trainees
- ◆ By integrating the shared experiences from the Project with its previous experiences.
- ◆ TVET is not confined to Training demobilized soldiers, which is non formal, but mainly those in the formal training. Hence the department can use the know-how gained from the project in all its activities, in the formal as well as in the non formal.

#### **1B. Progress of Demobilization and Reintegration Program** <この設問は、NCDRP 所属カウンターパートのみ対象>

Please answer the following questions concerning to the progress of nation-wide DDR process, especially the progress of rehabilitation:

- 1) Under the World Bank Loan Program, "Emergency Demobilization & Reintegration", how much number of the demobilized soldiers has been trained so far by MOE and other organizations?

(回答なし)

2) What kinds of training course have been carried out by other organizations (other than MOE)?

(回答なし)

3) How much the total cost of training for demobilized soldiers?

(回答なし)

4) How much number of the soldiers is planned to be trained in 2007 under the DDR Process?

(回答なし)

## 2. Relevance of the Project

2.1 (A) Generally, social needs of a country, especially in the process of rehabilitation from damage brought by disaster and/or conflict, rapidly changes according to the progress of development. Implementation of the DDR of soldiers was one of the priorities of the policy of Eritrean Government at the time of establishment of the Project. How does MOE evaluate the changes of social needs of the country since 2005 and how has the policy of MOE changed accordingly? <この設問は、教育省所属カウンターパートのみ対象>

- ◆ The border conflict that took place between Ethiopia and Eritrea has as a consequence destabilized a large portion the population along the border. When the conflict erupted many youth had to raise arms to defend their country. After peace accord was signed the government formed the NCDRP with clear vision that the thousands of young men and women need to be demobilized and integrated into the society smoothly. The MOE then is ready to carry its share by utilizing its existing training institutions for training skills which demobilized soldiers could either acquire skills for employment or for starting their own business.
- ◆ This question is difficult to answer. First of all the time given is very short, the activities performed are very few and it requires an expert to deeply analyze the situation.
- ◆ The Government of Eritrea believes skill training provision will contribute to sustainable living and is motivating the DS to participate in vocational training through its local governments.

2.1 (B) Generally, social needs of a country, especially in the process of rehabilitation from damage brought by disaster and/or conflict, rapidly changes according to the progress of development. Implementation of the DDR of soldiers was one of the priorities of the policy of Eritrean Government at the time of establishment of the Project. How does NCDRP evaluate the changes of social needs of the country since 2005 and how has the implementation of RRD process changed accordingly? <この設問は、NCDRP 所属カウンターパートのみ対象>

(回答なし)

2.2 Compared to the social and political needs in Eritrea, how do you evaluate the appropriateness of timing of the Project?

(括弧内の数値は回答数)

The appropriateness is

( 4 ) very high

( 3 ) high

( 0 ) average

( 0 ) low

( 0 ) very low

Comments/Reasons:

- ◆ The mere reason that when ever a notice to recruit trainees is posted, there is a rush of people who desperately need to be trained to earn their livelihood. The success of hair dressing courses which were

conducted repeatedly confirm this reality.

- ◆ The training course was implemented as planned.
- ◆ During the time of the establishment of the project the country had taken as a responsibility and priority to rehabilitate and reintegrate the demobilized soldiers. That is why it established the NCDRP Office. To work on this heavy task it had to look for partners, one of which is Japan (JICA). So the appropriateness of timing of the project is high.
- ◆ DRP interventions are still required for the purposes that the commission was established to meet.

2.3 How do you evaluate the relevance of the training courses contents to the needs of demobilized soldiers?

The relevance is

- ( 2 ) very high
- ( 3 ) high
- ( 2 ) average
- ( 0 ) low
- ( 0 ) very low

Comments/Reasons:

- ◆ This is my feeling. I hope the joint study to be conducted by MOE, NCDRP and JICA will soon prove that.
- ◆ It was designed after identifying what employment opportunities are and will be in demand.

**3. Effectiveness of the Project.**

3.1 According to the latest report, the Project will provide training to 568 demobilized soldiers by June 2007 and the Project Purpose is expected to be achieved by the end of the Project. What are the major factors that facilitated and/or hampered the achievement of the Project Purpose?

Facilitating Factors:

- ◆ Efforts exerted by the experts of JICA, MOE and NSDRP.
- ◆ Devoted participation of training providers. (be it private or MOE's institutions)
- ◆ The initiation taken. When we started training in the government training institutions the training went smooth and expedited. We were able to train more demobilized soldiers.
- ◆ Coordination among partners of the Project
- ◆ A strong focus on a skill training provision by the Eritrean government.
- ◆ Motivated activities of the members of MOE,(TVET Department), NCDRP, JICA and Ministry of National Development.
- ◆ Commitment of the implementing partners
- ◆ Interest of the demobilized soldiers
- ◆ Readiness of the training providers
- ◆ Regular monitoring and evaluation activities and the devotion of the selected trainees

Hampering Factors:

- ◆ Delay of rehabilitation of the SDCs
- ◆ In availability of training consumables in the market.
- ◆ The very fact that we waited for the refurbishment of the Skill Development Centers took us some time to start.
- ◆ There were no enough private training providers to offer competitive training.
- ◆ Recruitment of trainees
- ◆ Lack of well equipped private providers

- ◆ Delays in selection of trainees
- ◆ Fragmented sub-projects.

3.2 How does the delay of rehabilitation of SDC affect the progress and achievement of the Project?

Comments:

- ◆ Training of demobilized soldiers would have been easier and cost effective if it could have been conducted in rehabilitated SDCs. More training could have benefited in various fields of study. Take over of the Project by MOE would have been smoother.
- ◆ The training was not conducted at its full scale in the beginning because we expected NCDRP would finish the rehabilitation of the SDC very soon and spent some time waiting. I guess the delay could be about 15%.
- ◆ To some extent, because there are other options to use: Private and Public Institutions other than SDCs.
- ◆ It is clear to every body that having the SDCs functional would have accelerated the progress of the project and the achievement would have been relatively high in the quantity and diversity of the trades.

**4. Inputs to the Project and Efficiency**

Japanese Input

4.1 Do you think that Japanese experts have been dispatched appropriately with regard to quantity, quality and timing, etc.? Please mark "0" in the box which is the most similar to your opinion.

a. Long term experts

	Very appropriate	Appropriate	Not appropriate	No answer
Number of experts	2	3	0	2
Field of specialty	0	5	0	2
Technical capability	1	3	1	2
Communication ability	1	2	2	2

Comments:

- ◆ The two experts did a good job. For the Project their number was adequate.
- ◆ Good understanding, but with some there is a language problem.

b. Short term experts

	Very appropriate	Appropriate	Not appropriate	No answer
Number of experts	1	3	1	2
Field of specialty	1	4	0	2
Timing of dispatch	2	2	0	3
Period of dispatch	0	4	0	3
Technical capability	1	1	2	3
Communication ability	1	1	3	2

Comments:

- ◆ The short term experts were helpful. Especially during initial Project take off, the expertise was very valuable.
- ◆ I do not know the advantage it gives JICA sending many short terms exerts for such a small project but, as for me, it is expensive with much duplication. The money spent for sending these experts could have been used to train anther 100 trainees.
- ◆ I can say nothing, because I had no a direct contact with the short term experts.

4.2 Do you think that the provision of machinery and equipment was appropriate with regard to quantity, quality and timing, etc.?

(一部複数回答あり)

	Very appropriate	Appropriate	Not appropriate	No answer
Kind of equipment	1	3	0	3
Quantity of equipment	0	4	1	3
Timing of provision	0	3	1	3

Comments:

- ◆ Generally the project did not pull big equipment. The office facilities to strengthen capacity of TVET MOE were appropriate and duly made use.
- ◆ In a very few of the training providers there was a shortage of equipment. To mention Even Plumbing Training centre.

4.3 Do you think that training of counterpart personnel in Japan were appropriate?
--

	Very appropriate	Appropriate	Not appropriate	No answer
Number of trainee	0	2	1	4
Timing of training	2	1	0	4
Duration of training	1	1	1	4
Contents of training	2	1	0	4

Comments:

- ◆ It was well thought of. The training was valuable. Trainees benefited by the exposure to Japanese technological advancement. The project management course given to one counterpart was directly related to the Project.
- ◆ Seeing is believing. So I think it is better if can be increased the number of trainees and the duration of the training.

4.4 Do you think that training of counterpart personnel in Uganda were appropriate?
---

	Very appropriate	Appropriate	Not appropriate	No answer
Number of trainee	3	2	1	1
Timing of training	2	3	1	1
Duration of training	1	1	4	1
Contents of training	4	2	0	1

Comments:

- ◆ This was done with discussion among the parties.
- ◆ The training was advantageous to our staff. I wish this continues for the coming some years. It has helped, those who took the training, improve their capacity of teaching.
- ◆ The duration was very short to cover the contents of the training.
- ◆ The number of trainees at a time should have been more because the trainers were exceeding the trainees in number. That means there was no efficiency in the use of human and financial resource. The contents of the course could not be finished appropriately within the given time.

## Eritrean Inputs

4.5 Do you think Eritrean inputs for the Project were appropriate?

		Very appropriate	Appropriate	Not appropriate	No answer
Counterpart personnel	Number	2	5	0	0
	Capacity	2	5	0	0
Administrative and supporting staff	Number	0	6	0	1
	Quality	0	5	0	2
Budgetary allocation	Amount	1	3	0	3
	Timing	1	3	0	3

Comments:

- ◆ Obviously it is us at the end of the day who benefit out of the Project. We placed the best out of what we have.
- ◆ I do not think the budgetary allocation was appropriate for understood reasons. But the ministry has played a good role in accommodating working place for the JICA staff, using our institutions freely for training, in coordinating programmes ...etc. If we calculate it in terms of money it is estimated very high.
- ◆ I have no idea of the budget allocated.

4.6 Are there any major factors that facilitated and/or hampered the efficiency of the Project?

### Facilitating Factors:

- ◆ Dedication of all parties concerned be it Japanese side as well as Eritrean side.
- ◆ Availability of fund from JICA- Nairobi in timely when requested..
- ◆ The factors that I mentioned in point 3.1.

### Hampering Factors:

- ◆ Luck of fuel hampered travel to Project site. This was inevitable as it was affecting all the economy.
- ◆ Recruitment of Trainees
- ◆ Shortage of project Staff

## **5. Impact**

5.1 Please describe 1) skills, knowledge and lessons learned from the Project and 2) how MOE will utilize these in future.

- ◆ By now the TVET MOE has acquired good command in project formulation and execution. In the future the Moe is ready to conduct similar skills training in the private training providers as well as in its institutions.
- ◆ Preparation of short courses in a short time with fewer budgets, flexibility in training provision, continuous assessment of projects, data management system, negotiation and contract making with training providers ...etc
- ◆ The ministry will use this as guide line in the preparations of similar projects.
- ◆ Other than the knowledge and skills gained by the direct beneficiaries of the project (the demobilized soldiers) some teachers from technical schools and staff of TVET department & NCDRP were also indirect beneficiaries from the project. The training of Demobilized soldiers or other sectors of the Eritrean people would be continuous and thus MOE will use those knowledge and experience gained in such endeavors.
- ◆ The project was helpful in widening the knowledge of the NCDRP staff especially on project planning. The training program in Uganda was especially useful. The relevant knowledge and skills acquired will be utilized in the regular NCDRP functions.
- ◆ The project was helpful in widening the knowledge of the NCDRP staff especially on project planning, implementation and feedback collection from the trainees after the training program completed.

5.2 Is the Project producing any other positive/negative effects/impact? If yes, please describe below.

Comments:

- ◆ The short life of the project raises some questions. Is giving training to only 400 demobilized soldiers adequate?
- ◆ How to Organize and Plan a Training Programme.
- ◆ This can be easily observed from the numbers trained through the program. No doubt the impact will be seen in the coming few years. To say the least a number of DS are able to make a living from the training program.
- ◆ Even though a number of trainees are making a better life using the skills they acquired from the training, the general impact will be seen in the coming few yea

## 6. Sustainability of the Project

6.1 Capacity Development of the Counterpart

How much capacity do you think TVET Department of MOE has developed to implement the basic skills training? Please mark "0" in the box which is the most similar to your opinion.

	Very much	Well	a little	I do not know	No answer
Needs assessment and planning of courses	0	6	0	0	1
Negotiation and contract making with providers for courses	1	5	0	0	1
Recruitment of trainees	0	3	2	0	2
Monitoring of courses	2	4	0	0	1
Follow-up study on employment situation of graduates of training courses	0	4	2	0	1

Comments/Reasons:

- ◆ Recruitment and follow-up was not directly done by the Ministry.

6.2 Do you think that equipment procured under the Project will be maintained appropriately after the completion of the Project?

- (4) Yes, I think so.
- (1) To some extent.
- (0) I don't think so.
- (2) No answer

Reasons/Comments:

- ◆ The Ministry will include the equipment in its master list. Maintenance of the equipment could be facilitated if some servicing parts be procured by the Project.

6.3. What are major factors that facilitated or hampered the sustainability of the Project, or could facilitate or hamper in future?

Comments:

- ◆ Availability of fund to run the training would be major factor for the sustainability of the Project.
- ◆ Budget
- ◆ Inadequate labor market information, Lack of motivation campaign to DS to participate in vocational training, Lack of improved relevance and linkages to employers and other stakeholders etc., may hamper the sustainability of the project in the future.

- ◆ The major factor that facilitates the sustainability of the project would be the determination of the government to effectively implement the goals of the NCDRP and the financial capacity of the government may be a constraint.

### **7. Project implementation process**

7.1 Have Joint Coordinating Committee meetings been functioning well in terms of timeliness, appropriateness of agenda, and problem solving?

- (5) Functioning very well.
- (1) Functioning to some extent.
- (0) Not functioning well.
- (1) No answer

Comments:

- ◆ There was no very urgent need for the JCC to convene often. The experts, the counterparts and other stakeholders do not need much formalities to rectify difficulties etc. The one time in a while meeting of the JCC was helpful to rap up on going activities.

7.2 Periodical or regular meetings among Eritrean counterparts and Japanese experts are functioning well for information sharing about progress the project activities?

- (6) Functioning very well.
- (0) Functioning to some extent.
- (0) Not functioning well.
- (1) No answer

Comments:

- ◆ There is no formalities in this. Any one can meet any body without advance notice. There was no inhabitation from any side.

7.3 How do you evaluate the communication among project staff including staff of TVET Department, NCDRP and Japanese experts?

- (3) Very good.
- (3) Good.
- (0) Not good.
- (1) No answer

Comments:

- ◆ The Project proved that a tripartite inter-action between MOE, NCDRP and JICA could be effective.

### **8. Rehabilitation Progress of Demobilized Soldiers** <この設問は、NCDRP所属カウンターパートのみ対象>

Please give any comment and opinion on the Project, especially about issues of and lessons learned through the Project or important aspects or activities for the remaining period of the Project (up to 14 June 2007).

- ◆ The project was well implemented. There were some minor coordination problems which should be avoided the soonest time possible. But we need to think beyond the training period in terms of helping the DS through start-up programs and input provisions.
- ◆ The project's planning and implementation strategy were very well. There was good relationship and communication atmosphere with the implementing partners. The cooperation between JICA, MOE and NCDRP was one of the facilitating factor for the fast trac of the project. As to my personal opinion such

project is very important for developing countries and I personally urge continuation (extension) of the project.

#### **9. Others**

Please give any comments or opinions on the Project, or important aspects or activities for the remaining period of the Project

- ◆ The time remaining is very short. I think it does not give room to talking. A lot can be done to help the needy. In this case those young men and women whose future can be determined by these short courses. So the Department staff will cooperate as ever.
- ◆ As I have mentioned in the previous points, this project has a positive impact in all aspects. So I wish this Project come with a wider scope than it is.

## 12. 受講生アンケート結果

### 受講生アンケート結果

本終了時評価に際し、実施中の研修コース受講生を対象にアンケート調査を実施した。その結果は以下のとおり。

- ◆ アンケート配布人数：159人
- ◆ 回答回収人数：154人（回収率96.9%）

コース名	美容師	金属	木工	配管	計
配布人数	66	37	36	20	159
回収人数	65	35	36	18	154
回収率	98.5%	94.6%	100%	90.0%	96.9

#### (1) コース内容・カリキュラムに対する評価

	回答数	(%)	
非常によい	91	59.1	
適切	27	17.5	
普通	33	21.4	
適切でない	3	1.9	
計	154	100.0	

#### (2) 教材・テキストに対する評価

	回答数	(%)	
非常に良い	79	51.3	
良い	27	17.5	
普通	40	26.0	
あまり良くない	8	5.2	
計	154	100.0	

#### (3) 機材・工具類に対する評価

	回答数	(%)	
非常に良い	75	48.7	
良い	35	22.7	
普通	37	24.0	
あまり良くない	7	4.5	
計	154	100.0	

#### (4) 研修内容に対する満足度

	回答数	(%)	
非常に満足	109	70.8	
ある程度満足	42	27.3	
あまり満足していない	3	1.9	
計	154	100.0	

#### (5) 講義内容の理解しやすさ

	回答数	(%)	
大変容易である	66	42.9	
容易である	68	44.1	
それほど容易ではない	20	13.0	
計	154	100.0	



